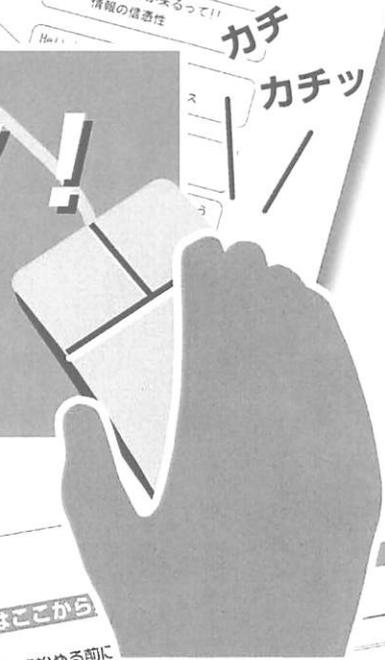


モラルにクリック!

～手軽に始められる
情報モラルガイドブック～



IT 行政 人材 研修 センター (テッド) 情報モラル研修教材 2005
<http://swab.nctd.go.jp/2005/index.htm>



優先的に指導すべき題材

順位	項目	内容	関連項目
1	Web ページ 検索サイト	体験から学ぶ	事例から学ぶ
2	Web 発信 地域別掲示板	意図しないページに行ってしまう	偶然出会う迷惑サイト
3	デマ 情報 アイドルの〇●が来るって!!	掲示板での情報発信	情報公開は慎重に
4	会員登録 誰でも当たる! 懸賞コーナー	情報の信憑性	うその情報かもしれない
5	交流 サイト 友だち探しチャット	個人情報の搾取	流用された個人情報
6	携帯 電話 思いがけない請求が来た!	チャットなりすまし	会ってはいけない出会い系
7	個人情報 素敵な恋人が見つかる	迷惑メール不正請求	ワン切り電話で不正請求
8	Hello! ファイル共有ソフトを使ってみよう	出会い系サイト	勝手に友だちの情報公開すると
9		コンピュータウイルス	いつの間にか感染源に
10		不正コピーなど	無断コピーは法律違反

情報モラル授業はここから

コンピュータを使用した学習を始める前に

① みんなのコンピュータ

② A みんなで使うコンピュータ

B 自分を守るパスワード

※上記の時間の展開例は、本書では紹介してありません。

○前ページでAに進んだ先生は...

① 情報の受信 (インターネットについて)

2 A ホームページについて考えよう

2 B よくないページが出たら

3 A けんせくページで調べよう

3 B それ、本当?

○前ページでBに進んだ先生は...

② 情報の発信 (メールについて)

4 A ホームページでつたるときは

4 B オリジナル作品を守る著作権

掲示板について考えよう

しっかり守る

考えよう

うら

第170号
研究紀要
釧路教育研究センター

序



釧路教育研究センター

所 長 吉 川 修

急速かつ激しい変化が進行する社会において、情報通信技術が目覚ましく進展し、日常生活のあらゆる活動の中で情報の重要性がますます高まっています。このため、学校でも家庭でもインターネットを通じて、多量の情報の中から必要な情報を瞬時に収集したり、自由に情報を送受信したりすることができるようになりました。

このような社会の情報化は、日常生活にも大きな変化をもたらしましたが、近年、手軽に使われるようになった携帯電話にかかわる問題やコンピュータ・ゲーム等による仮想現実との接触による問題、さらにはネット社会に存在する様々な犯罪や危険が子どもたちを待ち受けている現実も数多く指摘されております。

ネット社会に生きる力を子どもたちに育成するため、学校における情報モラル教育をより一層推進することが必要となります。

当教育研究センター教育工学研究専門委員会では、学校教育におけるコンピュータ活用の推進のため各紀要を2年ごとに発行してまいりました。今回は、「授業でクリック！」と題し、所員や専門委員による授業実践を基にした実践集を発行し、皆さんにご活用いただいております。

本紀要は、冒頭で述べた状況を踏まえ、平成17年度・18年度の2カ年の研究として、緊急な課題の一つとなっている「情報モラル」に焦点を当て研究を進めてまいりました。今回も、専門委員の先生方の授業を研修講座で公開し、参加していただいた先生方から貴重なご意見もいただきながら、紀要として取りまとめることができました。関係者が、皆さんの「情報モラル」の指導に少しでも役立つよう試行錯誤を繰り返しながら作成した紀要です。

各学校の先生方におかれましては、毎日の子どもたちとのかかわりの中で本実践をご活用いただければ幸いです。

終わりに、本研究紀要作成に当たりご指導・ご協力くださいました関係各位をはじめ、2カ年にわたり熱心な調査研究活動に取り組まれ、教材作成や指導案作成など実践授業に向けご準備をいただいた担当研究所員・研究専門委員の方々のご苦勞に心から感謝申し上げ、研究紀要発刊の挨拶といたします。

発刊にあたって



教育工学研究専門委員会

委員長 樋口 智 一

情報機器やネットワークの発展は私たちの生活をとても便利で豊かなものにしてきています。必要な情報はインターネットからパーソナルコンピュータや携帯電話等を使用し、手軽に入手することができます。また、掲示板、ブログといったホームページで自分の考え等を世界中に発信することもできます。携帯電話やPHSの国内ユーザーは1億人を超え、中学生はもちろん、小学生にまで携帯電話を所持している子が出てきていることからわかるように、ネットワーク社会は大人だけではなく、子ども達にも広がりを見せています。

しかし、その便利さを悪用した犯罪や、使い方を誤りトラブルに巻き込まれたりすることも増えています。また、メールやチャットといった文字だけのコミュニケーションで、自分の意図が充分相手に伝わりにくいことから、人間関係の崩れを招き痛ましい事件につながったケースもあります。情報モラルの育成の必要性がいわれている中、情報化が急速に発展してしまった分、大人も子どももそれに対応し切れていないのが現状です。

これまで釧路教育研究センターの教育工学研究専門委員会では、教育現場における授業や校務でのコンピュータ活用の推進を目指して、研究紀要『トライパソコン1』から『トライパソコン5』を発刊いたしました。さらに2004年度には、コンピュータを活用した授業の実践を積み重ね、研究紀要『授業でクリック!』を発刊いたしました。

2005年度からは、この情報化社会に生きる子ども達を犯罪から守るため、情報モラルに関する研究を進めてまいりました。研究にあたっては、市内のどの学校においても、特別な準備やスキルがなくても、誰でも簡単に実践できるようなものを作り上げていこうと考えました。小学校では全校に導入されたソフトを、中学校ではインターネット上に公開されている教材を、それぞれ生かした指導計画や授業展開例を作成し、3本の授業実践も行いました。限られた時間での研究ですので、必ずしも十分といえる内容ではないかもしれませんが、子ども達を守るためにも、多くの先生方の実践のお役に立てれば幸いです。

終わりに、本研究紀要作成に対して、多くのご助言やご示唆、数多くの情報を提供していただいた皆様のご協力に心より感謝申し上げ、発刊にあたっての挨拶と致します。

目 次

- ◇ 序 釧路教育研究センター 所長 吉川 修
◇ 発刊にあたって 教育工学研究専門委員会 委員長 樋口 智一

1. 理論編..... 1

2. 情報モラル指導計画..... 7

3. 情報モラル授業展開例

小学校編..... 13

中学校編..... 43

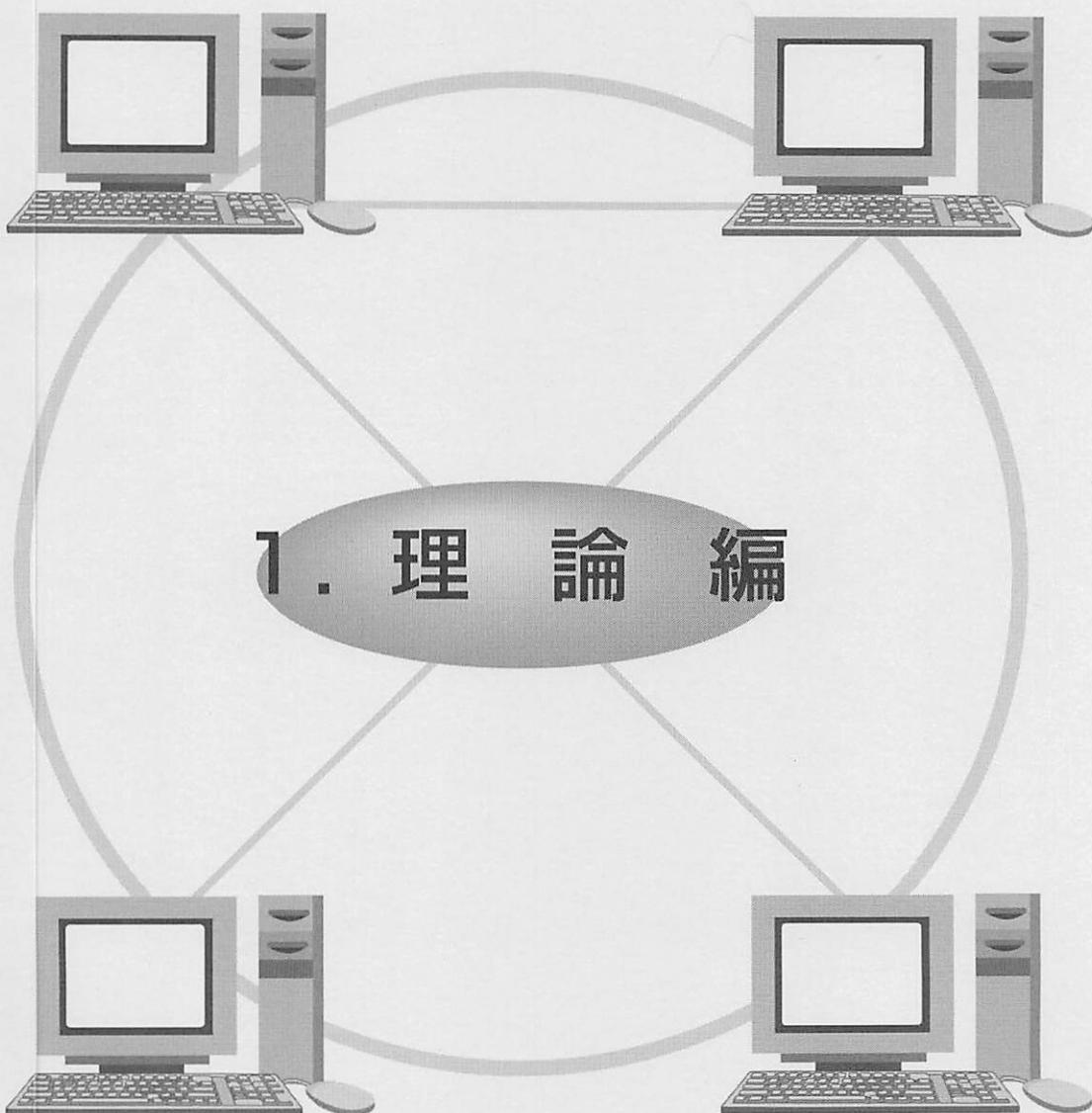
4. 授業実践例

チェーンメールの対処の仕方..... 67

“なりすまし”（他人の名前での書き込み）について..... 71

電子メールによるトラブル..... 75

- ◇ おわりに 教育工学研究専門委員会 副委員長 森 健一郎



1. 理論編

1. はじめに

近年の情報化社会の発展により、インターネットなどの情報通信ネットワークも急速に発展してきました。その結果私達はあらゆる分野の情報を容易に手に入れることができるようになったり、世界中の人とリアルタイムにコミュニケーションがとれたりするようになりました。

しかし反面、面識のない人と容易に知り合うことがあったり、過剰な暴力や性の情報が簡単に入手できるなどの影の部分が存在し、子ども達が犯罪やトラブルに巻き込まれる危険性も増加傾向にあります。

子ども達には、こうした特性を持つ情報化社会において、適正な活動を行うための基となる考え方と態度を育んでいくことが非常に大切です、正しい情報モラルを身につけるための指導を私達教師は心がける必要があります。日常生活におけるモラルは、家庭でのしつけや地域社会での活動などでも身につけることができました。しかし急速に発達する情報化社会において、情報モラルに関する教育をどのように進めたらよいかわからない家庭が多いのが実態です。それは情報モラルが、子ども達同様に、保護者もこれまで学んできた事柄ではないからです。しかしながら、子ども達は間違いなく情報化社会へ足を踏み入れています。まさに適切な情報モラルを身につけさせる必要があります。その役割は、現状では学校が担っていかざるをえません。

私達教師も情報モラルについて学んできているわけではなく、ネットワーク社会に十分対応しきれていない部分もあります。どうしても難しそうなイメージも拭いきれないと思います。そこで教育工学専門委員会では、釧路市内のどの小・中学校においても手軽に実践できるように、小学校においては「ジャストスマイル3@フレンド」(JUSTSYSTEM)の情報モラル実践教材(市内全小学校に導入済み)を、中学校においてはインターネット上で公開されている「情報モラル研修教材」(<http://swweb.nctd.go.jp/2005/index.htm> 独立行政法人教員研修センター)をそれぞれ用いた展開例をご提案します。ここで紹介するものが万能ではありませんが、先生方が授業をされる上でのヒントになればと思います。

情報モラルとは・・・

情報化社会で適正な活動を行うための 基となる考え方と態度

インターネット活用のための情報モラル指導事例集(財団法人コンピューター教育開発センター)より

2. 子ども達を犯罪から守るために

情報モラルとは、前述のとおり「情報化社会で適正な活動を行うための基となる考え方と態度」です。情報モラルの指導を考えるに当たって、私達は子ども達を犯罪から守るための指導が最優先と考えました。知らないうちに子どもが損害を受けるような事態にならないための知識を身につけさせる必要があります。さらに「犯罪から守る」という言葉の意味の中には、被害者となる場合はもちろん、逆に加害者になってしまうケースも想定されます。

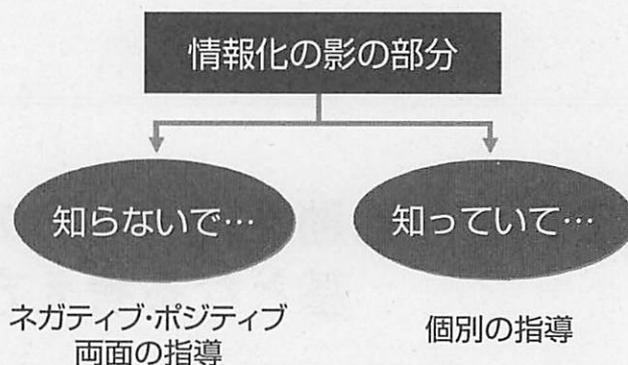
知らずに加害者になってしまう例

- ・自分のホームページで、人気の歌謡曲を公開することでレコード会社に損害を与えた。
- ・よかれと思ってチェーンメールを大量に送信し、サーバーに負担をかけた。
- ・ネットゲームを楽しんでいる友人のIDとパスワードを知り、自宅でそのIDを用いてゲームを楽しんだ。

インターネットでは、子ども達であっても一般社会人と同様の扱いを受ける場面も少なくありません。また、日常生活において軽いミスと見なされることでも、ネットワークを介すると影響する範囲が全世界に広がることから、大きな被害を与えることとなります。場合によっては犯罪性が高く、法に触れる場合もあります。「知識を増やすことで寝た子を起こすことになるのではないか？」と考えられなくもありませんが、そのような事態にならないためにも正しい知識やモラルを子ども達に身につけさせることは大変重要と言えます。

また、影の部分の違法性を知っていて、故意に他人に損害を与えるケースもあるかもしれません。その際は授業で指導するのではなく、絶対にやってはいけないことなのだと、強い姿勢で個別指導に当たる必要があります。

しかし情報化の影の部分ばかりに意識が向きすぎると、子ども達に不必要な恐怖感や拒否感を与えることになりかねません。影の部分とあわせて、情報化の便利な光の部分も子ども達に伝えることが大切です。



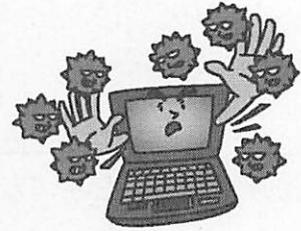
「犯罪から守る」という言葉の意味の中には、被害者となる場合はもちろん、逆に加害者になってしまうケースも想定されます。

3. 指導しておきたい5つの観点

教育工学専門委員会では、子ども達に指導しておきたい情報モラルを、5つの観点に分けて考えてみました。

①セキュリティ

不正アクセス*やコンピュータウイルスなどの被害はあとを絶ちません。これらの被害を防ぐために、自分のパスワードやIDをきちんと管理し、ウイルス対策ソフトを用いるなどのコンピュータセキュリティについての知識をもつとともに、加害者にならないよう心がけさせたいものです。



※不正アクセスとは・・・他人のパスワードやIDを無断で使うこと。
他人の鍵で他人の家に入り込むことと同様です。

②ネットコミュニケーションの特性

直接顔を合わせて話すのと比べ、ネットワークを介したコミュニケーションでは意図していることが伝わりにくいことがあります。また顔が見えないことで、無責任な発言になったり、相手への配慮が欠けてしまうことがあります。それらのことで後々人間関係の崩れにつながることもあります。情報を発信する際には、相手に不快な思いをさせたり、誤解を招いたりするような表現がないかよく確かめてから発信するよう指導しましょう。何より、相手がいる以上、日常生活と同じ様に、エチケット（ネチケツ）に留意してコミュニケーションをとる必要があります。

③著作権

著作物には著作権があり、無断で使うことは著作者に損害を与えることになり、法で罰せられる場合があります。インターネット上には、文章や画像、動画などの情報がたくさんあり、子ども達が無意識に著作権を侵害してしまう場合もあります。著作権についての正しい知識を持ち、ルールを守って情報を扱えるよう指導しなければなりません。

④信頼性・信憑性

インターネット上にはたくさんの情報がありますが、中には正しい情報なのか疑わしいものや、発信者が別人格になりすましているものなどがあり、簡単に信頼できないことがあります。情報を比較したり、公的なホームページから情報を得たりするなどして信頼性を確認できるように指導しましょう。

⑤プライバシーの保護

氏名や住所・電話番号などの個人情報を無断で公開することはプライバシーの侵害にあたります。また、アンケートや学級連絡網などで自分の個人情報が流出すると、思わぬ被害に遭うこともあります。インターネット上でだけでなく、個人情報はむやみに発信しないよう指導しましょう。他人の個人情報を無断で発信することは犯罪です。



観 点	指導内容 (問題点・犯罪性)
①セキュリティ	◎不正アクセス ・パスワードやIDの管理 ◎ウイルス ・感染による加害の危険性 ・ウイルスソフトの必要性
②ネットコミュニケーションの特性	◎メール, チャットの利用 ・文字だけの伝わりにくさ ・匿名性による無責任 ・うそ→人間関係のくずれ ◎ネチケット ネット上の基本的なルールとマナー
③著作権	◎著作権に対する正しい理解 ・情報の無断利用 ・ルールを守った活用の仕方
④信頼性・信憑性	◎ホームページの内容について ・情報の信頼性の確認の仕方 ◎コミュニケーションにおける信頼性 ・メール, チャット, 出会い系のサイト (なりすまし)
⑤プライバシーの保護	◎個人情報 ・自分の情報を注意をして出す アンケートなど 信頼できる相手なのか? ・他人の情報を出さない。 個人情報の流出, 連絡網, 守秘義務

実際に子ども達に指導していく場面においては、どの観点の内容なのかを明確に分けることは難しく、複数の観点にまたがりながら指導してことになります。しかし、1時間の授業の中で多くの観点到に広げすぎると、ねらいが曖昧になるので、指導したいことをしっかりと絞る必要があります。また、現在はこの5観点ですが、情報化社会の発展に伴ってさらに増えたりすることも考えられます。

**指導の5観点をもとに指導事項を絞って、
広げすぎないことが重要。**

4. 情報モラルと道徳

情報モラルの指導をする際には、道徳的判断と矛盾しているように感じる場合があります。次のように人の善意に訴えかけてくるようなチェーンメールの例があります。

例) このようなメールが届いたら？

友だちが交通事故に遭いました。手術が必要なのですが、輸血に使う血液が足りません。A B型の血液の方は、○月○日に○○病院まで来てください。またこのメールをたくさんの人に送信してください。皆さんのご協力、よろしくお願いいたします。



人助けだもの、私はこのメールなら知り合いに送信した方がいいと思います。

でも本当かどうかわからないよ？



道徳的な観点から見れば、「メールを信じて協力してもいい」と判断する子どもが多いはずで、こういった子ども達の考え方は素晴らしく、その道徳的価値を否定してはいけません。しかし発信源がはっきりせず、文中に「たくさんの人に送信してください」というキーワードがあるのでこれはチェーンメールであり、送信してはいけないものです。信じて多くの人がたくさん人のメールを送信するとサーバーに負担がかかることとなります。また情報が途中で書き換えられて回っている可能性もあり、信用できる内容かどうかわかりません。本当かどうか確認の電話を病院に入れたりすることも、病院の業務の妨げになることとなります。

情報モラルの授業においては、正しい判断ができるような指導をしておかなければ、やはり子ども達が被害者や加害者になりかねません。

情報モラル指導に関わる部分と道徳的な部分は、混同して考えてはいけません。

5. 学習としてのモラルと実践としてのモラル

モラルの授業以外でもそうですが、同じ内容の学習であっても受け手側の実態によっては、反応が大きく変わることがあります。例えばメールのトラブルについての授業を行ったとします。

A学級～大半の子どもがメールについてよく知りません。



メールは文字だけで伝えるものだから、こんなトラブルがあるんだね。将来使うときは気をつけないといけないなあ。

B学級～ほぼ全員が携帯電話を所持して、日常的にメールを利用しています。

そういえば私もこの間、同じような失敗をしたなあ。これからもメールは気をつけて使わなきゃいけないなあ。



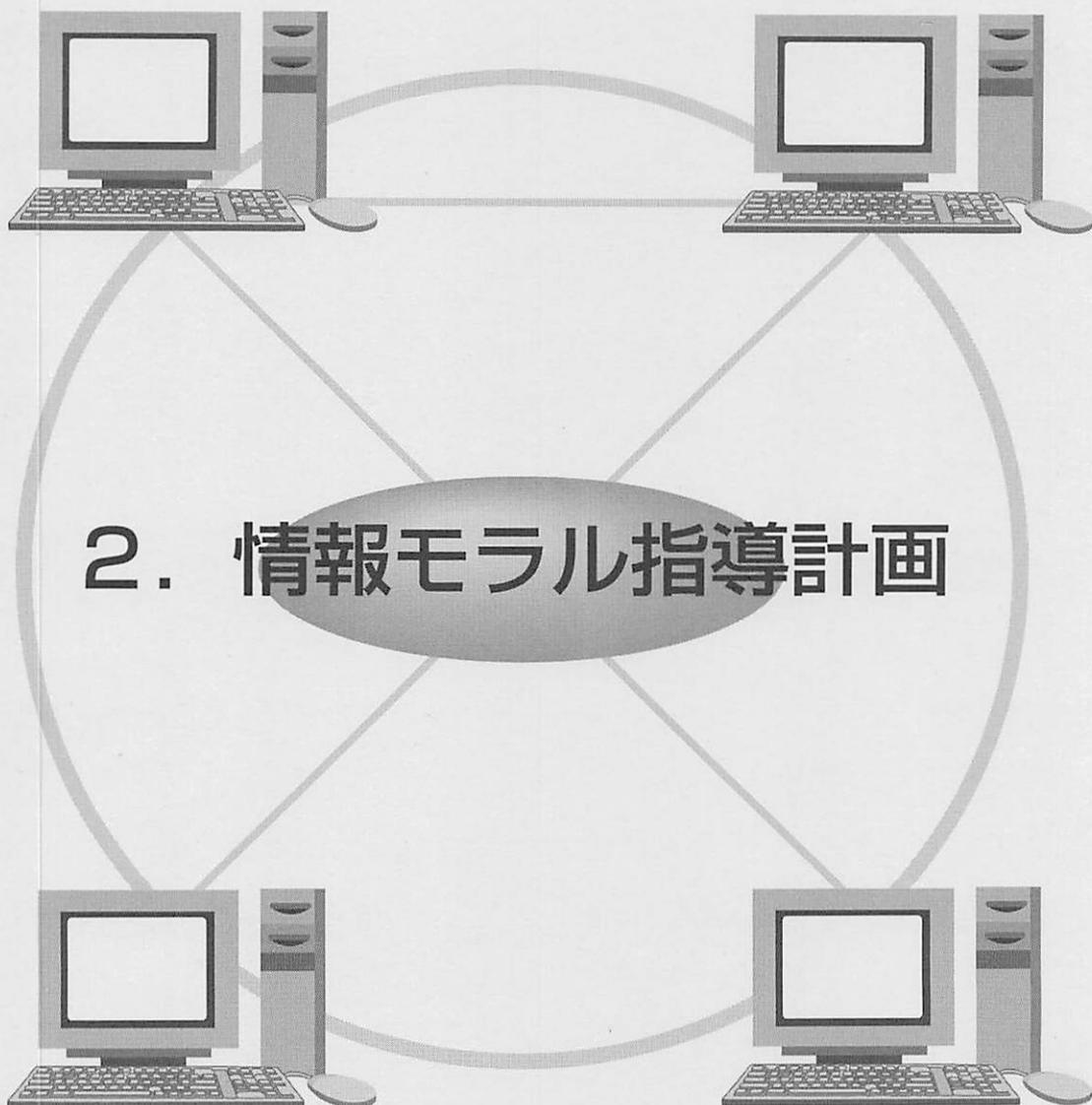
A学級においては、これまで余り経験のないメールについて学習することで、いつかメールを使うための予備知識を獲得したことになります。B学級においては、メールのトラブルについて学習することで、自分や友人の経験を振り返り、今後の利用について深く考える結果となります。

A学級で行われたような授業を「学習としてのモラル」、B学級で行われたような授業を「実践としてのモラル」と私達は考えています。同じ題材を扱うとしても、学年やクラスの実態によっては、教師側の関わり方や、教材の提示の仕方、説明にかける時間などが変わってくると考えられます。

学習としてのモラルに重点を置くのか、実践としてのモラルに重点を置くのかを考えることが大切です。この後「3. 情報モラル授業展開例」で展開例を紹介していきますが、自分の学級の実態を充分配慮して、よりクラスにあったアレンジをすると効果的です。

【「学習としてのモラル」から「実践としてのモラルへ」(メール編)】

	小5	小6	中学生	高校生
	(学習としてのモラル)		→	(実践としてのモラル)
使用の日常化	少	→	→	多
保護者の管理	強	→	→	弱
技術指導	大	→	→	小
モラル指導	中	→	→	大
トラブル発生	小	→	→	大



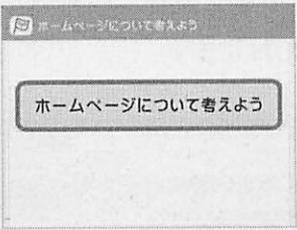
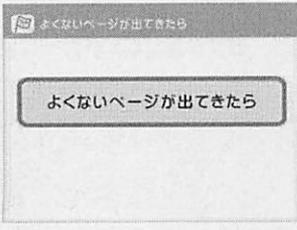
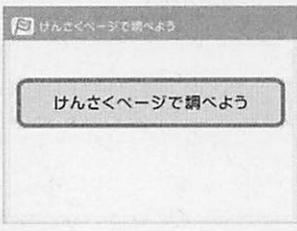
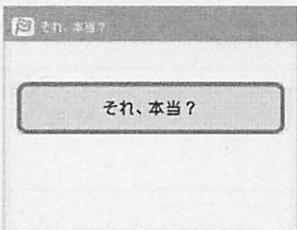
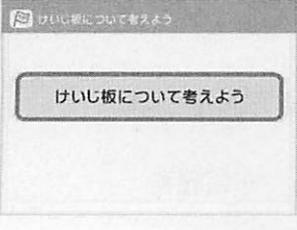
情報モラル指導計画

次ページから紹介されているものが、情報モラルの指導計画です。小学校は市内全学校に導入されている「ジャストスマイル3@フレンド」(JUSTSYSTEM)を、中学校はインターネット上で公開されている「情報モラル研修教材2005」(テッド)を、それぞれ活用する方針で作成いたしました。また、指導計画の表にある「観点」というのは、下の表に対応しております。



観 点	指導内容 (問題点・犯罪性)
①セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ◎不正アクセス <ul style="list-style-type: none"> ・パスワードやIDの管理 ◎ウイルス <ul style="list-style-type: none"> ・感染による加害の危険性 ・ウイルスソフトの必要性
②ネットコミュニケーションの特性	<ul style="list-style-type: none"> ◎メール、チャットの利用 <ul style="list-style-type: none"> ・文字だけの伝わりにくさ ・匿名性による無責任 ・うそ→人間関係のくずれ ◎ネチケット <ul style="list-style-type: none"> ネット上の基本的なルールとマナー
③著作権	<ul style="list-style-type: none"> ◎著作権に対する正しい理解 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の無断利用 ・ルールを守った活用の仕方
④信頼性・信憑性	<ul style="list-style-type: none"> ◎ホームページの内容について <ul style="list-style-type: none"> ・情報の信頼性の確認の仕方 ◎コミュニケーションにおける信頼性 <ul style="list-style-type: none"> ・メール、チャット、出会い系のサイト(なりすまし)
⑤プライバシーの保護	<ul style="list-style-type: none"> ◎個人情報 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の情報を注意をして出す。 アンケートなど。信頼できる相手なのか? ・他人の情報を出さない。 個人情報の流出, 連絡網, 守秘義務

指導計画（小学校編）

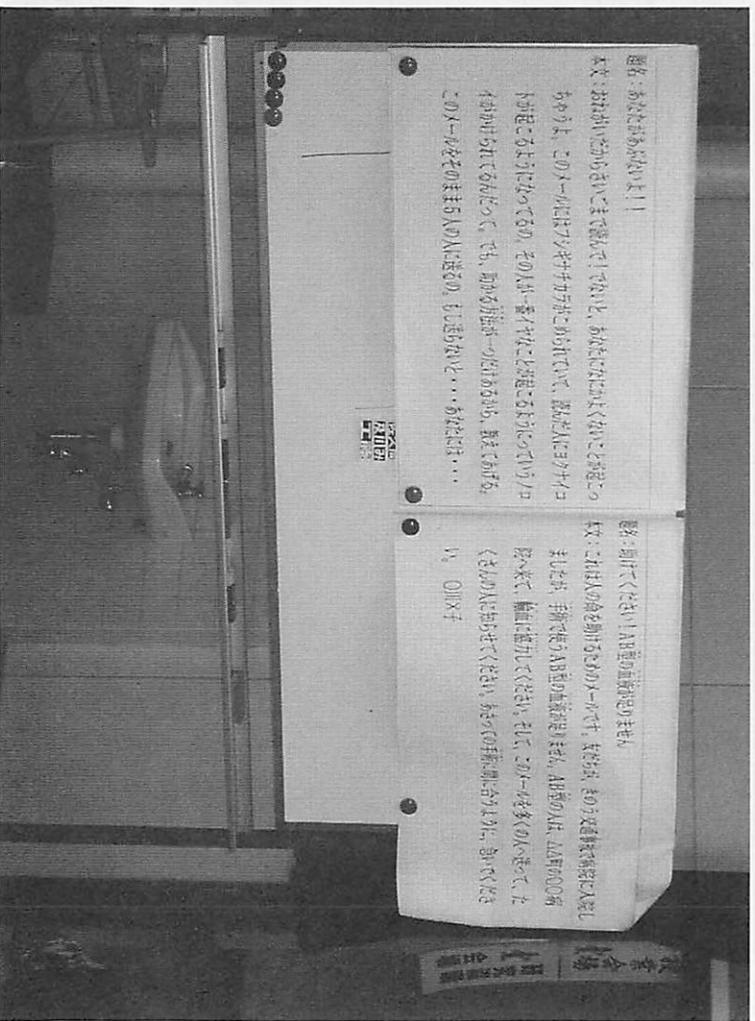
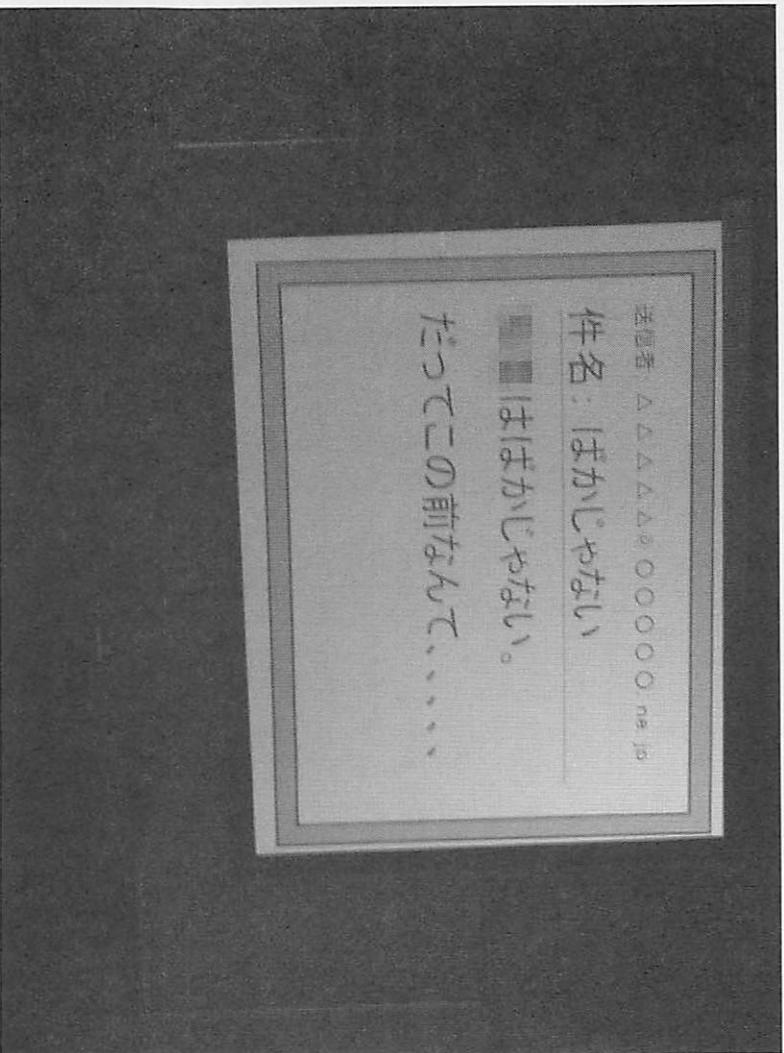
学年	題 材	時間	観点	ね ら い	学 習 の 流 れ (例)
中 学 年	2 A ホームページについて考えよう 	1	① ③ ④ ⑤	・ホームページのよさと特性について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ●スライド教材を示し、ホームページのよさと注意すべき点について説明する。 ●ワークシートやアンケートを使い、学んだ内容を確認する。
	2 B よくないページが出てきたら 	1	① ④ ⑤	・問題のある情報に出会ったときの対処法を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ●ウイルス体験メールを児童に送信してウイルス感染体験をさせる。 ●ワークシートやアンケートの質問に答えさせる。 ●スライド教材を示し、問題のあるページに出会ったときの対処法を説明する。
	3 A けんさくページで調べよう 	1	① ③ ④	・検索ページを使ってうまく調べるコツを身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ●スライド教材を示しながら、検索ページの働きと、使い方の説明をする。 ●子ども用の検索ページを使って、検索ページを使う体感を行う。 ●検索結果や感想を、ワークシートにまとめる。
	3 B それ、本当？ 	1	④	・ホームページの情報は、すべてが正しいとは限らないことを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ●ワークシートやアンケートの質問に答えさせる。 ●スライド教材を示し、ホームページの情報がすべて正しいわけではないことを説明する。
高 学 年	5 A けいじ板について考えよう 	1	② ④ ⑤	・掲示板のよいところ、気をつけるところを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ●スライド教材を示し、掲示板の特徴や気をつける点について説明する。 ●ワークシートやアンケートを使い、学んだ内容を確認する。

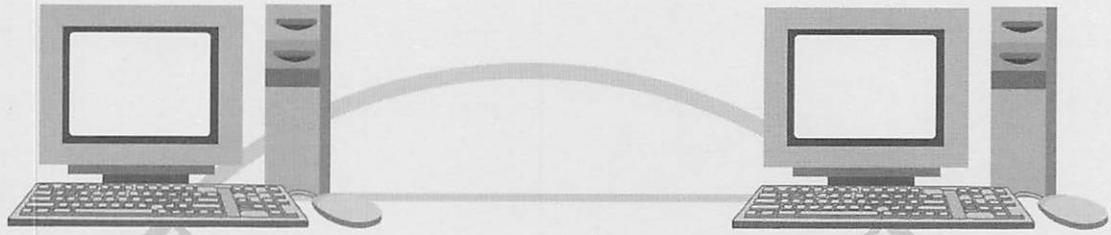
高 学 年	5 B 個人情報をしっかり守る	1 ⑤	・名前や住所などは、自分ひとりの判断で答えてはいけないということを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人情報を収集しようとするメールを児童に送信して、個人情報漏えい体験をさせる。 ● ワークシートやアンケートを使い、質問に答えさせる。 ● スライド教材を示し、個人情報についてのリスク・正しい対処法について説明する。
	6 A メールについて考えよう	1 ②	・メールの特性を知り、言葉で伝える難しさについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートやアンケートを使って、メールについての質問に答えさせる。 ● スライド教材を示し、メールの特性と言葉のすれ違いについて説明する。
	6 B チェーンメールについて考えよう	1 ② ④	・チェーンメールについて知り、正しい対処法を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ● スライド教材の前半を使い、チェーンメールの文面を示す。 ● ワークシートやアンケートを使い、各自で対処法を考えさせる。 ● スライド教材の後半を示し、チェーンメールの仕組みと正しい対処法について説明する。
	7 B めいわくメールがきたら	1 ① ② ④	・迷惑メールについて知り、正しい対処法を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ● スライド教材の前半を使い、チェーンメールの文面を示す。 ● ワークシートやアンケートを使い、各自で対処法を考えさせる。 ● スライド教材の後半を示し、チェーンメールの仕組みと正しい対処法について説明する。

指導計画（中学校編）

学年	題材	時間	観点	目標	学習の流れ	教材・資料	指導関連事項
1 学年	チェーンメール	1	②	無意味な電子メールを受け取っても削除して次へ送信しない意識をもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・不幸の手紙を提示し、受け取った時の気持ちを話し合う。 ・チェーンメールの対処の仕方を話し合う。 	・不幸の手紙	学級活動
	電子メールによるトラブル	1	②	電子メールでは特に自己責任において慎重に情報発信しなければいけないことを理解し、送信前に読み返すなどの態度を自ら考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・文字情報だけだと、意味が正確に伝わらないことを知る。 ・他人からきたメールをむやみに転送することでトラブルに発展することを知る。 	・サンプルメール	学級活動
	なりすまし	1	④	事例から、ネットワークの仕組みを再確認し、ネットワーク上での自己責任について考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に置き換えた時に、起こりうる可能性について話し合う。 	・サンプルWeb ページ	学級活動
2 学年	著作権・知的 所有権	1	③	日常生活の中で起こりうる著作権や知的所有権の侵害についてアンケートを取り、自分の意識を確認できる。また、無断で他人が作った絵や写真を使ってはいけないことを知り、著作権や知的所有権を尊重することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、友達の作品や音楽・ビデオテープのコピー等に対する意識と著作権・知的所有権の認識を調査する。 ・CD-ROMのゲームを通して、著作権や知的所有権を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・著作権や知的所有権意識のアンケート ・著作権協会 CD-ROM『知的所有権とは何だ?』 	学級活動

2 学 年	不正確な情報	1	④	メディアから伝わる情報のすべてが正しいと思わず、多くの情報と照らし合わせ、正しい情報を得ようとする考え方を身につけることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天気予報を例に、様々な情報と新聞記事の情報との違いを比べる。 ・ 情報が違う理由を話し合う。 ・ 正しい情報を得るための方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット ・ 新聞の天気予報 	学級活動
	コンピュータウイルスへの対応	1	①	情報を取り入れる際に、コンピュータウイルスに関する知識と対策の重要性を知り、慎重に行動することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウィルスに侵入されたWebページを示す。 ・ ハイテク犯罪について実態を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウィルス 画面 ・ ウィルス 被害のニュース 	技術家庭
3 学 年	不正アクセス	1	①	不正アクセスの事例からネットワークの匿名性を理解し、自分の予想しない目的に利用される可能性がある危険性について知り、自己管理ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞記事を提示し、不正アクセスについて感想を交流する。 ・ ネットワークへ参加する心構えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不正アクセス行為の記事 ・ 不正アクセス行為禁止に関する法律 	技術家庭
	ネット懸賞の落とし穴	1	⑤	懸賞やアンケートに隠された意味を知り、企業の懸賞やアンケートに答えることを慎む意識をもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ サンプルのWebページやメールを提示し、話し合う。 ・ 懸賞の仕組みを考え、ネット上の懸賞の目的を話し合う。 ・ ネットによる被害に合わないために注意することをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サンプル Web ページ ・ 被害を伝える新聞記事 	技術家庭
	ネット商品の購入	1	②④	インターネットの管理状況から、ネット販売は、すべて個人の責任で行われることを理解し、正当な手続きの裏側に潜む利便性を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ サンプルWebを見て感想を交流する。 ・ 無計画な購入やクレジットカードの扱い方も考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サンプル Web ページ ・ ネット商品の注意事項 	技術家庭





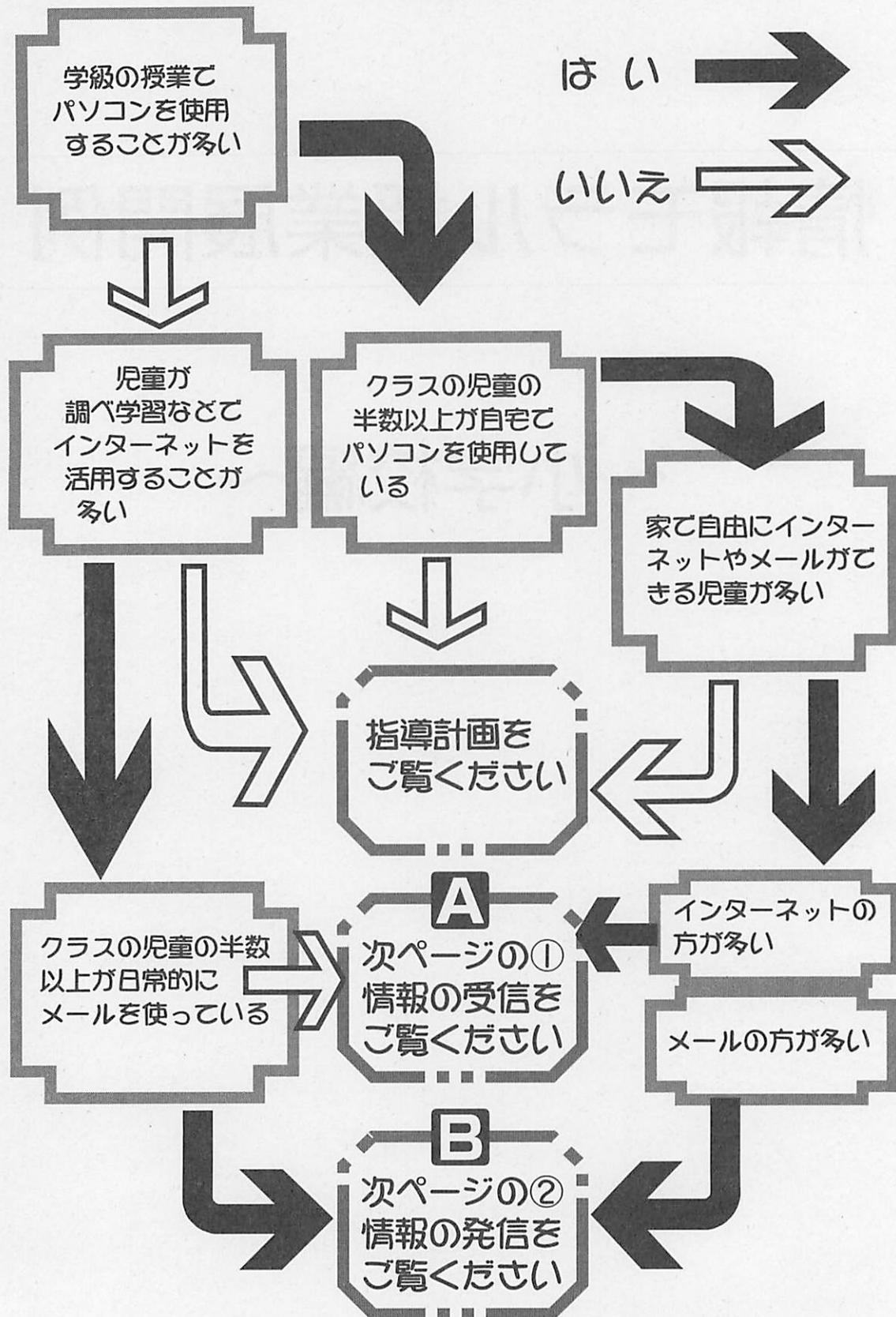
3. 情報モラル授業展開例

情報モラル授業展開例

～小学校編～

情報モラル授業をする前に…

☆情報モラルの実践を行う前に、学級の実態にマッチしたプログラムを探してみましょう。



情報モラル授業はここから始めませんか？…

○パソコンを使用した学習を始める前に…

入門	みんなのコンピュータ
1A	みんなて使うコンピュータ
1B	自分を守るパスワード

※上記の時間の展開例は、本書では紹介してありません。

○前ページでAに進んだ先生は…

①	情報の受信（インターネットについて）
2A	ホームページについて考えよう
2B	よくないページが出てきたら
3A	けんさくページで調べよう
3B	それ、本当？

○前ページでBに進んだ先生は…

②	情報の発信（メールについて）
4A	ホームページでつたえるときは
4B	オリジナル作品を守る著作権
5A	けいび板について考えよう
5B	個人情報をはっきり守る
6A	メールについて考えよう
6B	チェーンメールが来たら
7A	メールの仕組みを知っておこう
7B	めいわくメールが来たら

☆パソコンではなく携帯電話についての学習を始めたい先生は…

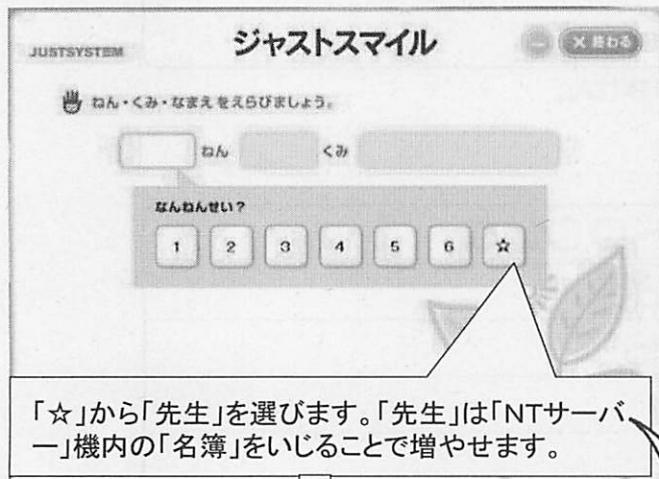
その他	携帯電話について
8A	携帯電話について考えよう
8B	携帯電話はマナーを守って

※上記の時間の展開例は、本書では紹介してありません。

使ってみよう！情報モラル実践教材！

市内全ての小学校に導入されている「ジャストスマイル3@フレンド」。その中でも情報モラル指導に役立つ「実践モラル研修教材」の基本的な使い方について説明します。先生方の実践に生かしていただけましたら幸いです。

まずは「先生」でログイン！



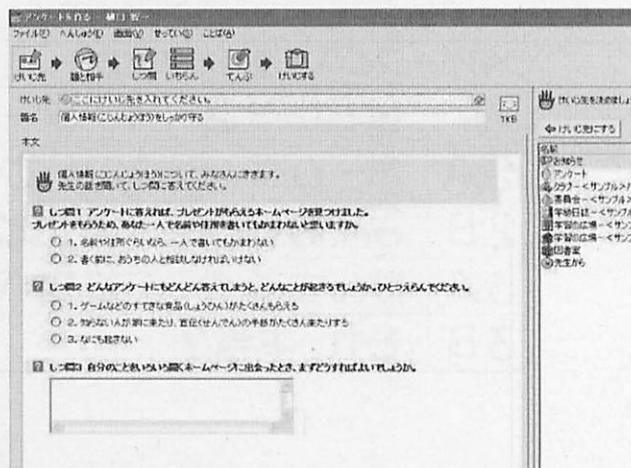
「☆」から「先生」を選びます。「先生」は「NTサーバー」機内の「名簿」をいじることで増やせます。



「先生」でログインすると、「つたわるねっと」のメニュー画面に6つのアイコンが増えます。一番右側のアイコンが情報モラル実践教材です。

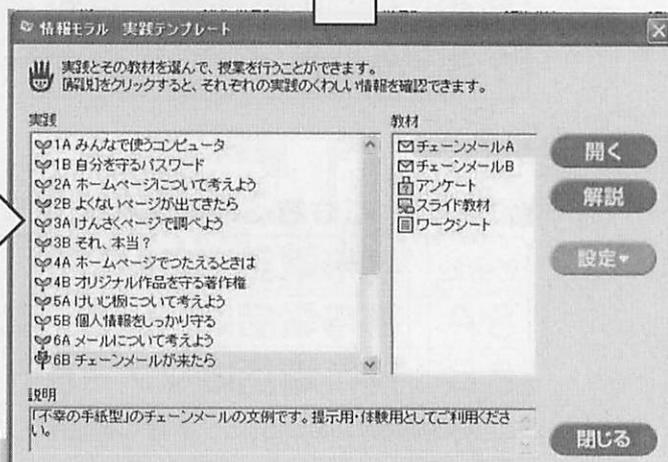
アンケートを使おう！

「アンケート」をダブルクリックすると、その教材用に用意したアンケートが立ち上がります。



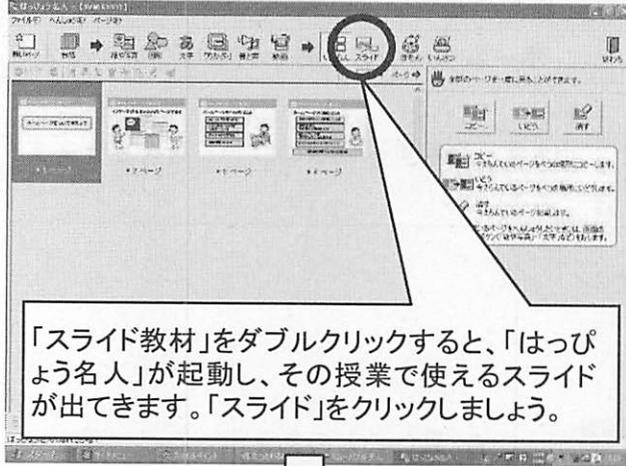
授業の前にあらかじめ「けいじ」しておくことで、そのアンケートを授業の中で活用することができます。集計状況や、他のパソコンからの書き込みなども、全てのパソコンから確認することができ、話し合いの場面でも大いに活用できます。

→詳しい使い方は「3B・それ本当？」の中で紹介してあります。

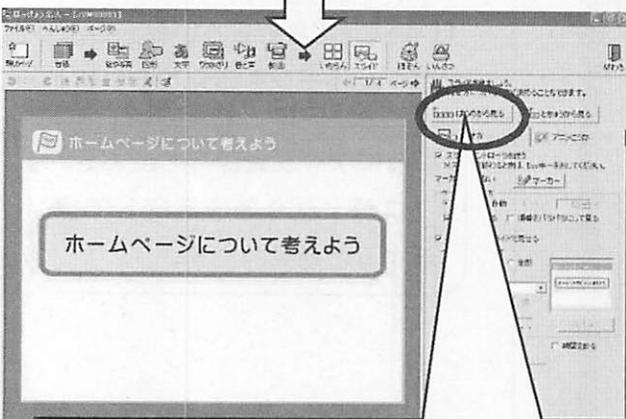


すると「実践テンプレート」という画面が出てきます。実践したい項目を選びましょう(本書はここにあわせて作ってあります)。

スライド教材を使おう！

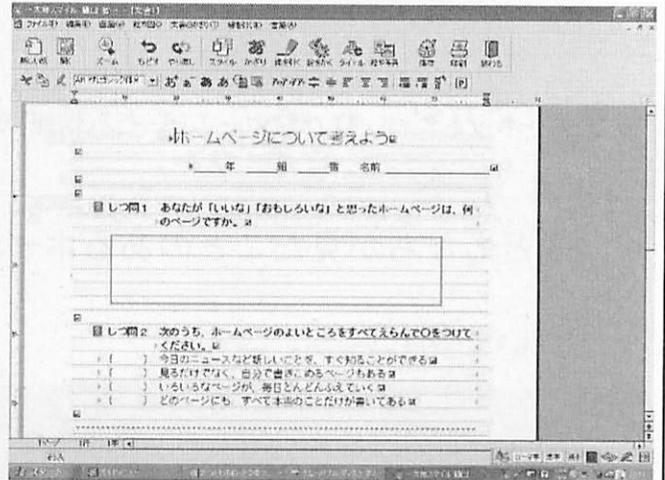


「スライド教材」をダブルクリックすると、「はっぴよう名人」が起動し、その授業で使えるスライドが出てきます。「スライド」をクリックしましょう。



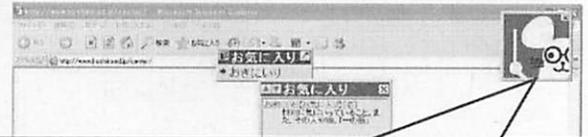
「はじめから見る」をクリックすると、スライドが画面いっぱいに広がります。右矢印キーで2枚目のスライドに切り替わります。

ワークシートもあります！



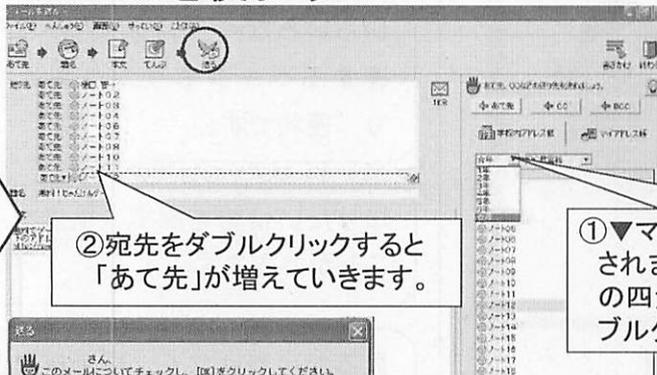
「ワークシート」をダブルクリックすると、「アンケート」と同じ項目のワークシートが起動します。「ワープロ」で編集できる形式ですので、使いやすいようにアレンジすることも可能です。

頼れる味方「ドクターマウス！」



ジャストスマイルのメニュー画面にある「ドクターマウス」のアイコンをクリックすると、ドクターマウスというソフトが起動します。ドクターマウスが起動している状態で、読めない言葉にマウスポインタ(矢印)をあてると、その読み方が表示されます。また同時に出てくる辞書のマークをクリックすると、その意味まで表示されます。これはジャストスマイル以外のソフトでも有効ですから、調べ活動のときなどでも心強い味方になります。

メールを使おう！



②宛先をダブルクリックすると「あて先」が増えていきます。

5Bの「個人情報収集メール」や6Bの「チェーンメールA」などをダブルクリックすると、その教材用に用意されたメールが立ち上がります。

→実際の使用例は「5B・個人情報をしっかり守る」の中で紹介してあります。

①▼マークをクリックすると宛先の学年などが表示されます。名簿が作られている学年を選ぶと、下の四角に一覧表示されます。送りたい相手をダブルクリックしましょう。

メールを送信する前には、必ずこのメッセージが現れます。□にチェックを入れないと送信できません。

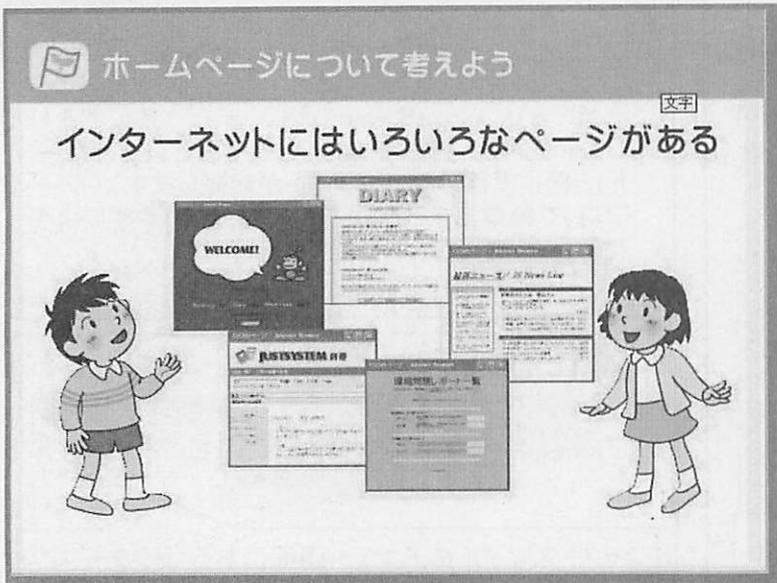
2A・ホームページについて考えよう

◎ 授業のねらい

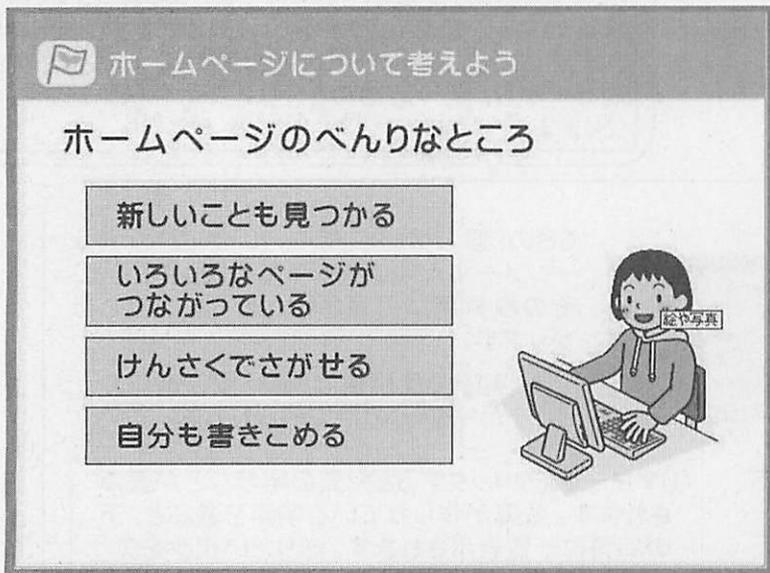
ホームページのよさと特性について考える。

インターネットには、様々なホームページ(情報)があって、よい点と注意すべき点について考えさせます。

1. 子どもたちが見たことのあるホームページについて話し合う。



2. ホームページの便利なところを話し合う。



◆ 見たことのあるホームページを出し合ひましょう。子どもたちが、「いいな」「おもしろいな」と思ったホームページを紹介し合ひます。

事前にデータを保存しておきプロジェクタ等を活用して提示すると効果的です。

◆ ホームページというメディア（伝え方）のよい点を話し合ひましょう。

最新ニュースや明日の天気などの新しいことも見つかります。

いろいろなページにつながり、関連するページもリンクされており、便利です。

知りたい情報を探す（検索する）ことができます。

見るだけでなく、掲示板などに自分で書き込めるページもあります。

3. ホームページの心配なところを学習する。

📄 ホームページについて考えよう

ホームページの心配なところ

- 本当ではないことも書いてある
- 漢字が多く、子どもには読みにくい
- ほしいページが見つからないときもある
- たくさんならべてくらべにくい



本などの方がべんりなときもある

◆ ホームページというメディア（伝え方）の心配なところを話し合いました。

本当ではないことも書いており、情報の中身が正しいかどうか、見る人が判断する必要があります。

大人向けのページが多いので、漢字が多くなりがちで、子どもにとっては読みにくいものもあります。最近では、子ども向けのホームページ（〇〇キッズ等）も出てきています。

必要な情報があるとは限らなく、相手の機器の不調や制作者の都合で見ることができないこともあります。

たくさんの情報がありすぎて、比べにくい場合もあり、本や新聞・テレビ等、他のメディアの方が便利なきももあります。

4. 本時の学習について振り返る。

📄 ホームページについて考えよう

ホームページについて考えよう

インターネットには、様々なホームページ（情報）があつて、よい点と注意すべき点をまとめるようにしましょう。

ホームページには、たくさんの情報があり、便利な点と注意すべき点があります。おかしいなと思ったら、他の情報と比べたり、詳しい人に聞くなどして、確かめるよう指導しましょう。

2B・よくないページがでてきたら

◎授業のねらい

問題のある情報に出会ったときの対処法を知る。

ウイルス体験メールを児童に送信して、ウイルス感染体験をしてみましょう。また、問題のあるページに出会ったときの対処法を知ることができるようにしましょう。

1. ウイルス体験メールを児童に送信して、ウイルス感染体験をする。
2. いやな気持ちになるページに出会ったときの対処法を知る。

 よくないページが出てきたら

こんなページが出てきたら (1)

3 2 : 名前はひみつ
「〇〇さんて、かんじわるいよね」

3 3 : 名前はひみつ
「〇〇さんさそうのやめよう」

3 4 : 名前はひみつ
「そうだね、みんなでむししようよ」

いやな気持ちになるページはとじる
(自分の悪口が書かれているときは、先生やおうちの人に相談する)

3. 年齢制限のあるページに出会ったときの対処法を知る。

 よくないページが出てきたら

こんなページが出てきたら (2)

ここから先は、^{いじょう}18才以上の人だけ見られます。
それ以外^{いがい}の人は、入れません。

はい、私は18才以上です

「〇〇^{いじょう}才以上」のページは見ない

◆収録されているウイルス感染を擬似体験してみましょう。

いやな気持ちになるページ、不愉快なページに出会ったら、ページを戻るか、閉じるようにしましょう。

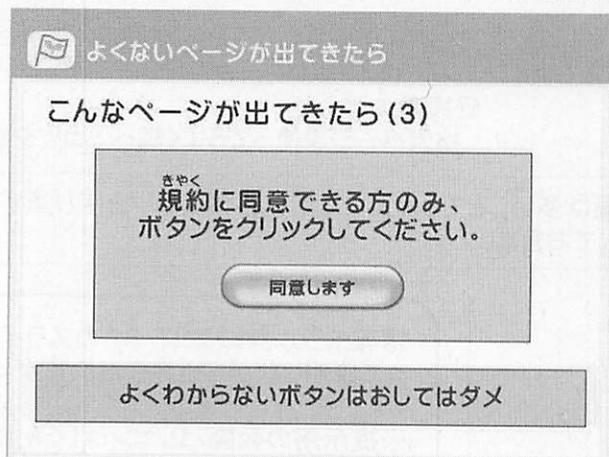
自分の悪口などが書かれているときは、先生やお家の人に相談するように指導しましょう。

ホームページを管理するプロバイダに連絡して、削除してもらうこともできます。

年齢制限のあるページは、子どもが見てはいけないと指導しましょう。

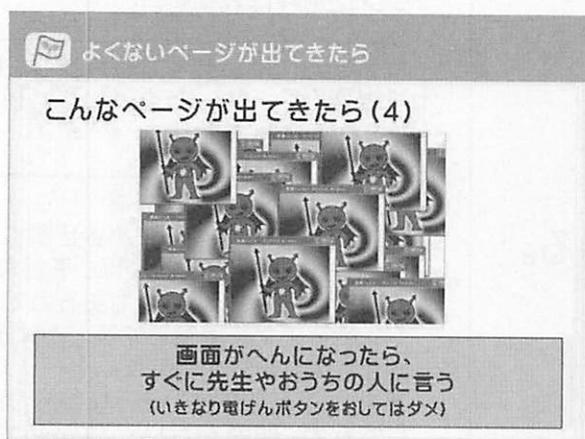
これらのあるページには、恐怖をあおる表現やショッキングな画像などがあり、精神的なダメージを受けるおそれがあります。また、利用料金を請求されることもあります。

4. 「同意ボタン」が表示されたときの対処法を知る。



ボタンを押すと、そこに書かれている契約が成立して、お金を払わなければならないなくなってしまうことがあります。よくわからないボタンは押さないように指導しましょう。

5. ページを見ていたら、画面が変になってしまったときの対処法を知る。



インターネットには、悪意のある人によって罫の仕掛けられたページもあります。そのようなページを開くと、コンピュータの調子がおかしくなったり、次々にページが開いたりすることがあります。

6. 本時の学習のまとめをする。



おかしいなと思ったら、すぐに先生やお家の人に相談するよう指導しましょう。いきなり電源を切ると、コンピュータが壊れてしまうこともあるので、注意するように指導しましょう。

いやな気持ちになるページや年齢制限のあるページに出会ったときの対処法を知ることが大切です。また、「同意ボタン」が表示されたり、ページを見ていたら、画面が変になってしまったときの対処法も指導しましょう。

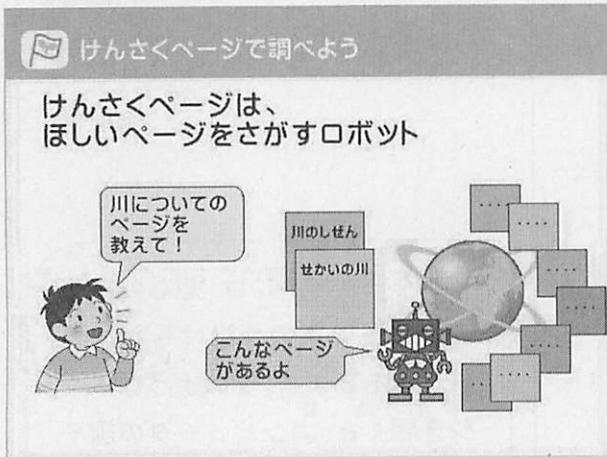
3A・けんさくページで調べよう

◎授業のねらい

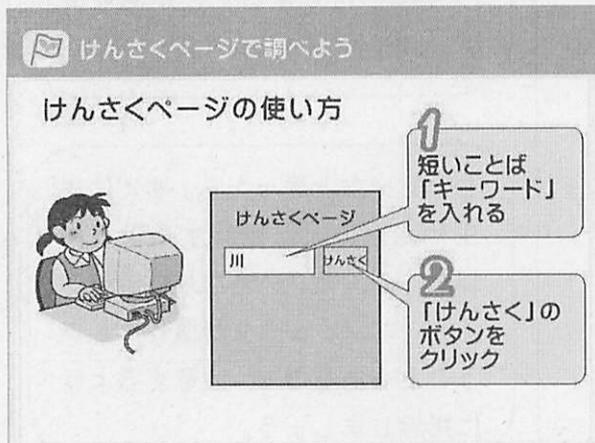
検索ページを使ってうまく調べるコツを身につける。

子ども達も調べ学習などでインターネットに触れる場面は多いことでしょう。ここでは検索のコツを学びます。また関係のないページが出たときの対処法などもあわせて指導しておきましょう。

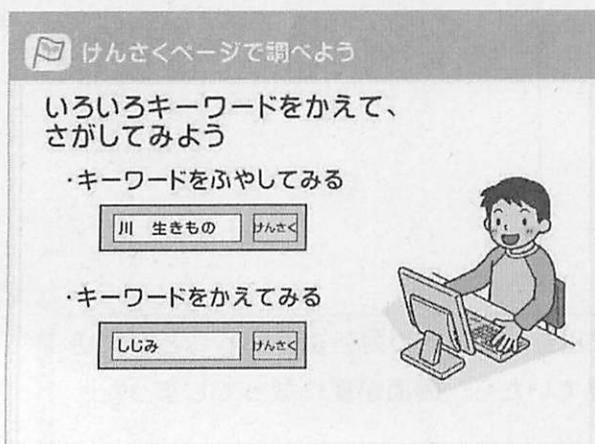
1. 検索ページについて学習する。



2. 何について調べるか考え、調べてみる。



3. キーワードの選び方を工夫してみる。



情報モラル実践教材・3Aのスライド教材を使って説明しながら授業を進めます。

※提示用の教師パソコンは「くみ」を「先生」にしてログインしておきましょう。

「検索ページ」とはインターネットで欲しい情報を探すときに使うページのことです。「検索エンジン」とも呼ばれます。

検索するには、①入力欄に探したいものを表す単語(キーワード)を入力し、②「検索」ボタンをクリックします。

何について調べるか決めさせます。検索ページやキーワードによっては、子どもにふさわしくないページが出ることもあるので、教師がいくつかテーマを用意して子どもに選ばせた方がよいでしょう。事前に子どもが使いそうなキーワードで検索してみて、問題がないか確かめておきましょう。

実際に使える子ども用検索ページは、

◎Yahoo!きっず

<http://kids.yahoo.co.jp/>

◎キッズgoo

<http://kids.goo.ne.jp/>

◎キッズ@nifty

<http://kids.nifty.com/>

◎キッズパーティー | So-net

<http://www.so-net.ne.jp/kids/>

などがあります。

キーワードの選び方を工夫すると、欲しい情報を見つけやすくなります。

・キーワードを増やす

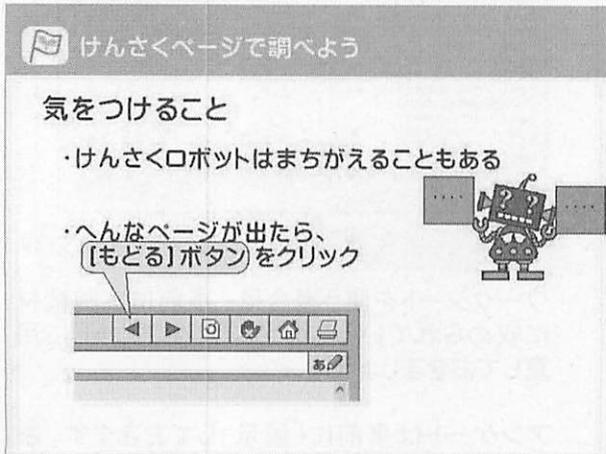
「春採湖 生きもの」など、複数の単語をスペース(空白)でつないで検索すると、結果がより絞り込めます。

検索した結果、必ずしも参考になる情報が得られるわけではありません。知りたいことをうまく調べるためのコツを学びます。

4. 検索ページについてまとめる

実際に使ってみた感想を交流する。

- 「便利だった」「知りたいものが見つかった」
- 「難しかった」「知りたいものが見つからなかった」
- 「関係ないページが出てきた」



- ・キーワードを変えてみる
「春採湖」「生きもの」などの抽象的な単語ではなく、「ひぶな」など、より具体的なキーワードを使うと、結果が絞り込まれます。
- ・その他
「春採湖の近くの生きもの」といった文章より、「春採湖 近く 生きもの」など、単語を並べて検索する方が、よい結果を得ることができます。
また、単語に「とは」をつけて検索することも効果的です。

子どもたちの感想をもとに、検索ページについてまとめましょう。

ホームページの情報は図書室のように整理はされていませんが、検索ページを使えば必要なページだけ取り出すことができるということをおさえましょう。
ですが、よいことばかりではありません。

・期待する検索結果が得られるとは限らない
キーワードをもとに機械的に検索しているので、関係のないページが表示されることもあります。

・いやなページが出たら「もどる」！
関係のないページや見たくないページが出たら、前のページに戻るよう指導しましょう。

・インターネットだけが全てではない
検索ページで調べるより、場合によっては本を調べたり、詳しい人に聞くことの方が有効なこともたくさんあります。

検索ページは手軽で便利ですが、子どもにとっては難しすぎたり、情報が間違っていることもあります。インターネットが万能なわけではありませんので、目的に応じた調べ方ができるように指導しましょう。

3B・それ、本当？

◎授業のねらい

ホームページの情報が、全て正しいとは限らないことを知る。

インターネットで調べ学習をしていると、間違った情報に出会う場面もあります。情報を鵜呑みにせず、正しいかどうかを確かめる必要もあることを指導しましょう。

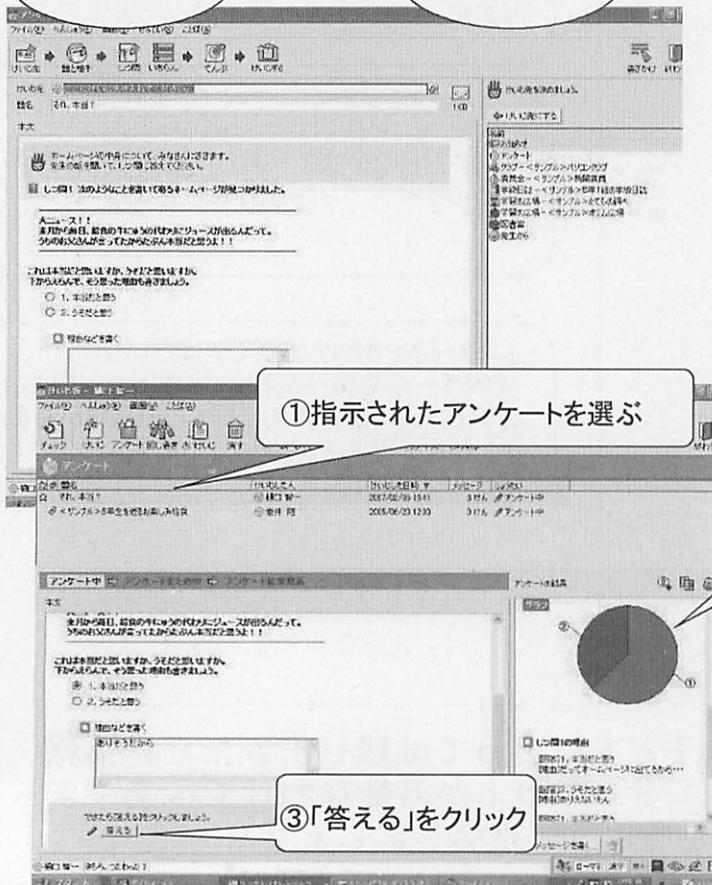
1. 本当かどうかわからないホームページについて考える。



教師用パソコンから送られてきた「アンケート」か、配布されたワークシートの質問に答える。

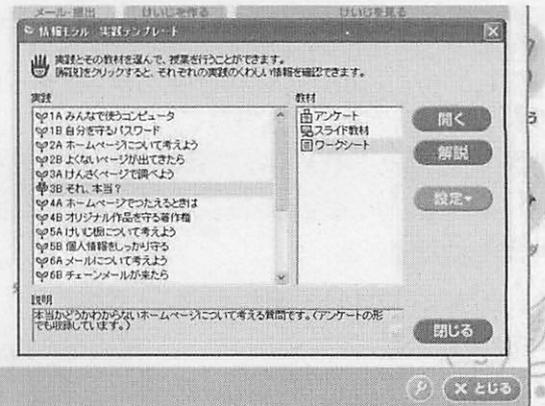
本当だと思う!

うそだと思う!



情報モラル実践教材・3Bのスライド教材と、アンケート(またはワークシート)を使って説明しながら授業を進めます。

※提示用の教師パソコンは「くみ」を「先生」にしてログインしておきましょう。



ワークシートを使う場合は、事前に実践教材に収められているものをプリントアウトして用意しておきましょう。

アンケートは事前に「掲示」しておきます。左の手順で掲示できます。掲示先は『アンケート』がわかりやすいかと思います。

『アンケート』に掲示しておけば、児童用パソコンでも同じ画面を見ることができ、アンケートに回答することができます。

アンケートの結果はどのパソコンからも、グラフなどで確認することができます。

全てのパソコンからの回答が終わったところで、アンケートの結果を見ながら話し合ってみましょう。どちらの意見も正しいかどうか揺さぶり、実際には正しいかどうかわからないという方向に持っていきます。

本当かどうかわからない。

2. 間違っているページについて知る。

📄 それ、本当？

まちがっているページもある

作った人がまちがえてしまったページ

今はもう古くなってしまったページ

わざと作られたうそページ



そうなんだ～

きちんと
たしかめないとね



インターネット上には間違った情報が流れていることがあります。どのようなものがあるか紹介します。

・作った人が間違えてしまったページ
作った人は正しいと信じていても、実際には間違えた情報が書かれていることもあります。

・情報が古くなってしまったページ
統廃合で変わった学校名など、作った当時は正しくても、その後状況が変わって正しくなくなることもあります。

・わざとウソを書いたページ
ホームページは誰でも作ることができるのでウソや冗談ばかり書かれたページもあります。

3. 情報を確かめる方法を知る。

📄 それ、本当？

本当かどうか、たしかめる方法



だれが、いつ
作ったページか
かくにんする

いくつかのページ
をくらべる

ホームページだ
けでなく、本など
でも調べる

ホームページの内容が正しいかどうか確かめる方法について説明しましょう。

- ・誰がいつ作ったページか確認する。
- ・ホームページだけではなく、本などでも調べる。
- ・いくつかのページを見比べる。
※国の機関など、公的なホームページと見比べるといいでしょう。
- ・先生や家族に聞いてみる。

ホームページは本当かどうかわからない情報もたくさん書いてあります。おかしいと思ったら他のページや本の情報と比べたり、詳しい人に聞くなどして正しいかどうか確かめるよう指導しましょう。

4A・ホームページでつたえるときは

- ◎授業のねらい
ホームページで情報発信を行うとき、
気をつける点を意識する。

ホームページを公開した場合、世界中の人々がそれを見る可能性があることを意識させ、個人情報や著作権など、作成する上での留意点を指導しましょう。

1. ホームページを開いた時の経験を話し合う。

🚩 ホームページでつたえるときは

いろいろな人が見るから、気をつける



- ◆ いろいろなホームページがあることを知らせる。
- ※ 特に、外国のものもあることを確認する。
- ◆ 日本はもちろん、世界中の人々が自由に見ることができることを知らせる。

自分が発信者になったとき、世界中の人が見るかもしれないということを意識させましょう。

2. ホームページを作成するとき、気をつけることを考えよう。

🚩 ホームページでつたえるときは

じょうほう

(1) 正しい情報をつたえよう

まちがいはないか

はっきりしないところはないか



- ◆ スライドを提示し、正しい情報とは何かについて考えさせる。

間違った情報を載せると、それを見た人が勘違いしてしまいます。他の人の役に立つ、正しい情報を発信するよう心がけましょう。

本当かどうか確認していない「うわさ」を書いたり、不確かなことを書いたりしてはいけません。



ホームページでつたえるときは

(2) だれが見てもだいじょうぶか

こじんじょうほう
名前・住所などの個人情報はないか

だれかの作品や写真を勝手に使っていないか

だれかがいやな気持ちにならないか



ホームページでつたえるときは

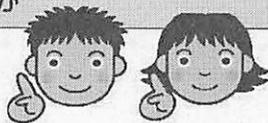
(3) つたえたい人を考え、わかりやすく

つたえたい相手が、はっきりしているか

言葉づかいや漢字が、相手に合っているか

絵や写真を使い、見やすくてきたか

見出しは わかりやすいか



◆ 個人情報と著作権について、説明する。

名前や住所、電話番号などの個人情報は、ホームページに書いてはいけません。悪用される危険性があります。

作品や写真は、著作権法という法律で守られています。作者に許可を得ることなく、勝手にホームページに載せてはいけません。

見た人がいやな気持ちになるので、誰かをけなすようなことや、「〇〇はよくない」「〇〇きらい」など、否定するようなことは書かないようにしましょう。

法律についての詳しい説明は、あまり必要ないが、故意的にはもちろん、誤って記載した場合でも、法律に触れる可能性があることを理解させる。

「こんな人に見てもらいたい」という相手をイメージして、その人にとって見やすく、理解しやすいページにしましょう。

目上の人にはていねいに、年下の人には簡単な言葉を心がけましょう。

文字ばかりではなく、絵や写真を中心に、見やすくわかりやすいページにしましょう。

何を伝えたいのかが、すぐにわかる見出しを付けましょう。

◆ ワークシートにまとめさせる。

ホームページを公開する場合、不確定な情報や誤った情報、著作権や個人情報など、留意する点や守らなければならないルールがあります。記載する情報に責任を持つことが求められることを指導しましょう。

3. 本時の学習についてまとめる。

4B・オリジナル作品を守る著作権

◎授業のねらい

作品は著作権によって守られていることを知る。

オリジナリティ（創作性）のある作品にはすべて著作権があることを理解させ、その活用にはルールがあることを指導しましょう。

1. 今まで、絵を描いたり、写真を撮ったり、何かを作ったりした経験を話し合う。

もし、自分の作品を他の人が勝手に活用したらどうだろう？

2. 著作権について話し合う。

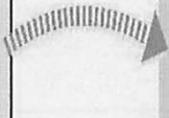
ちよさくけん
オリジナル作品を守る著作権

もし、自分の作品が勝手に使われたら…

わたしの絵のページ



自分がかいた絵の中で、一番のお気に入りです。○川



○新聞社
絵画コンクール



金賞
×田さん

あれ？わたしの絵なのにべつの人が作ったことになってる！

◆ なぜ著作権が大切なのか考えさせる。

自分がかんばって描いた絵や作文が、知らないうちに別の人の作品として有名になっていたら、どんな気持ちができるかを話し合わせましょう。

3. 著作権について知る。

ちよさくけん
オリジナル作品を守る著作権

ちよさくけん
著作権 = 「作品は作者のもの」という決まり

だれの作品でも

どんな作品でも

勝手にコピーしてはいけない



ちよさくけん ほうりつ
著作権を守るルールは、法律で決まっています

◆ 著作権の基本を知らせる。

作文や絵など、オリジナリティ（創作性）のある作品にはすべて著作権がある。年齢や、プロかアマかは関係ありません。



オリジナル作品を守る著作権

使うときは、かならず作者に許可をもらう

許可をもらうときは、

どの作品を、
何のために使いたいか
をせつめいします。

クラスのページに
あなたの絵を
のせてもいい？



許可をもらっていない作品を勝手に使ってはダメ

著作権がある作品を「見る」「聴く」ことは問題ありませんが、「コピーする」ためには作者の許可が必要です。

「著作権があるから使えない」ではなく、「著作権があるので作者に許可をもらって使う」ことを指導しましょう。
作者がわからない場合でも、作品を勝手に使ってははいけません。

「作者に許可をもらう」のがルールであることをしっかりと理解させましょう。

4. 身の周りの著作権を探そう。



オリジナル作品を守る著作権

著作権のしるし、©マークをさがそう



®やTMは、商品の名前や
キャッチコピーを守るマークです

著作権をしめす©マークをさがしてみましよう
(©マークがないものもあります)

◆ 身の周りのさまざまな製品が、著作権によって守られていることを知らせる。

身の周りの © マーク（著作権のある作品）を探してみましょう。本の奥付（最後のページ）や、CDの盤面、キャラクターの描かれた文具などに、©表示を見ることができます。
® やTMなどは、社名や商品名などを守るマークです。作品にはそれらを守るルールがあることを教えましょう。

5. 学習の振り返りをする。

オリジナリティのある作品にはすべて著作権がある。

勝手にコピーしてはいけない。

使用するときは、作者に許可をもらうのがルールである。

著作権についての正しい理解と使用上守らなければならないルールをしっかりと指導しましょう。

5A・掲示板について考えよう

◎授業のねらい

掲示板のよいところ、気をつけるところを考える。

「つたえるネット」はPC室内で、メールのやりとりや掲示板、アンケートなどを行うことができます。これらを使って掲示板について考えさせます。

1. つたえるネットの掲示板を試してみる。

授業の前に『掲示板』を作っておきます。「つたえるネット」で掲示板を作ることができます。作った掲示板は校内ネットワーク上に保存され、どのノートパソコンからもメッセージを書き込むことが可能になります。

ジャストスマイルにログインする際、「ねん」「くみ」だけではなく、「なまえ」も入力してログインすると、「つたえるネット」が使えます。

※提示用の教師パソコンは「くみ」を「先生」にしてログインしておきましょう。

作った掲示板は、これらのアイコンにアップされます。

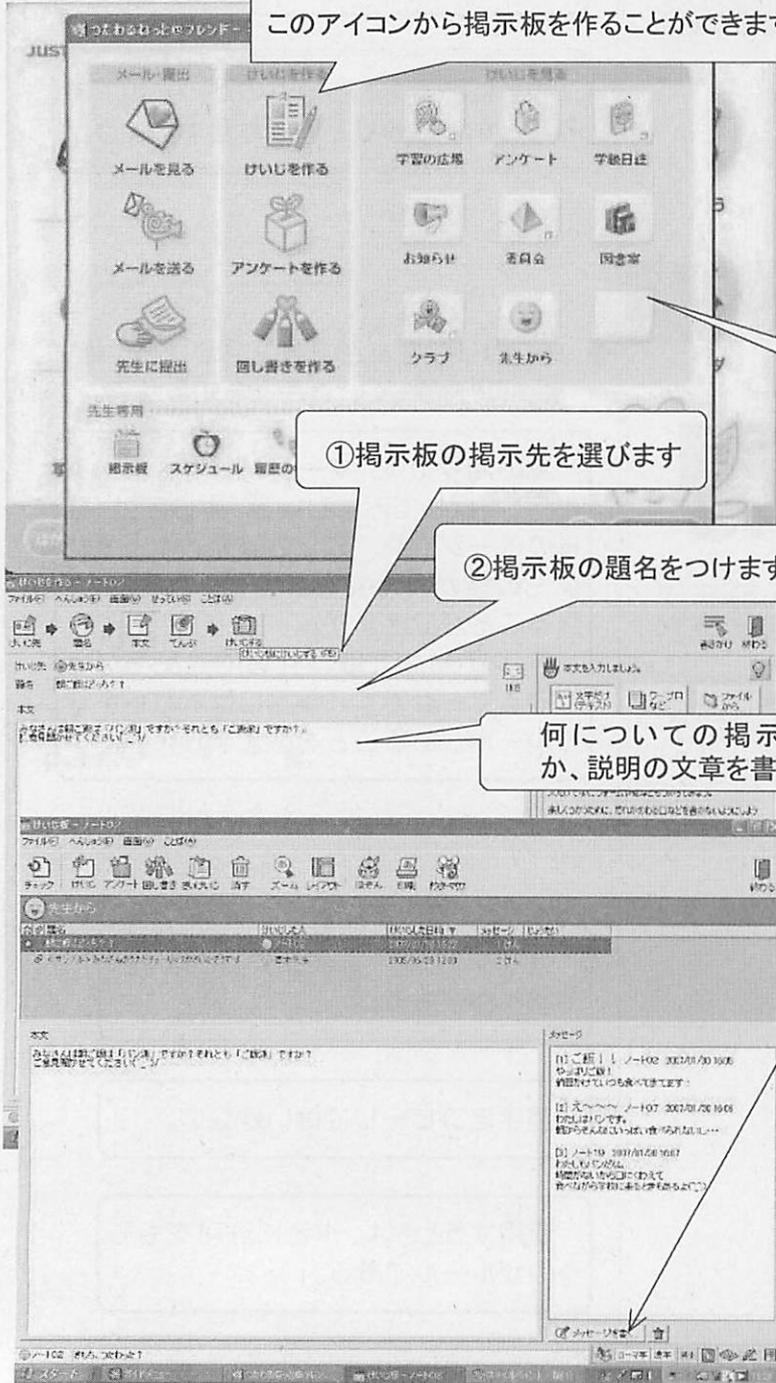
児童用のパソコンから掲示板にアクセスすると、このような画面になります。

「メッセージを書く」をクリックすると、掲示板にメッセージを書き込めます。書き込んだメッセージは、他のパソコンからの分も一緒に、上の欄に反映されます。

掲示板の話題については学級の実態に応じて、発言しやすく盛り上がりそうなものを選びましょう。

しばらくの時間は自由に体験させます。時数に余裕があるなら、掲示板の使用のみに1時間かけてもいいかもしれません。

このアイコンから掲示板を作ることができます。

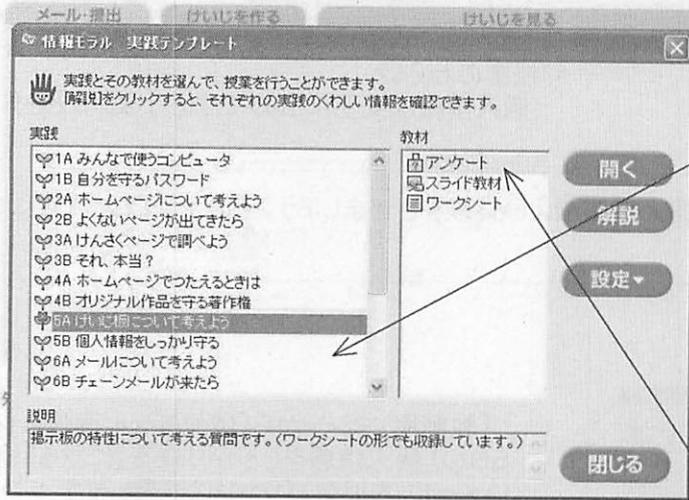


① 掲示板の掲示先を選びます

② 掲示板の題名をつけます。

何についての掲示板なのか、説明の文章を書きます。

2. 掲示板について考える。

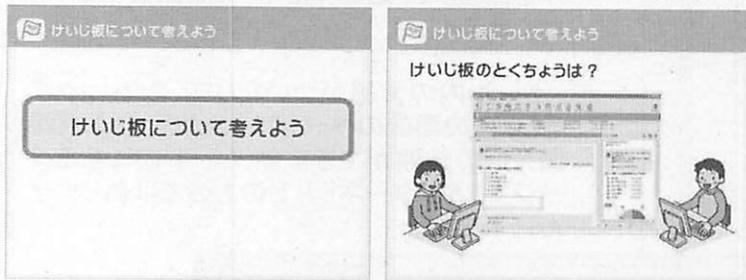


「教師用」マシンは「情報モラル実践教材」5Aの「けいじ板について考えよう」にある「スライド教材」を開きます。

「はっぴょう名人」が起動し、この授業用のスライド教材が用意されます。

デジタルプロジェクタを接続して、画面をスクリーンに写して提示を行うと効果的です。

これまでの活動を振り返り、掲示板の特徴について考える。



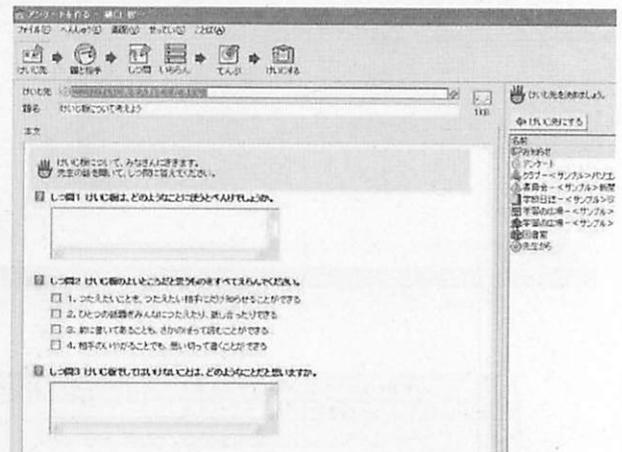
児童から出たものを、2つの側面から整理する。

けいじ板について考えよう

けいじ板の2つのとくちょう

	だれでも書ける みんなで見られる	文字にのこる
よいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人がつたえられる ・見た人が意見を書きこめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・後で何度でも読み返せる ・古いことも、さかのぼって読むことができる
心配なところ	<ul style="list-style-type: none"> ・見られたくない人にも見られる 	<ul style="list-style-type: none"> ・一度書いたら取り消せない ・悪口やいたずらものこる

スライド教材と一緒に用意されている、「ワークシート」や「アンケート」を使うと便利です。



掲示板は便利な反面、不安な点もあります。

- ・誰でも見ることができ、書き込めるので誰が見ても大丈夫のように、伝え方に気を配る必要がある。
- ・文字として残るので言葉遣いには、充分気をつける必要がある。

3. 本時の学習について振り返る。

伝える相手だけでなく、掲示板を見ているたくさんの人のことも意識しながら書き込む必要があることに気づき、思いやりのある書き込みを心がけましょう。

掲示板について考える過程で、個人情報についての話に触れることがあるかと思しますので、この時間の後、「個人情報をしっかり守る」を学習するとよいかと思ます。

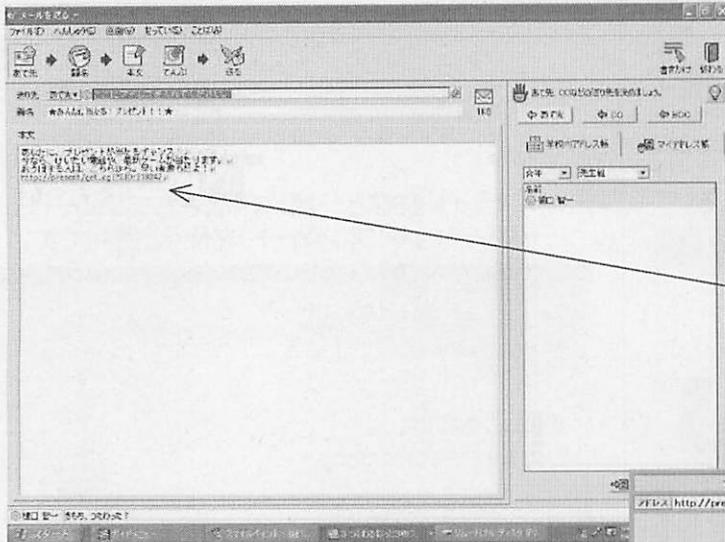
5B・個人情報をしっかり守る

◎授業のねらい

個人情報は安易に広めてはいけないことを知る。

個人情報を収集しようとするメールを児童に送信して、個人情報漏えい体験をさせましょう。その上で個人情報についてのリスクや正しい対処法について説明していきます。

1. 個人情報漏えい体験をする。



「教師用」マシンから「情報モラル実践教材」5Bの「個人情報をしっかり守る」にある「怪しいメール」を児童パソコンに送信します。

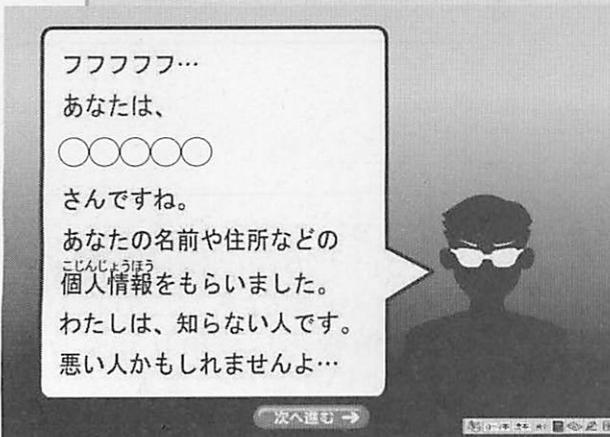
児童は「つたわるねっと@フレンド」の『メールを見る』で、送られたメールを確認することができます。

メール内の青線がついたURLをクリックすると、下の画像のページにリンクし、個人情報漏えいの体験ができます（ハード内にあるページで、インターネット上のもではありません）。



リンク先のアンケートに答えていくと、個人情報知らない人に漏れてしまったかのような画面に進んでいくことになります。

※これは校内LANの中で仮想的に行われていることなので、本当に個人情報がインターネット上に漏れているわけではありません。



2. スライド教材で個人情報について学ぶ。

こじんじょうほう 個人情報をしっかり守る

こじんじょうほう 個人情報 = 自分や家族についての情報

自分のこと	おうちのこと
名前	住所
せいべつ	電話番号
生年月日	家族の名前
通っている学校名	家族の仕事
自分の顔写真	



こじんじょうほう 個人情報をしっかり守る

こじんじょうほう 個人情報は、いたずらに使われることも



いらぬお知らせが
たくさん来る



あやしい人が来る

こじんじょうほう 個人情報をしっかり守る

こじんじょうほう ひとりのときは、個人情報を書かない



電話やインターネットで
知らない人に聞かれても
答えない



プレゼントやアンケートは
必ずおうちの人に相談する

3. 本時の学習について振り返る。

この内容は、オープンエンドで終わっていい内容ではありません。注意させたい事柄をきちんと指導しましょう。

個人情報とは何かを説明しましょう。

個人情報とは
名前や性別、年齢、住所、学校名などの自分のことや家族のことが該当します。身近な問題として学級連絡網が挙げられます。



次にリスクについて説明しましょう。

悪用されると…

- ・ 不要な手紙やメールがたくさん届く
- ・ 誘拐やいたずらなどの犯罪に巻き込まれる危険性があります



正しい対処法について説明しましょう。

個人情報を守るためには

- ・ 知らない人に聞かれても教えない。
- ※プレゼントの応募やアンケートは、大人に相談してからにしましょう。

・ 子どもたちに考えさせて、出させたい内容ですが、出てこなければ教師から教えましょう。

6A・メールについて考えよう

◎授業のねらい

メールの特性を知り、言葉で伝える難しさについて考える。

メールの特性（長所・短所）について考え、よりよく活用するためにはどうしたらいいかを指導しましょう。

1. メールについて話し合う。

～便利な点～

メールについて考えよう

メールのべんりなところ

- 何通でもタダで送ることができる
- 自分の都合のいいときにたえられる
- 絵や写真などもてんぶファイルとして送ることができる

など



◆ メールの便利な点を考えさせる。

メールの特性を話し合っ、いくつか挙げてみましょう。

- ・何通でもタダで送ることができる。
- ・自分の都合のいいときに伝えられる。
- ・絵や写真なども送れる など。

※児童の発言を取り上げながら進めると良いでしょう。

～心配な点～

メールについて考えよう

メールの心配なところ

- 文字だけだと読むのがたいへん
- 顔が見えないから、相手の気持ちがわかりにくい
- 送ったら、すぐ読んでもらえるとはかぎらない

など



◆ メールの手配なところを考えさせる。

- ・文字だけだと、読むのが大変
- ・顔が見えないので、相手の気持ちがわかりにくい。
- ・送ったらすぐに読んでもらえるとは限らない など。

「メールを知っている、または知らない」とか、「実際にやっている、またはやっていない」など、実態が大きく異なる場合は、「メールとは何か」を中心に指導を進めた方がいいでしょう。

2. メールの特徴を考える。

メールについて考えよう

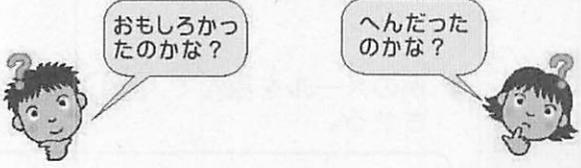
文字でつたえるむずかしさ

また明日ね。(^ ^)

今日あなたが言ってたこと、すごくおかしかったよ。じゃあね。

おもしろかったのかな？

へんだったのかな？



- ◆ 「文字だけで伝える」という、メールの特性に気づかせる。

例のような短いメールを受け取ったら、どう感じるか話し合う。

- ・ 顔文字 (^ ^) があり、楽しい感じがする。
- ・ 短くて素っ気ない感じがする。
- ・ 「おかしかった」は、「おもしろかった」「変だった」のどちらを指すのかわからない。

例のように文字だけの短いメールでは、「本当は何が言いたいのか」「どんな気持ちでこのメールを書いたのか」がわかりにくいという結論を導きましょう。

3. メールを書くときの注意点を確認する。

メールについて考えよう

楽しくメールを使うために

言葉をえらんでていねいに

送る前に読み返す

大事な話は会って話す



- ◆ メールを書くときの注意点を確認させる。

- ・ 言葉を選んでていねいに
文字だけで伝えるのは、大人でも難しいもの。相手の顔が見えないからこそ、思いやりを持って、ていねいに書くことを心がけましょう。
- ・ 送る前に読み返す
誤解されそうな表現や、相手をいやな気持ちにさせる言い回しがないか、送る前にしっかり読み返しましょう。
- ・ 大事な話は会って話す
より確実な意思疎通が必要な場面では、メールだけで連絡を済ませず、相手と直接会って顔を見ながら話すことが大切であることを教えましょう。

※上記の3点は、指導事項としてしっかりと定着させることが大切です。

ジャストスマイルでは、実際にメールのやりとりを体験できます。本時の最後や次時に、ネットワーク内で実際にメールをやってみるといいでしょう。

6B・チェーンメールが来たら

◎授業のねらい
チェーンメールについて知り、正しい対処法を身につける

チェーンメールとは何かを指導し、その正しい対処法について理解させましょう。

1. 例文を読んで、感じたことを話し合う。

～例1～

 チェーンメールが来たら

こんなメールが来たら(1)

あなたがあぶないよ！！
おねがだからさいごまで読んで！
でないと、あなたになにかよくないことが起こっちゃうよ。
このメールにはフシギナチカラがこめられていて、
読んだ人にヨクナイコトが起こるようになってるの。
その人が一番イヤなことが起こるようになっていう
ノロイがかけられてるんだって。

でも、助かる方法ほうほうが一つだけあるから、教えてあげる。
このメールをそのままら人の人に送るの。
もし送らないと・・・あなたには・・・

～例2～

 チェーンメールが来たら

こんなメールが来たら(2)

助けてください！ABが型の血液けつえきが足りません
これは人の命を助けるためのメールです。
友だちが、きのう交通事故じこうで病院に入院しましたが、
手術しじゆつで使うABが型の血液けつえきが足りません。
ABが型がの人は、△△町の〇〇病院へ来て、
輸血じゆけつに協力してください。
そして、このメールを多くの人へ送って、
たくさんの人に知らせてください。
あさっての手術しじゆつに間に合うように、急いでください。
〇川×子

◆ 例のメールを読んで、感じたことを発表させる。

・メールを読んで、どんな気持ちがしたのだろう？

・転送したら、受け取った人はどう思うのだろう？

・みんなでどんどん送ると、どうなってしまうのだろう？

・うそか本当かわからない

・確かめるには、どうしたらいいか

・送るべきか、送らないべきか

児童の「人を助けたい」という心を認めつつ、次の段階で、チェーンメールの定義と問題点を考えさせていく。

2. チェーンメールとは何かを知る。

内容にかかわらず、発信元が不明であり、次から次へ送らせようとするメールを、チェーンメールという。

3. 例1と例2の共通点を考える。

例1

5人に送るの・・・

例2

たくさんの人に知らせてください

内容で判断すると、例2は協力すべきという意見も考えられるが、左記の文でチェーンメールと判断する。

4. チェーンメールの問題点を考える。

チェーンメールが来たら

もし、みんながメールを送ると…

1通 → 5通 → 25通 → 125通

チェーンメールが来たら

もし、だれかがメールを書きかえたら…

かた、けつえき AB型の血液が足りません…

かた、けつえき O型の血液が足りません…

メールの中身が本当のことなのか、だれもわからない

◆ スライドを提示し問題点を示す。

1通のメールを5通ずつ転送していくと、12回転送された時点で2億4千万通あまりになり、日本の人口を超えてしまいます。みんながメールを送っていくと、メールを止められなくなってしまうのが、チェーンメールのよくない点です。

また、メールサーバーというメールの中継地点にあるコンピュータが麻痺してしまい、インターネット全体が遅くなったり、重要なメールが届かなくなってしまうことも考えられます。

チェーンメールは、多くの人の手によって伝言ゲームのように送られる、「うわさ」のようなもの。もし、途中で悪い人がメールの文章を書き換えたら、どうなるでしょう。メールに書かれている内容が正しいかどうか、確かめられずどんどん広まってしまうところも、チェーンメールのよくない点です。

5. 対処法を知る。

チェーンメールが来たら

こんな問題があるから

メールがいつまでも止まらない

本当かどうか、たしかめられない

チェーンメールはマナーいはん！ほかの人に送ってはダメ

◆ 対処法を示す。

チェーンメールを送るのはマナー違反。正しいことを多くの人に伝えるには、チェーンメールではなく、ホームページなどの手段を選ぶべきで、もしチェーンメールを受け取っても、他の人に送ってはいけません。

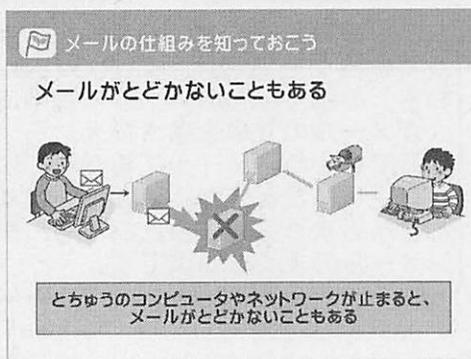
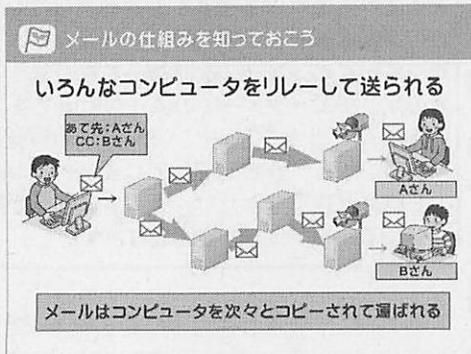
指導事項として、きちんと確認する。

実体験がない子どもに対して、今後の対応策として理解させるよう指導しましょう。

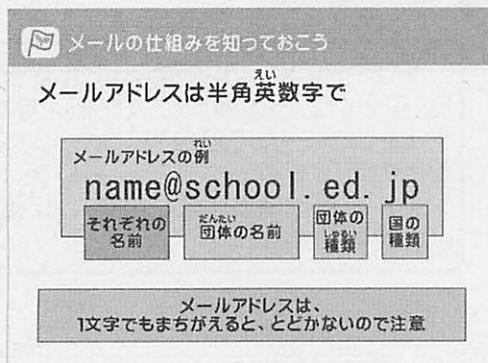
7A・メールの仕組みを知る

現在では最も簡単に、かつ頻繁に用いられる連絡方法の電子メール。小学生も近い将来必ず利用することになる電子メールの基本的な仕組みや注意点を指導しましょう。

1 メールがどのように伝わっていくかを知る。



2 E-mailの送り先には必ずアドレスがあることを知る。



◎授業のねらい

メールの特性を知り、使用する際に注意すべきことを意識することができる。

- ・スライドを用いて、メールは、いくつものコンピュータをリレーされて送られていくことを説明しましょう。
- ・ネットワークがつながっていれば世界中のどこでも送受信できることを確認しましょう。
- ・CCやBCCを使用すれば、1つのメールを複数の人に届けることができることを知らせましょう。

リレーするコンピュータが止まったり、ネットワークが切れると、メールが届かない場合があるため、大事な連絡は電話などで直接知らせる必要性を意識させましょう。

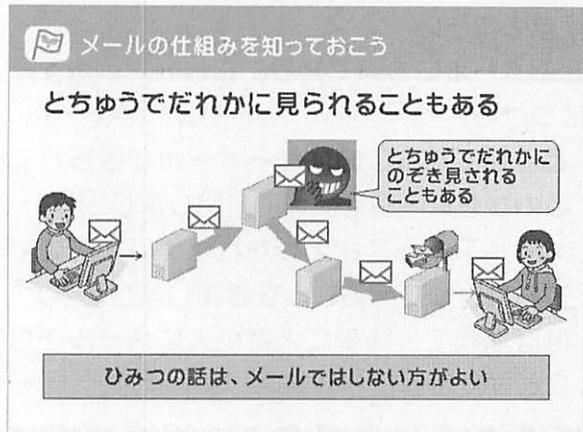
- ・スライドを提示し、E-mail アドレスとその仕組みを説明しましょう。

メールアドレスは、半角の英数字を使って書きます。全角のアルファベットを使用すると相手に届きません。

メールアドレスは@（アットマーク）と、（ドット）によって区切られています。@の右側を見ると組織の種類（学校や企業）や国名がわかるようになっています。

3 メールでは、どのような内容を知らせればよいか考える

見られても大丈夫な内容かな？

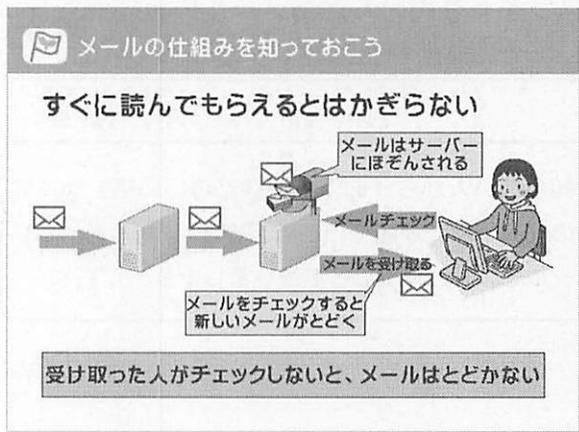


・スライドを提示し、メールの危険性と注意して使用しなければならないことを具体例を挙げて説明しましょう。

リレーされていく途中のコンピュータに悪意の仕掛けがあると、メールの中身を他の人に見られてしまうこともあります。

メールは封書ではなく、はがきのようなものです。ほかの人に知られては困る大事な話は、メールでは伝えない方がよいでしょう

すぐに読んでもらえないことも



メールは、すぐに相手先のコンピュータには届きません。メールサーバと呼ばれる、メールが集まる途中のコンピュータまでしか届きません。

※メールが万能な連絡手段ではないことを意識させましょう。

相手がメールをチェックしてはじめて、メールが届いたことがわかります。もし、何日もメールをチェックしなければ、いつまでも伝わらないこともあります。急ぎの連絡はメールではなく、電話などを使いましょう。

3 本時の学習についてまとめる。

児童の多くは、まだ電子メールを自分の連絡手段として使用していないことでしょう。しかし、この時期に、メールの仕組みや利便性、危険性を指導しておくことで、児童が実際に使用する際、正しく使用することができるきっかけとすることができるのではないのでしょうか。

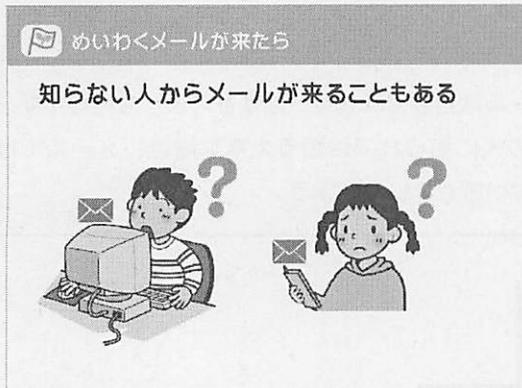
7B・めいわくメールがきたらどうする？

迷惑メールは、電子メールを使用している人なら誰でも一度は出会うものです。しっかりとした対処をすれば、怖いものではないことを伝え、焦らず適切に対処できるよう指導しましょう。

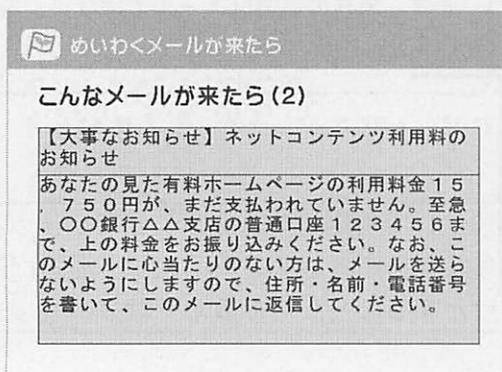
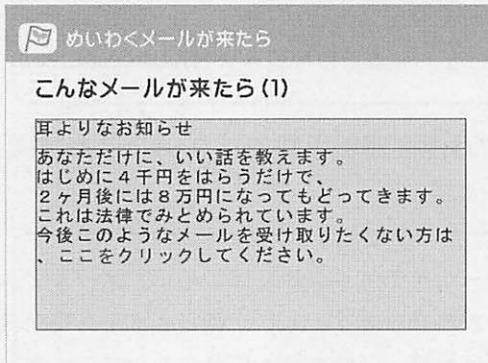
◎授業のねらい

迷惑メールについて知り、正しい対処法を身につける。

- 1 知らない人からメールが来たらどうするかを考える。



- 2 どんなメールが来るのかを知る。



- ・ どうして知らない人からメールが送られてくるのかを具体例を交えて説明しましょう。
- ・ メールアドレスさえわかれば、いつ誰にでも送ることができることを確認しましょう。
- ・ ほぼ無料で、簡単に大量の人にメールを送ることができることを説明しましょう。

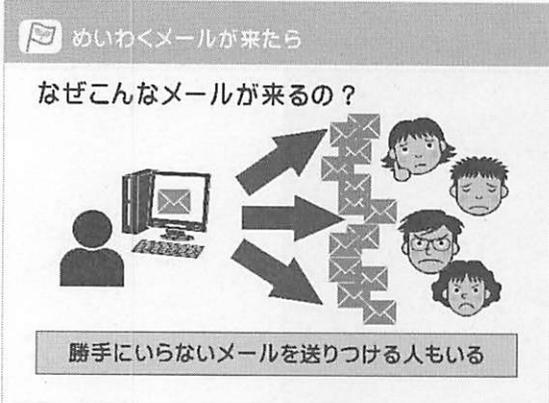
迷惑メールの目的と特徴を知り、どのように対処すればいいのか（家族や教師に相談するなど）を意識させる。

- ・ スライドを用いて迷惑メールの具体例を提示し、その危険性を説明しましょう。

知らない人から「お得情報などのいい話」や「覚えのない請求」が届くことはありません。「あやしいメールだな」と思ったら無視しましょう。

いらぬ宣伝メールをたくさん送りつける人や業者がいます。

- ①違法な商品売ろうとするメール
- ②お金をだまし取ろうとする詐欺などの犯罪につながるメール

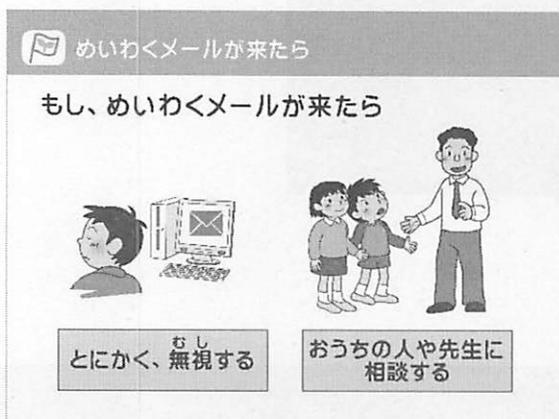


- ①メール本文のリンクをクリックすると、差出人にメールを見たことがわかる仕掛けになっている。
- ②返信すると、自分の情報が知らない相手にわかってしまう場合がある。

・自分が、加害者にならないようなところがけも必要でしょう。

3 もし迷惑メールがきたら、どうしたらいいか考える。

・迷惑メールが来たら、どのように対処すればいいのかが、以下の2点について指導しましょう。



①とにかく無視する

知らない人からメールが来たら、返信してはいけません。どんなことが書いてあっても無視することが重要です。

②家族や先生に相談する

気になるときは、家族や先生に相談しましょう。

・迷惑メールについては、なかなか相談できない場合も考えられます。一人では冷静な判断ができない場合が多いようです。身近な大人に相談できるよう指導しましょう。

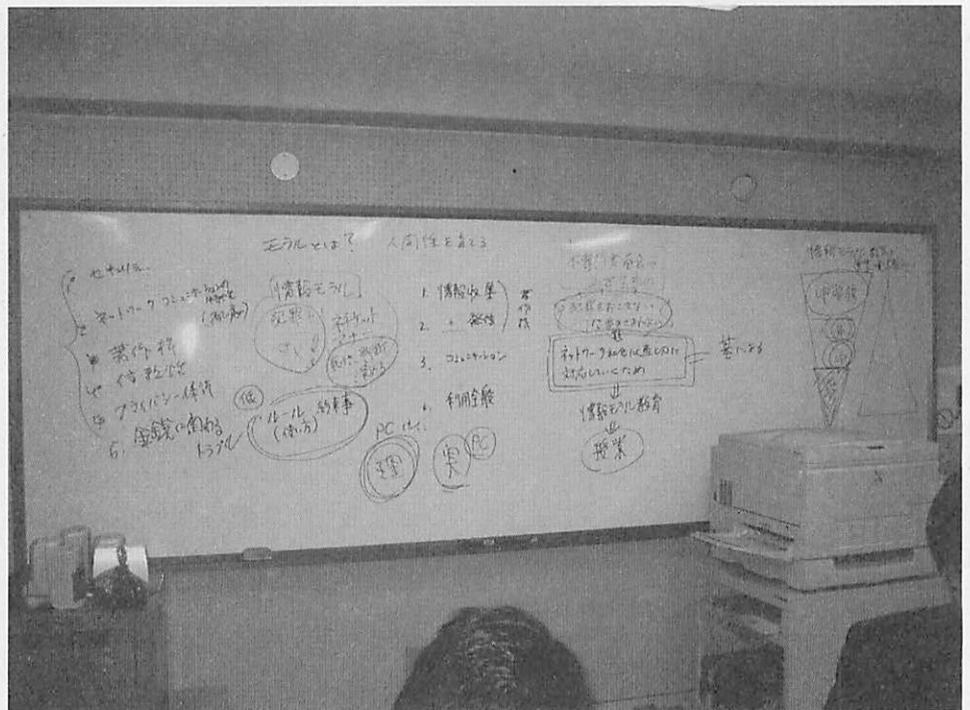
3 本時の学習についてまとめる。

・迷惑メールについてふりかえり、適切に対処できるよう確認しましょう。

具体例をあげて指導しますが、このほかにも様々な形の迷惑メールがあることや、英語で書かれた迷惑メールも多いことを紹介しましょう。そして、自分が出したことのない相手からのメールは開かないような意識づけが必要です。

情報正しき教育の観点

七知り元	不正行為 ルール	知能の管理	ルール 不正行為 不正行為 不正行為 不正行為 不正行為
① 不正行為	不正行為 不正行為 不正行為	不正行為 不正行為 不正行為	不正行為 不正行為 不正行為
△ 著作権	著作権の無断利用 ルール 著作権	著作権の無断利用 ルール 著作権	著作権の無断利用 ルール 著作権
信頼性・信憑性	著作権の無断利用 ルール 著作権	著作権の無断利用 ルール 著作権	著作権の無断利用 ルール 著作権
② プライバシーの保護	個人情報の表示 権利 著作権	個人情報の表示 権利 著作権	個人情報の表示 権利 著作権
金銭的ルール	著作権 著作権 著作権	著作権 著作権 著作権	著作権 著作権 著作権



情報モラル授業展開例

～中学校編～

情報モラル研修教材 2005 を用いた授業の構成例

情報モラル研修教材 2005 の内容

体験から学ぶ

パソコンを再現して、あたかも操作しているかのように体験できる

事例から学ぶ

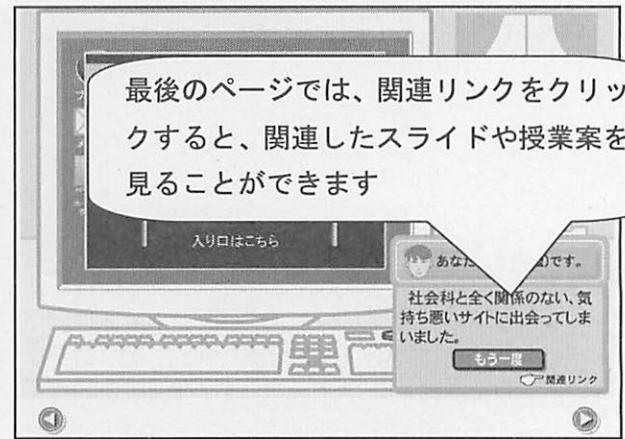
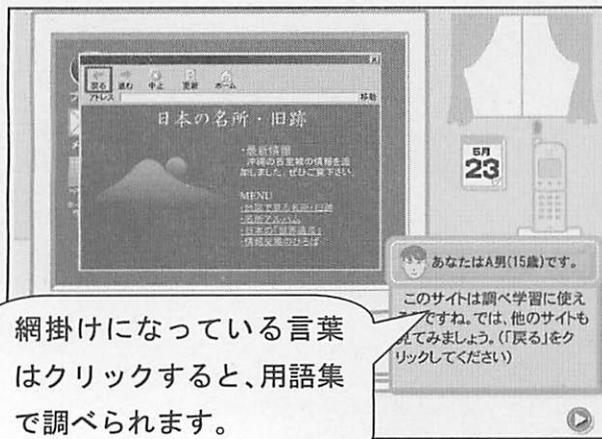
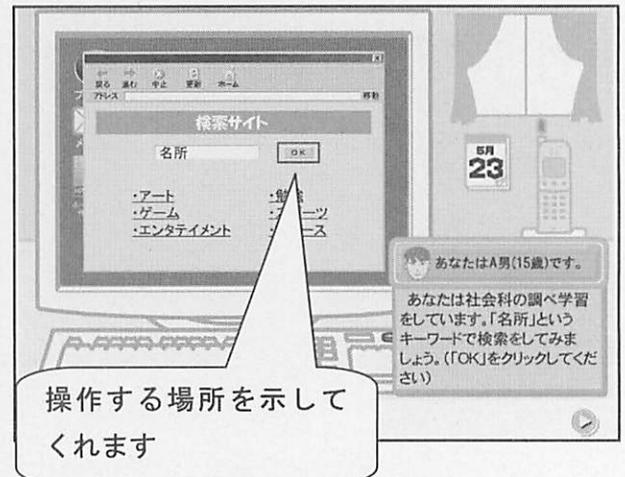
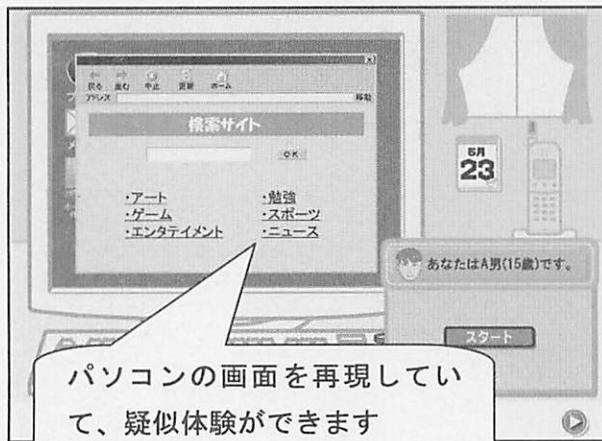
紙芝居のようにスライドで事例を紹介し、解説や対処も示してくれる

授業素材

1時間ごとの指導案とその中で使用する授業素材（HP、文章など）をひとまとめにしている

1. 生徒に体験させる

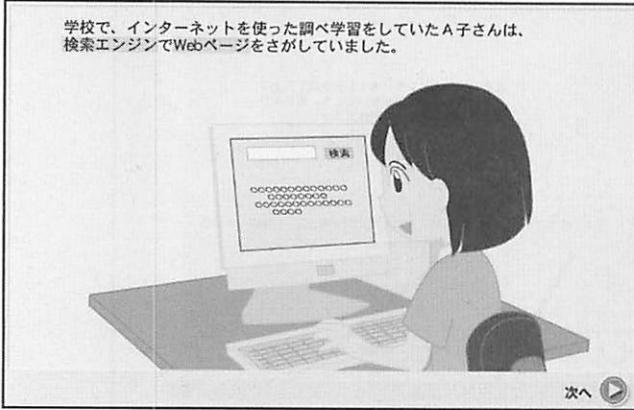
「体験から学ぶ」を使用して、生徒に実際に体験させます。



2. 事例を確認し解説する

「事例から学ぶ」を提示して体験したことを確認し、なぜそのようになったのかを解説します。

また、対応方法などを紹介し、事故にあわないための方法、あってしまった時の対応方法を確認します。



Web上にはさまざまな情報があるため、意図せず「有害サイト」に出会ってしまうことがあります。

【解説】

- 「児童・生徒の心身の成長に望ましくない「有害サイト」

一般的に、性的なこと、暴力的など反社会的なこと、生理的に不快感を与えること、法に触れることなどを載せたサイトが、「有害サイト」と言われます。

- 「有害」かどうかの判断

しかし、どのような情報が児童生徒の心身の成長に望ましくないか、判断することはできません。情報の価値は、必要とする人がいる限り有益だとする考え方もあります。

- 判断するための基礎を身につける場としての学校

有害かどうかの判断を、児童生徒にいきなり任せるのは無理があります。学校は、その判断の基礎となる知識、能力を身につける場です。

解説のページ

【指導・対応例】

- Web上にはさまざまな情報があり、予期せず驚く情報に出会うことがあるということを指導します。
- 予期せぬ情報に出会ったら、すぐ前のページに戻る、ブラウザを閉じるなどの対応で、容易にそのWebサイトから離れられることを指導するのが一次的な対応策です。また、教師や指導者にもその事実を告げ、コンテンツフィルタリングに対応して他の児童生徒が出会わなくても済むようにすることが、二次的な対応策といえます。
- 興味本位ではなく、その情報が必要か不必要かという判断でWeb情報を利用するよう指導します。学習活動においては、何が知りたいのか目的をもって利用することを習慣づけます。

【関連リンク】

- 体験から学ぶ 検索サイト
- 授業素材 見たくないWebページに出会ったら

指導や対応の例 関連事項など

3. 授業素材を用いて授業をおこなう

「授業素材」のページには、「体験から学ぶ」「事例から学ぶ」を使わないで授業をおこなうための指導案と実際に使用できる素材があります。

これらを用いて授業をおこなうこともできます。

授業の展開例

1 本時のねらい

- (1) Webページの中には、様々な情報があり、見たくない情報に出会ってしまう可能性があることを知る。
- (2) 見たくないWebページに出会ってしまったときの対応の仕方を知る。

2 展開

時配	児童生徒の活動*	学習活動への支援と評価*
20分	<ul style="list-style-type: none"> ●コンピュータを起動する。 ●1 本時の学習内容を知らせる。 ●自由に自分の見たいページを見る。 ●おもしろいと思ったページを記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コンピュータは、授業開始前に起動しておく。 ●学習内容を知らせる。 ●自由に選べるようにし、検索エンジンなどを使って興味のあるページを探させる。 ●※コンテンツフィルタリングをインストールしている場合にも、その環境の中で探させる。 ●※記録の方法は学校の環境で探々に考えることができる。 ●例 「お気に入り」を使う、クリップボードのソフトを使う。 ●実際に、発見のあったWebをプロジェクトなどにより、全員が確認する。 ●他の児童と異なる反応をする児童に配慮する。 ●探しているのあてと違うWebページをおもしろいと感じた児童には、めあてと異なっていたことを確認する。 ●【評価】一つのWebページに対して、児童が反応した。 ●支援 他の児童が異なる反応をしそうなWebページを見つけたら、児童が反応する。

Webを利用する中で、見つけたおもしろいページを記録する。

何を見つけようとして、見つけたかという点も発表する。

指導案

授業素材資料 ～サンプルサイト

- 有害Webサイトの例① ～アダルトページ
- 有害Webサイトの例② ～違法品を売るページ
- 有害Webサイトの例③ ～気持ち悪いページ

授業素材

材料 2005

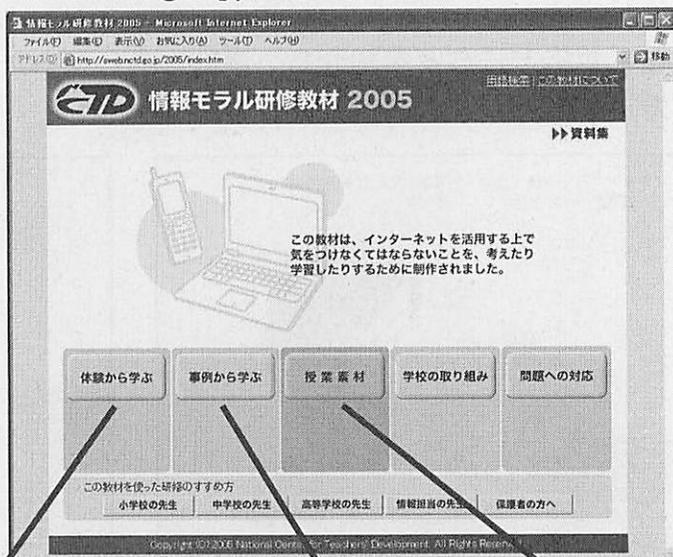
このページは、著作権フリーの素材、制作したものです。
Copyright ©2005 Annual Center for Special Education, Mie University

秘 密売の部屋へようこそ

商品紹介ページへ

独立行政法人教員研修センター（テッド） 情報モラル研修教材 2005

http://sweb.nctd.go.jp/2005/index.htm

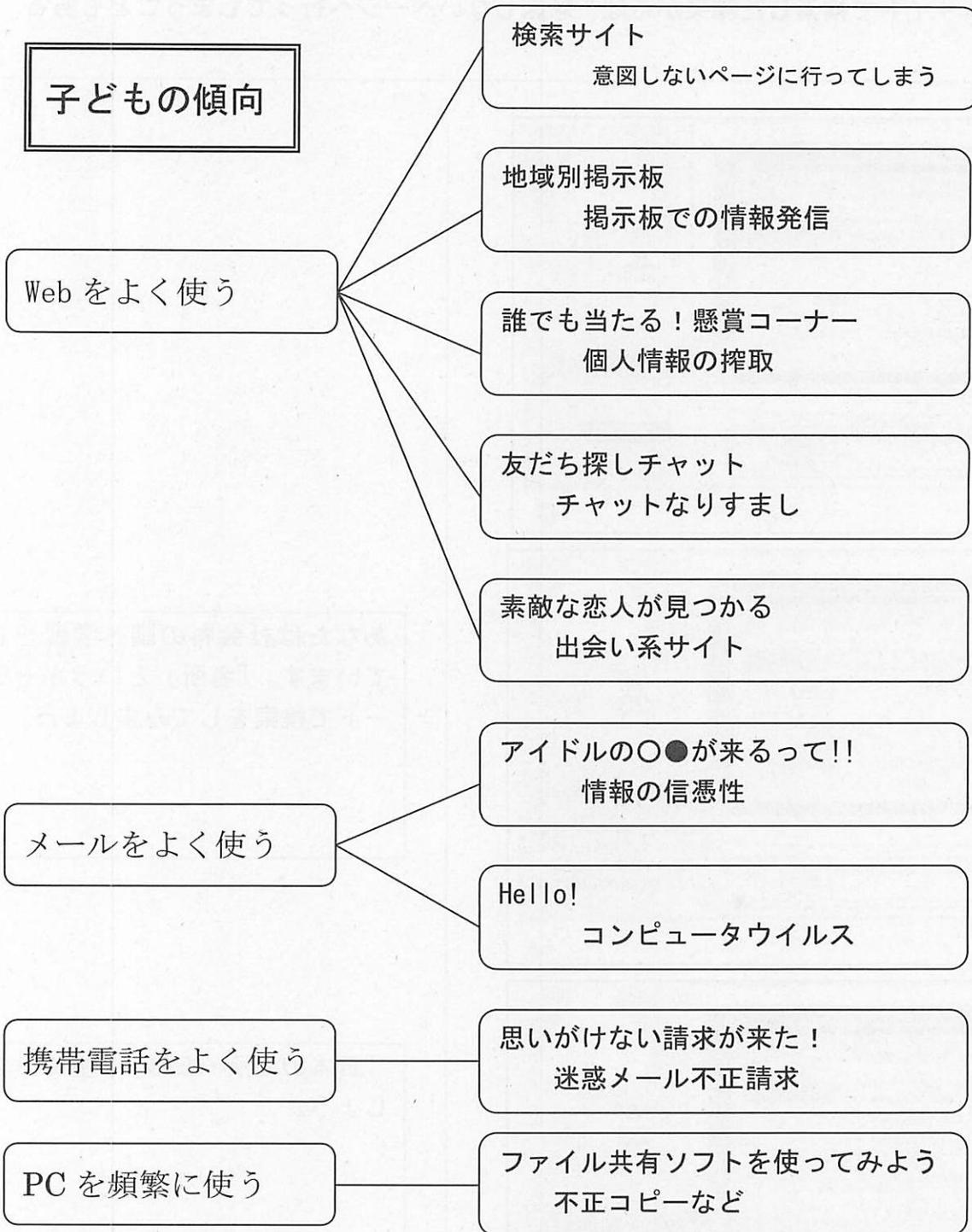


優先的に指導すべき題材

順位	項目	体験から学ぶ	内容	関連項目	
				事例から学ぶ	授業素材
1	Web ページ	検索サイト	意図しないページに行ってしまう	偶然出会ってしまう有害サイト	見たくない Web ページに出会ったら
2	Web 発信	地域別掲示板	掲示板での情報発信	情報公開は慎重に	Web ページで発信する情報
3	デマ 情報	アイドルの○●が来るって!!	情報の信憑性	うその情報かもしれない	インターネットの落とし穴
4	会員 登録	誰でも当たる! 懸賞コーナー	個人情報の搾取	流用された個人情報	個人情報の収集に利用されるホームページ
5	交流 サイト	友だち探しチャット	チャットなりすまし	会ってはいけない出会い系	インターネットの出会い系のページで見知らぬ人に出会う
6	携帯 電話	思いがけない請求が来た!	迷惑メール不正請求	ワン切り電話で不正請求	携帯電話を活用するときの心構え
7	個人 情報	素敵な恋人が見つかる	出会い系サイト	勝手に友だちの情報を公開すると	住所・氏名などの個人情報を勝手に公開すると
8	ウィルス	Hello!	コンピュータウイルス	いつの間にか感染源に	コンピュータウィルスへの対応
9	著作権	ファイル共有ソフトを使ってみよう	不正コピーなど	無断コピーは法律違反	Web ページ作成や情報発信時には著作権の配慮を

傾向別の指導すべき題材

指導すべき題材
《題材名》
《題材の概要》



※「優先的に指導すべき題材」「傾向別の指導すべき題材」は釧路教育研究センター教育工学研究専門委員会が、目安として選定したものです。

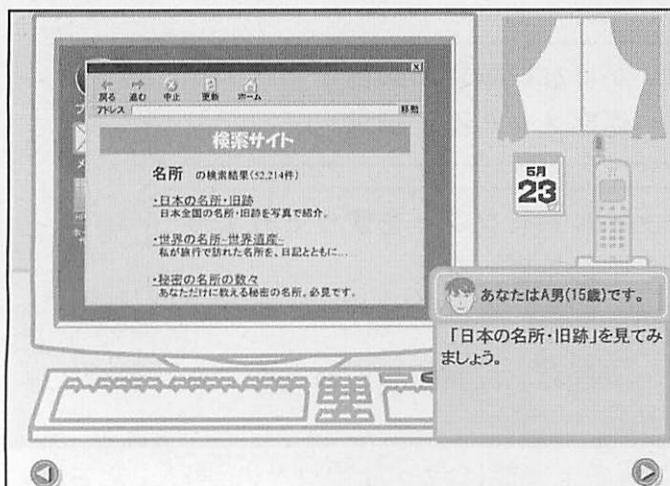
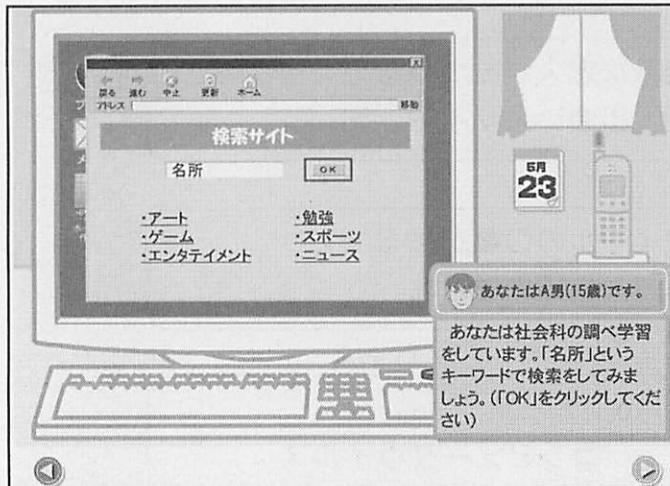
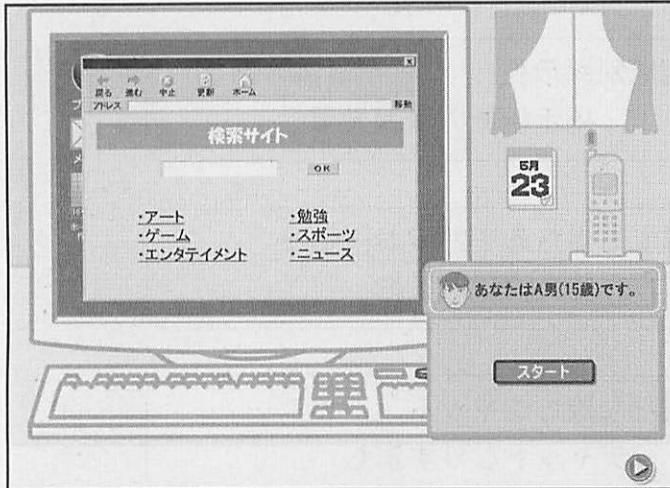
他にもとてもよい題材が多くありますので、ご覧の上実態に合った題材をお選びください。

Webページ

題材名：検索サイト

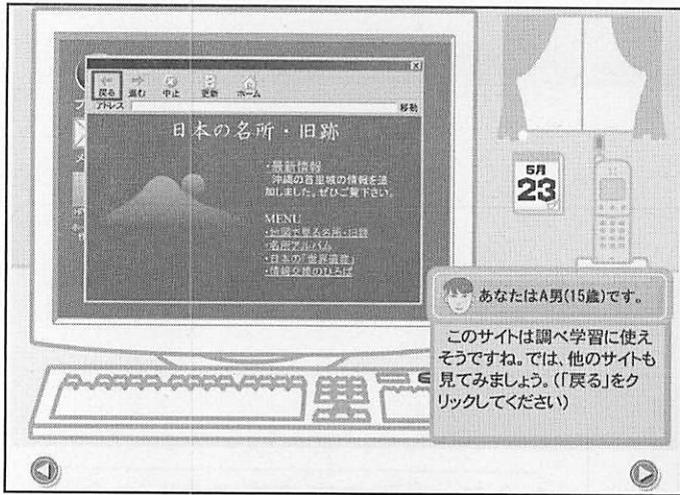
○授業の概要

- ・ 検索サイトで検索した結果からは、意図しないページへ行ってしまうこともある

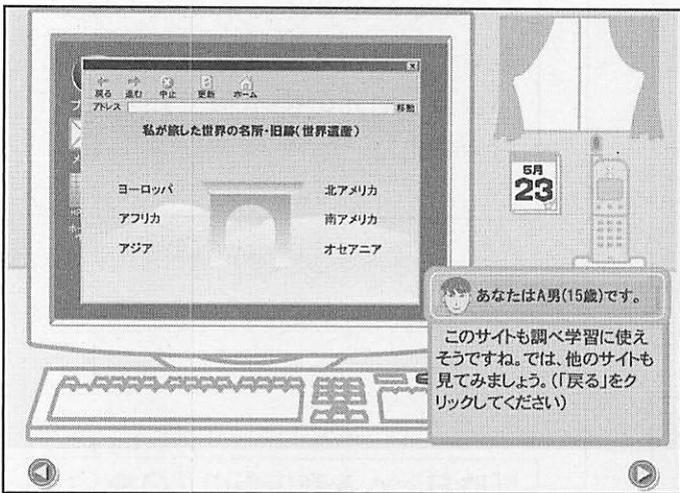


あなたは社会科の調べ学習をしています。「名所」というキーワードで検索をしてみましょう。

「日本の名所・旧跡」を見てみましょう。



このサイトは調べ学習に使えるそうですね。では、ほかのサイトも見てください。



このサイトも調べ学習に使えるそうですね。では、他のサイトも見てください。



社会科とまったく関係のない、気持ち悪いサイトに出会ってしまいました。

関連教材

事例から学ぶ

- ・ 偶然出会ってしまう有害サイト

授業素材

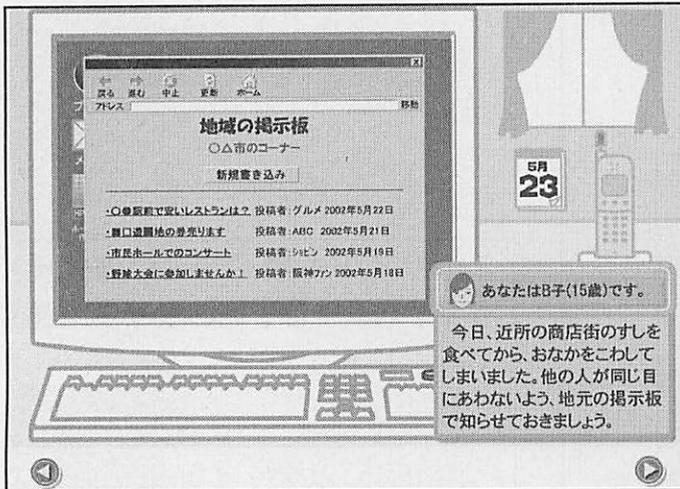
- ・ 見たくないWeb ページに出会ったら

Web発信

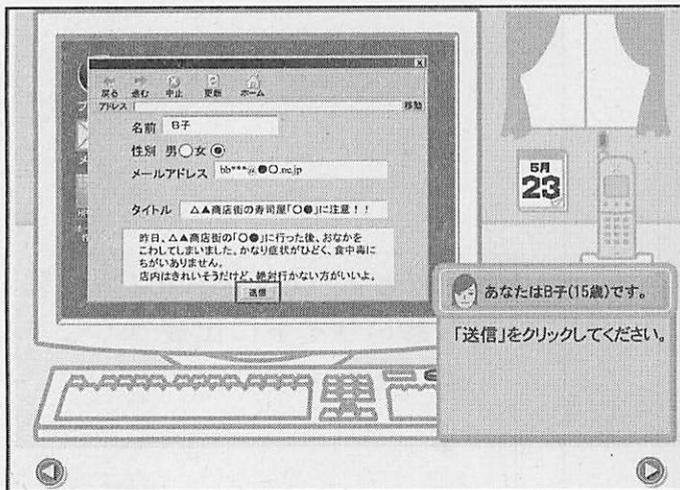
題材名：地域別掲示板

○授業の概要

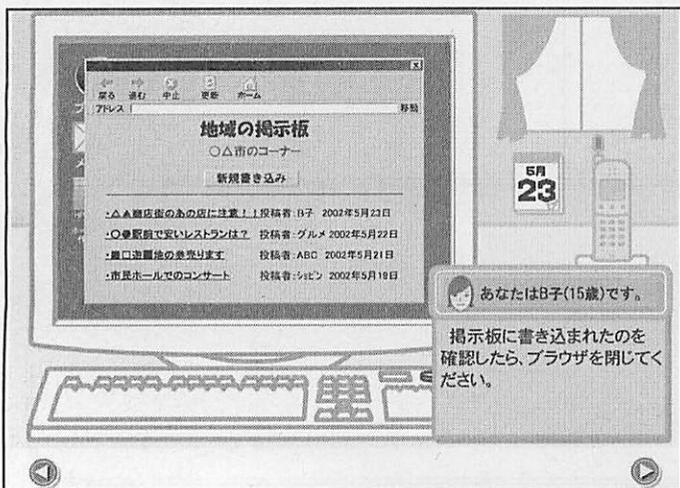
- ・インターネットでの誹謗中傷は、たとえ事実であっても、影響力が大きく、思わぬ事件を引き起こすことがあります。



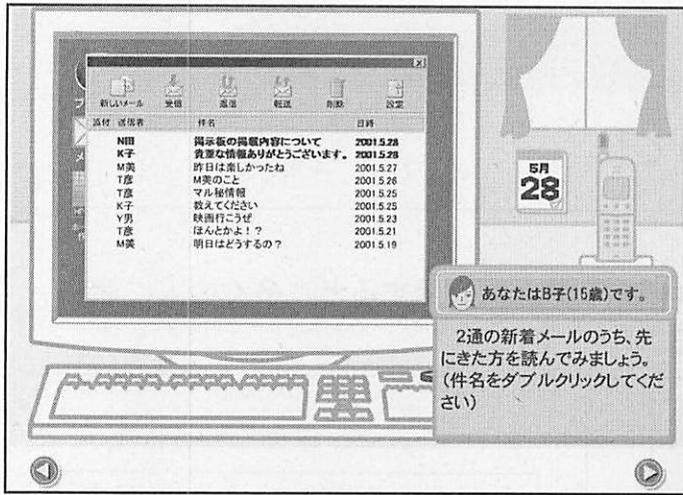
今日、近所の商店街のすしを食べてから、おなかをこわしてしまいました。他の人が同じ目にあわないよう、地元の掲示板で知らせておきましょう。



「昨日、△▲商店街の「○●」に行った後、おなかをこわしてしまいました。かなり症状がひどく、食中毒にちがいません。店内はきれいそうだけど、絶対行かない方がいいよ。」

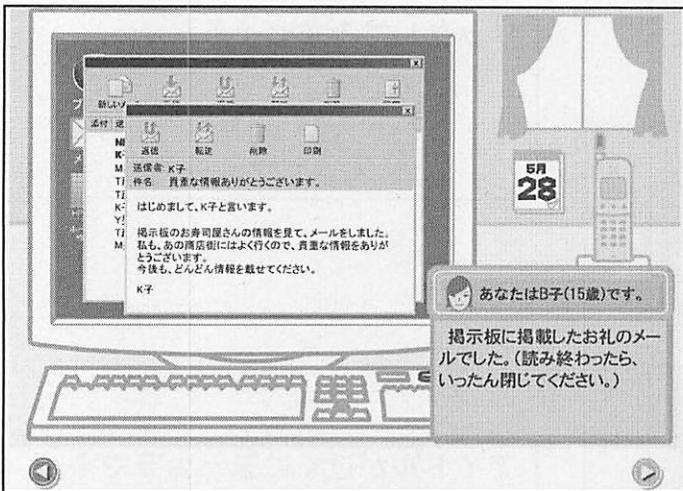


掲示板に書き込まれたのを確認したら、ブラウザを閉じてください。

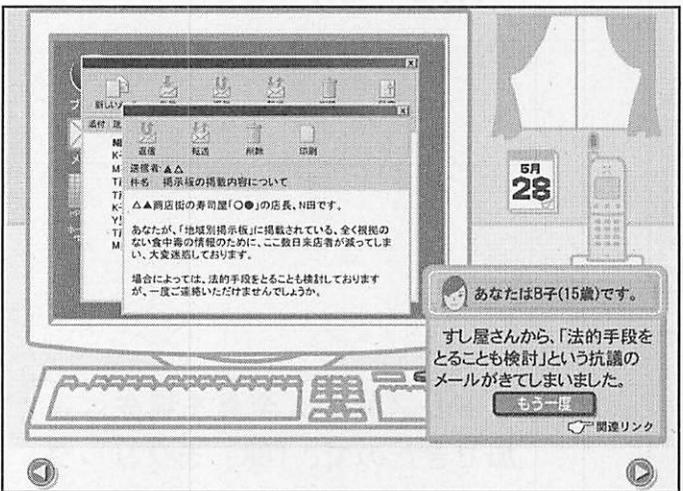


2通の到着メールのうち、先にきた方を読んでみましょう。

「貴重な情報をありがとうございます。」



掲示板に掲載したお礼のメールでした。



すし屋さんから、「法的手段をとることも検討」という抗議のメールがきてしまいました。

関連教材

事例から学ぶ

- ・ 情報公開は慎重に

授業素材

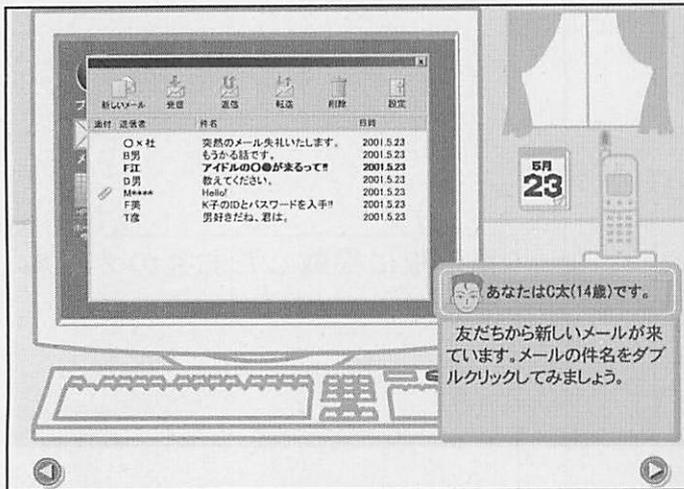
- ・ Web ページで発信する情報

デマ情報

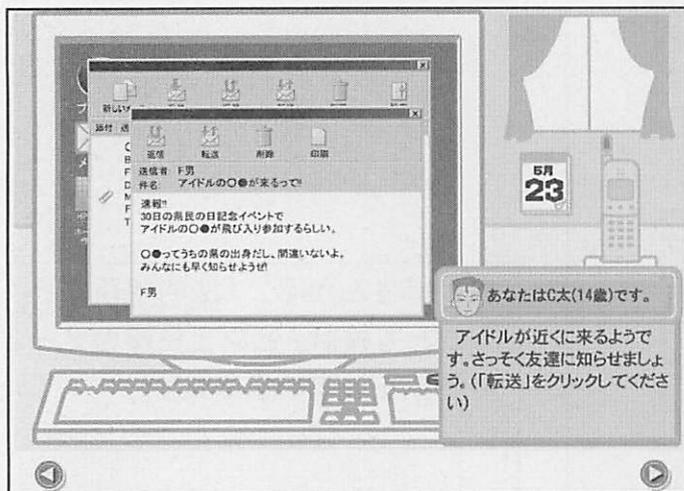
題材名：アイドルの○●が来るって!!

○授業の概要

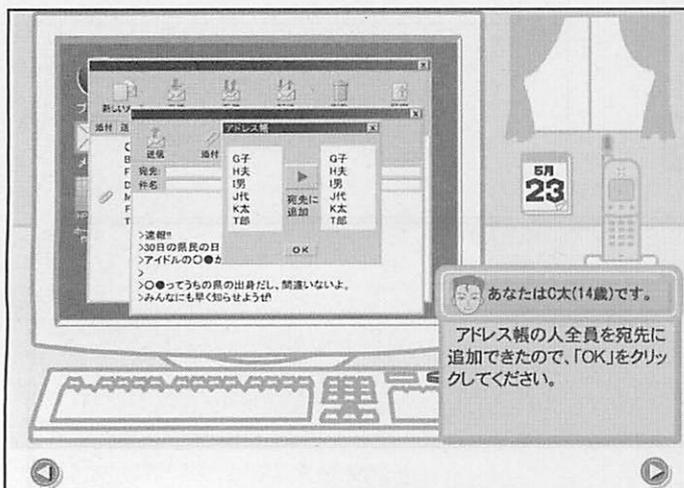
- ・ 不確かな情報をメールなどによりインターネット上に公開すると、多くの人に迷惑をかけ思わぬ事件に発展することもある。



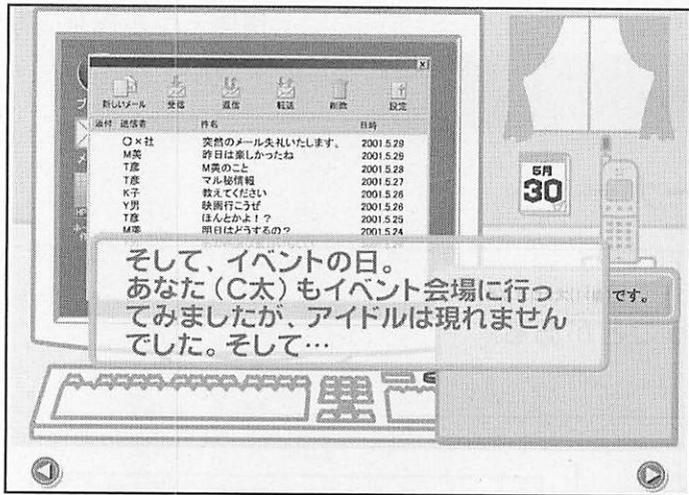
友だちから新しいメールが来ています。メールの件名をダブルクリックしてみましょう。



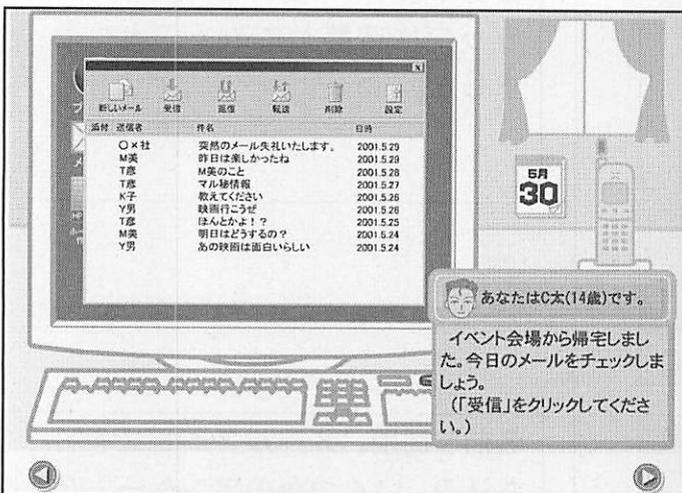
アイドルが近くに来るようです。さっそく友達に知らせましょう。(「転送」をクリックしてください)



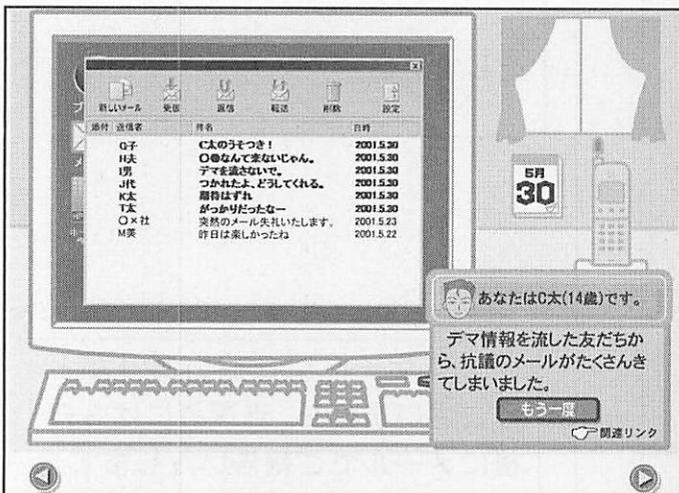
アドレス帳の人全員を宛先に追加できたので、「OK」をクリックしてください。



そして、イベントの日。
あなたもイベント会場に行ってみましたが、アイドルは現れませんでした。そして・・・



イベント会場から帰宅しました。
今日のメールをチェックしましょう。



デマ情報を流した友達から、抗議のメールがたくさんきてしまいました。

関連教材

事例から学ぶ

- ・ うその情報かもしれない

授業素材

- ・ インターネットの落とし穴

会員登録

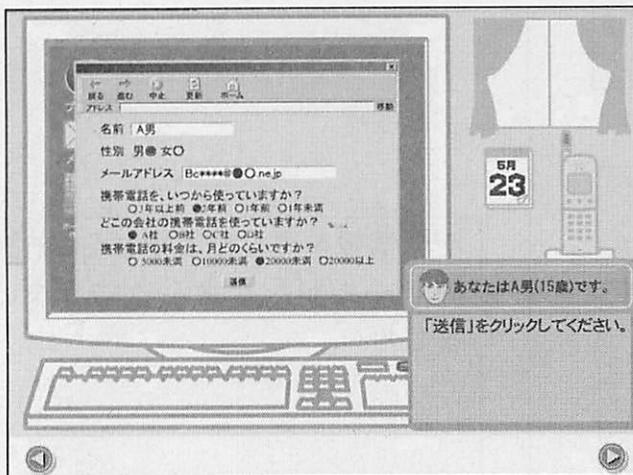
題材名：誰でも当たる！懸賞コーナー

○題材の概要

- ・ 個人情報と思わぬ場所から漏れてしまうことがある。



「誰でも当たる！懸賞コーナー」とあります。A男くんは携帯ストラップに応募してみることにしました。



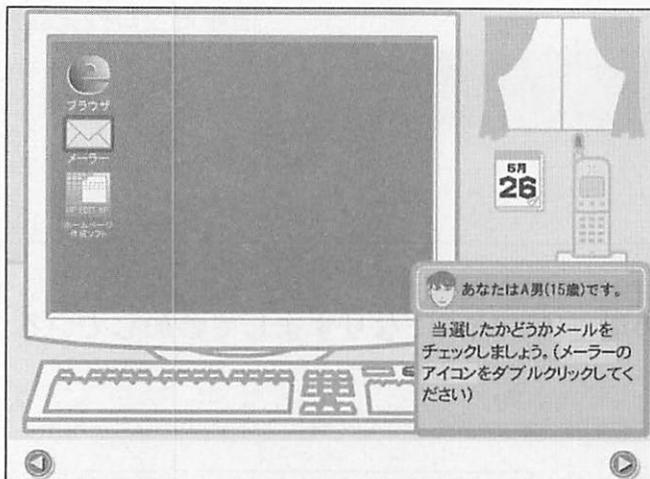
名前、性別、メールアドレスを打ち込み、いくつかのアンケート項目に答えました。

そして送信。

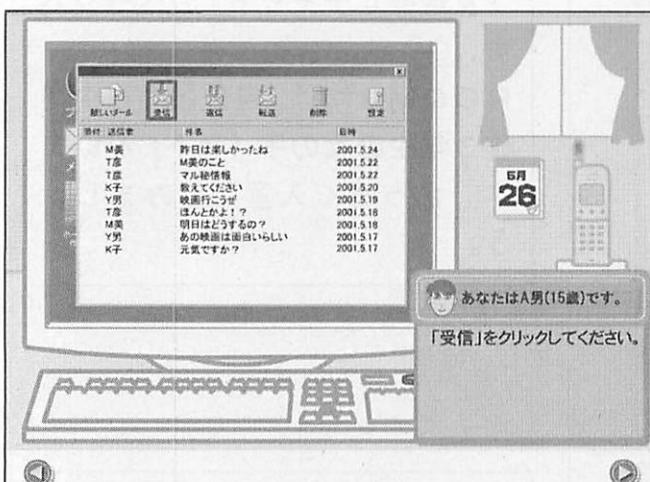


「アンケートにご協力ありがとうございました。当選者には3日後にメールでご報告いたします。お楽しみに！」とのこと。

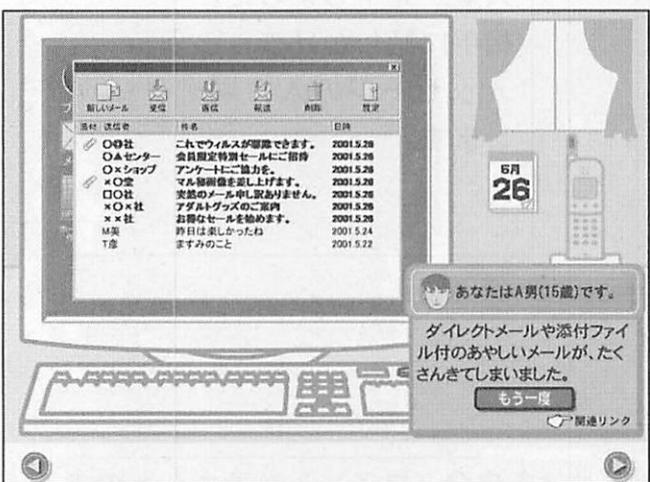
その後、3日が過ぎました。



当選したかどうかを確認します。
メーラーをチェックしましょう。



「受信」をクリックします。



ダイレクトメールや添付ファイル付きの怪しげなメールがたくさんきてしまいました。

関連教材

事例から学ぶ

- ・ 流用された個人情報

授業素材

- ・ 個人情報の収集に使用されるWebページ

交流サイト

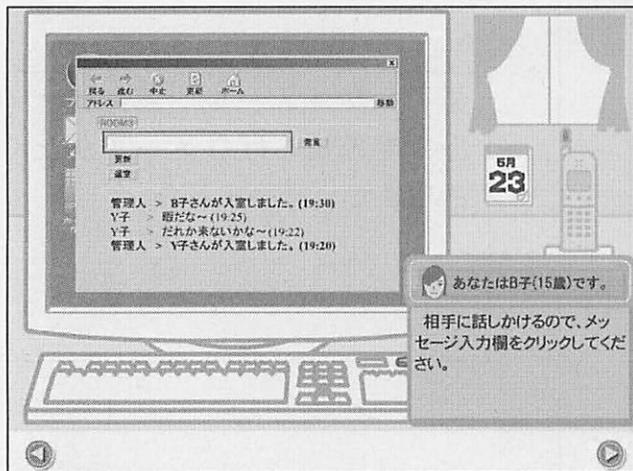
題材名：友達探しチャット

○題材の概要

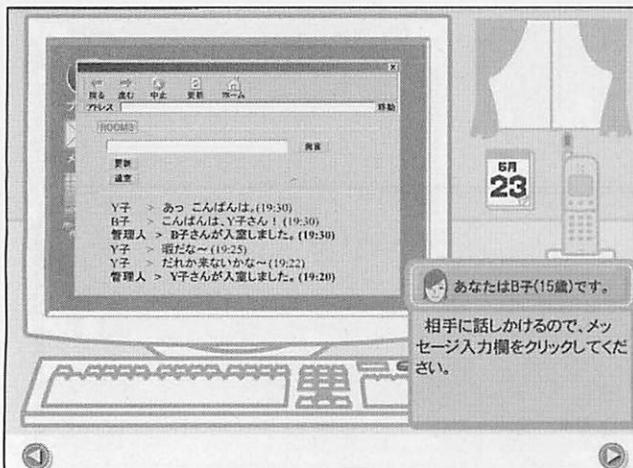
- ・「チャット」と呼ばれるネット上の交流の場では、他人になりすまして参加しているひとがいる可能性がある。



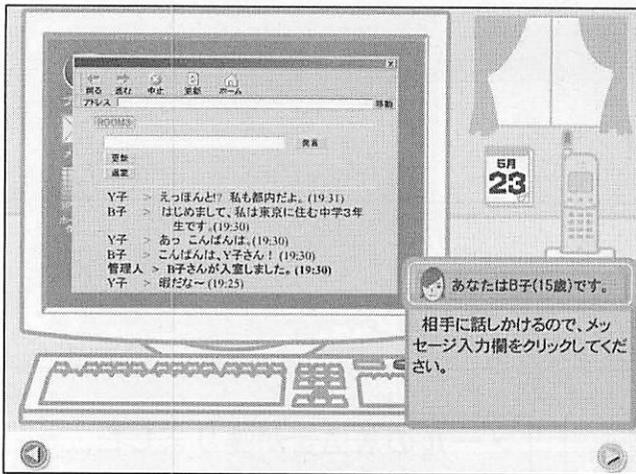
「友達探しチャット」のページです。
ROOM3には、自分と同じ中学校3年生の女の子（Y子）がいます。さっそく入室してみましょう。



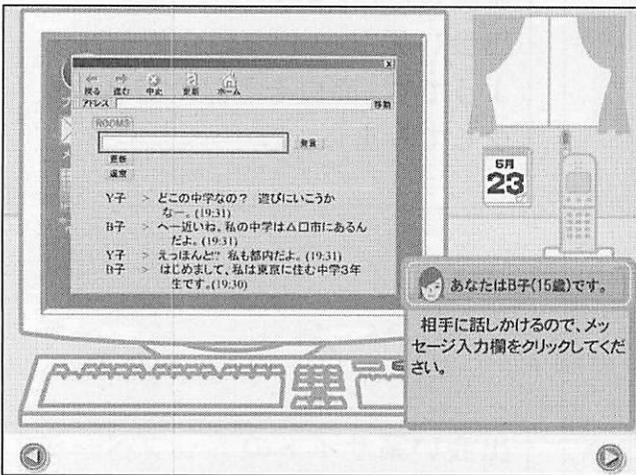
入室が完了しました。
相手に話しかけましょう。
メッセージの入力欄をクリックします。



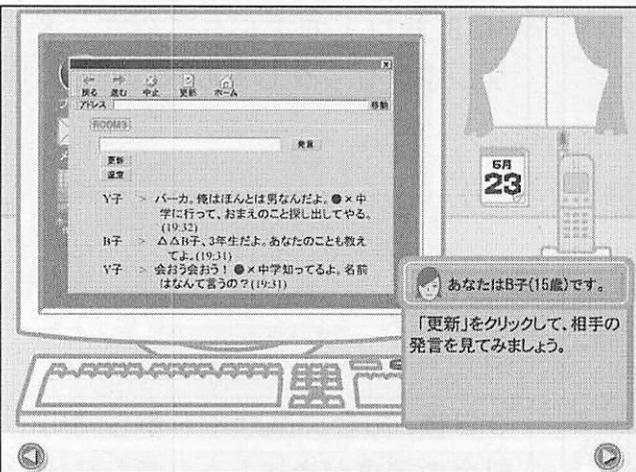
自分（B子）とY子さんとのチャットが始まりました。



B子は「はじめまして。私は東京に住む中学3年生です。」と簡単な自己紹介をしてからチャットを進めていきます……。



通学している中学校の場所を教え合ったりして、チャットが進行していきますが……。



会話の相手は女子中学生のふりをしてB子さんをだましていたのです。

関連教材

事例から学ぶ

- ・ 偽りの自己紹介

授業素材

- ・ インターネットの出会いのページで見知らぬ人に出会う

携帯電話

題材名：思いがけない請求が来た！

○題材の概要

- ・迷惑メールで不正請求されることがある。



メールの着信音が鳴りました。確認してみたところ……。出会い系サイトの紹介メールのようです。面白そうなのでクリックしてみましょう……。



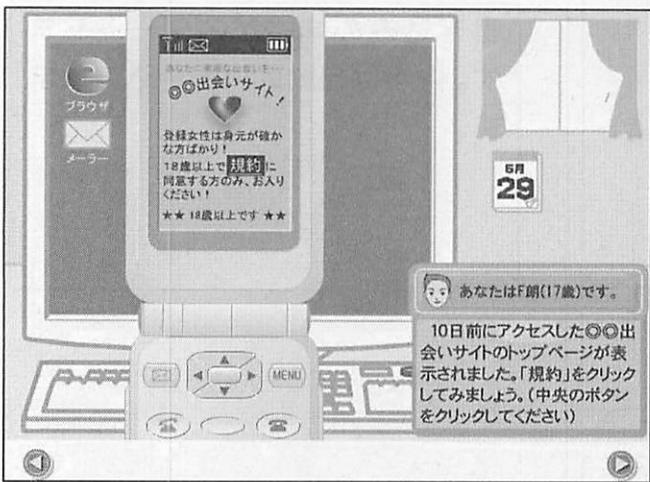
出会い系サイトのトップページが表示されました。軽い気持ちで「18歳以上です」を選んで、ボタンをクリックしてみました。



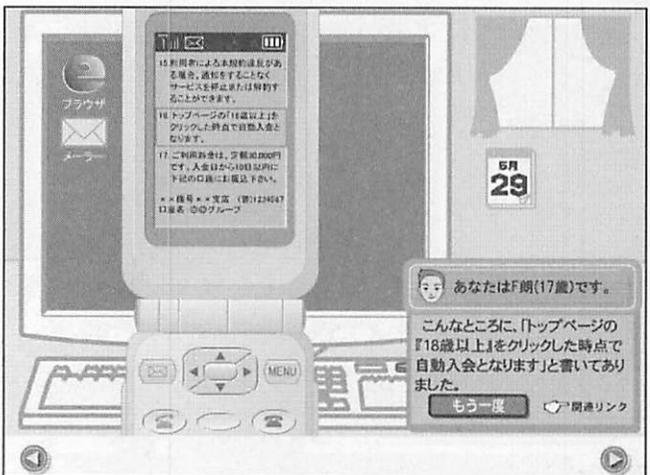
3日後、出会い系サイトから利用料金の請求がきました。でも登録した覚えもないし、あれ以来アクセスもしていないので無視をします。



さらに1週間後、また利用料金の請求がきました。しかも今度は「支払わないと自宅に来る」と書いてあります。
……利用規約を念のため確認してみましょう。



10日前にアクセスした出会い系サイトのトップページから、規約の部分をクリックして、内容を確認してみます。ところが、なかなか知りたいことが書いてありません……。



なんと、ページのずっと下のほうに「トップページの『18歳以上』をクリックした時点で自動入会となります」と書いてありました。

関連教材

事例から学ぶ

- ・ワン切り電話で不正請求

授業素材

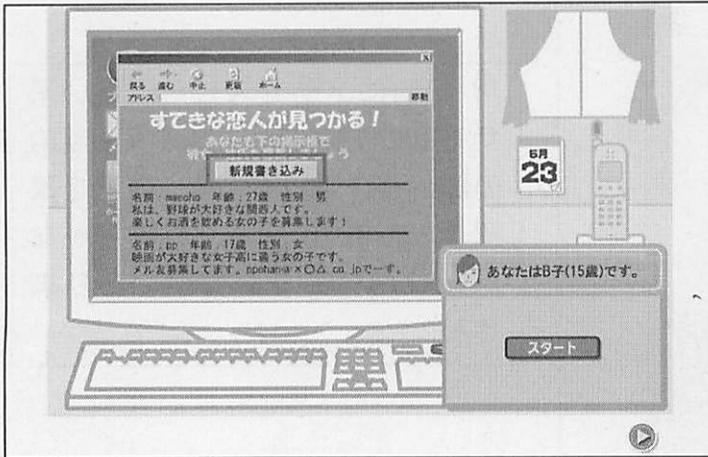
- ・携帯電話を利用するときの心構え

個人情報

題材名：住所・氏名などの個人情報を公開すると…

○題材の概要

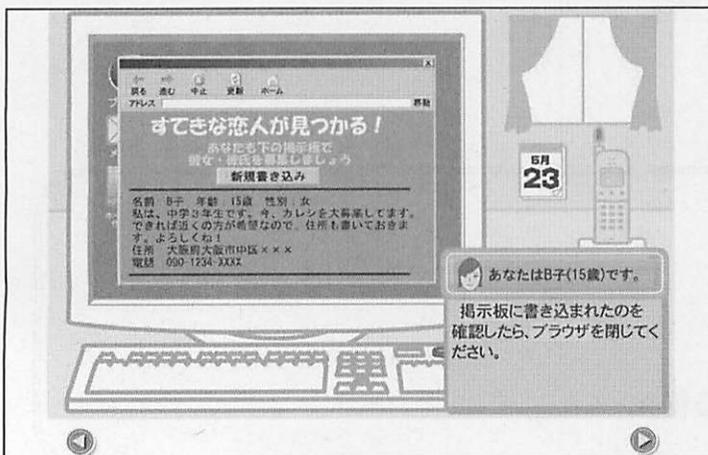
- ・ 掲示板に必要な以上の情報を書き込んだことにより、あやしい電話や訪問者が来るようになってしまう。



書き込みの体験がスタートします。内容は自動的に書き込まれます。



あなたはB子(15歳)です。
書き込みができたので、「OK」をクリックしてください。



あなたはB子(15歳)です。
掲示板に書き込まれたのを確認したら、ブラウザを閉じてください。

ここで一端止めて、どういうことが起こるか生徒で話し合わせても良いでしょう。



あやしい雰囲気を感じる演出がされています。

関連教材

事例から学ぶ

- ・勝手に友だちの情報を公開すると

授業素材

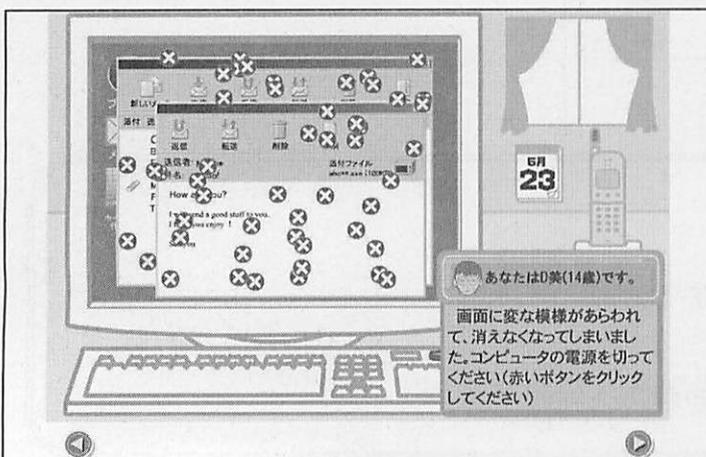
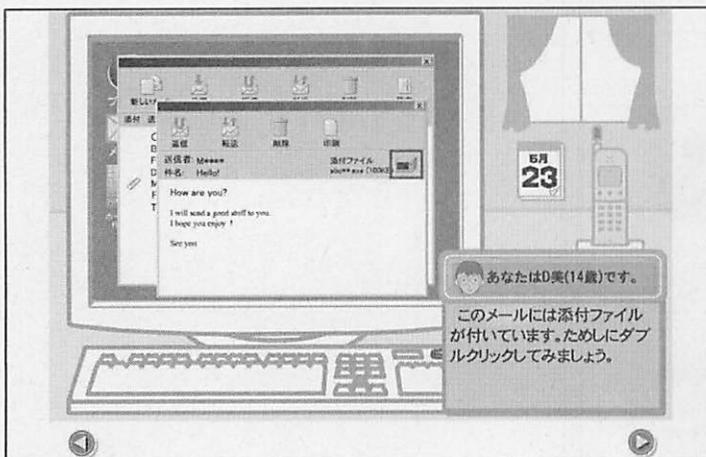
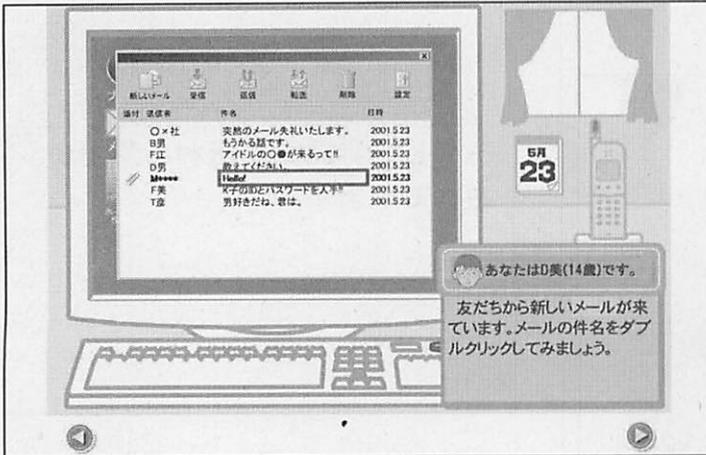
- ・住所・氏名などの個人情報を勝手に公開すると

ウイルス

題材名：コンピュータウイルスへの対応

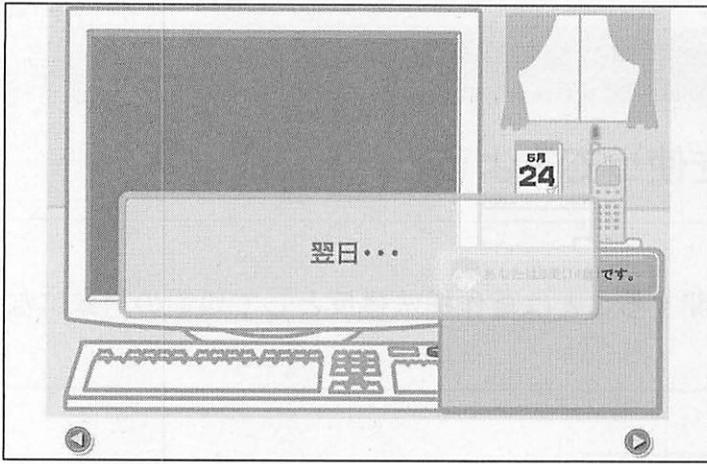
○題材の概要

- ・よくわからない添付ファイルを開いてしまうことにより、ウイルスに感染してしまう。
そして意図せずに他の人にもウイルスを感染させることになってしまう。

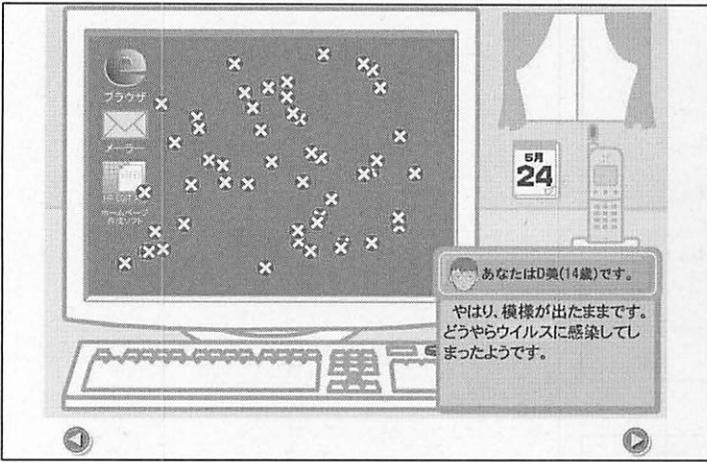


※自己伝染、潜伏、発病など微生物のウイルスと似た行動をするので「コンピュータウイルス」と名付けられています。

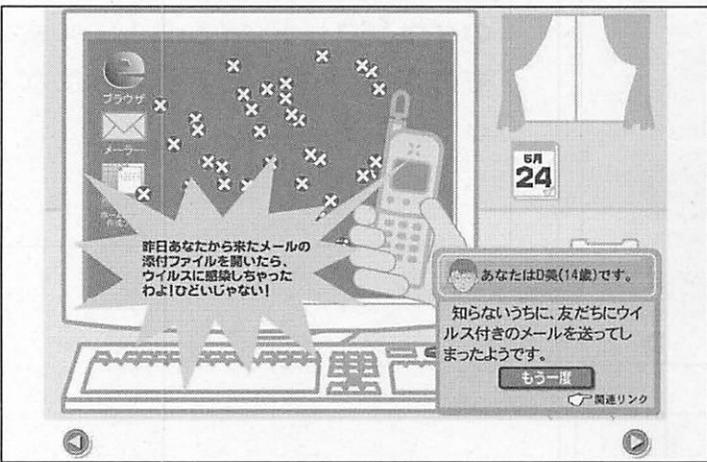
画面を書き換えて、動作不能にしてしまうウイルスの例が紹介されます。



ここで一端止めて、何が良くなかったのか話し合っても良いでしょう。



ワクチンソフトで駆除しない限りウイルスは消えません。



自分で特に操作をしなくても、メールの送受信の履歴等から勝手に伝染させていきます。

関連教材

事例から学ぶ

- ・いつのまにか感染源に

授業素材

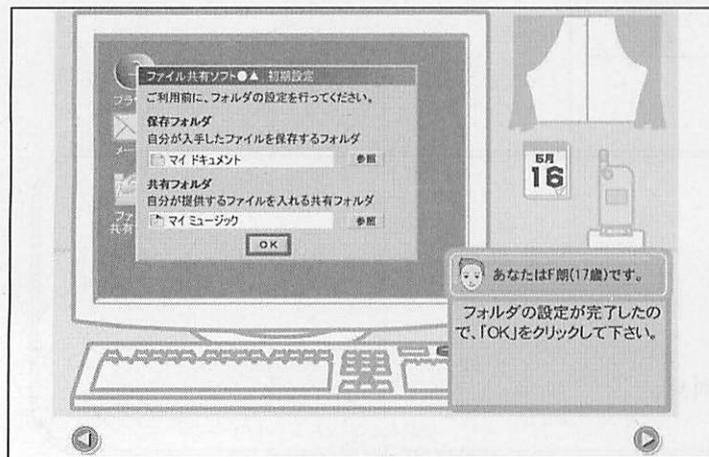
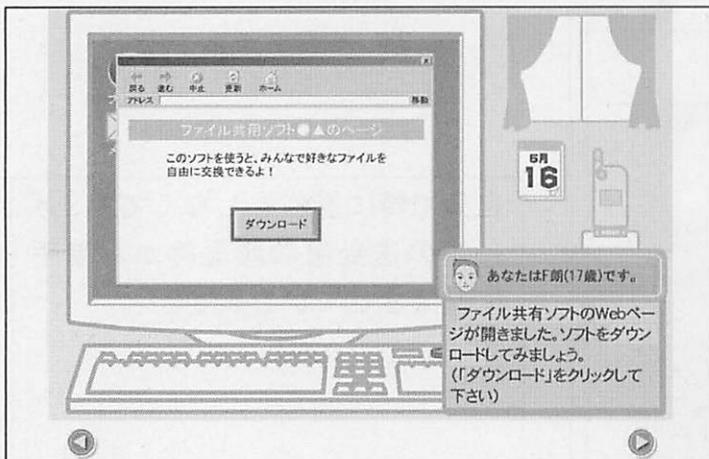
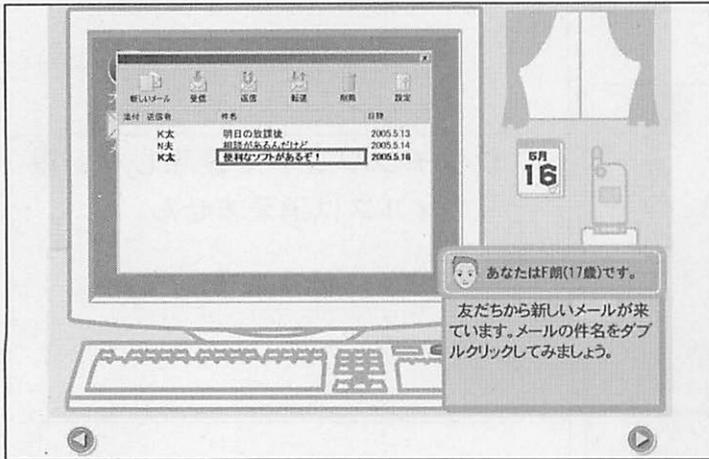
- ・コンピュータウイルスへの対応

著作権

題材名：ファイル共有ソフトを使ってみよう

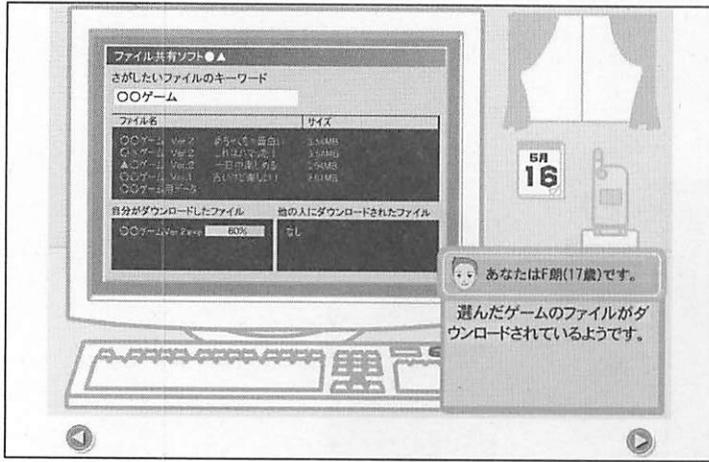
○題材の概要

- ・著作権のあるものを無断で複製、公開することは著作権法違反として処罰の対象になることを知る。

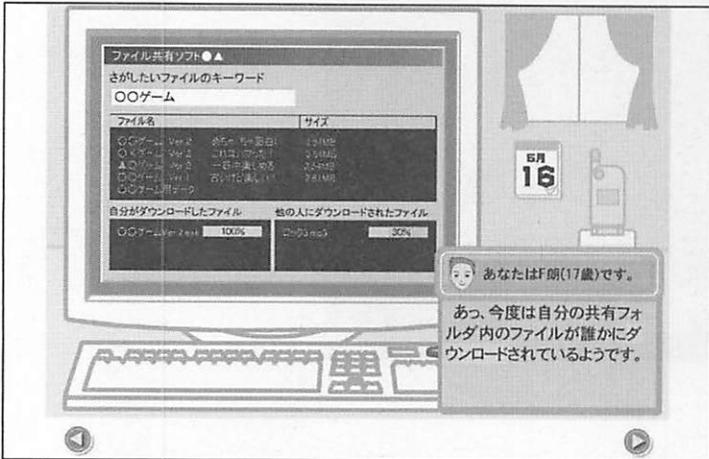


仮想のホームページからソフトのダウンロード、インストールまでの流れが体験できるようになっています。

ここで意図しない情報流出の事件などの話題を扱っても良いでしょう。



公開されているファイルをダウンロードする様子が体験できます。



自分のファイルも誰かにダウンロードされていることに気付かせましょう。



「しないほうがよい」ではなく、「違法行為」であることを確実に伝えましょう。

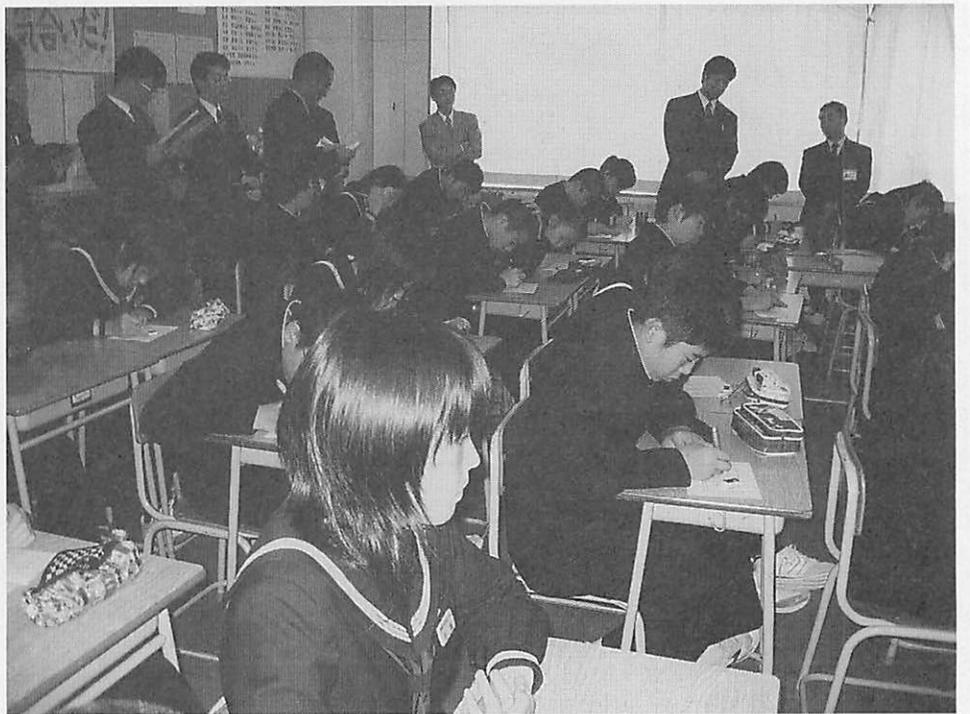
関連教材

事例から学ぶ

- ・ 無断コピーは法律違反

授業素材

- ・ Web ページ作成や情報発信時には著作権の配慮を





4. 授業実践例

情報モラルについての授業（小5・学活）

1. 題材名 「チェーンメールの対処の仕方」

2. 授業にあたって

情報化の急速な進展に伴い、情報通信ネットワークも急激に発展しており、従来までのコミュニケーションや情報のやり取りの形態を大きく変え、実際、子ども達もインターネットを通じて提供された多くの情報を学習に活用している。また、日常生活に目を向けても、「家庭に1台パソコンがある」「家族（成人）1台ずつ携帯電話を持っている」といっても過言ではない。

しかし、情報社会の光の部分の学習や生活に有効活用している一方、情報の影の部分に対する問題も指摘されている。まさに諸刃とも言える情報社会の中、子どもたちが被害者にも加害者にもならないために、「何々をしてはいけない」というような対処的なルールを身に付けることはもちろんだが、それだけにとどまらず、ルールの意味を正しく理解し、新たな場面でも正しい行動がとれるような考え方や態度、すなわち「モラル」を育てることが大切である。現在、市内各小学校には、「ジャストスマイル3@フレンド」が導入されている。この中に、授業で使える情報モラル教材が、20の実践にまとめられていて、誰にでも「情報モラル」についての指導ができるようになっている。

今回は、近い将来、ほとんどの子ども達が日常的に活用するであろう「Eメール」について取り上げ、「チェーンメールの対処の仕方」の学習を行う。そのため、事前学習でメールの基本的なこと（送受信や仕組み）は体験しておくものの、本授業は、チェーンメールの対処について正しい判断と行動がとれるような考え方や態度に重点をおき、機器操作の技術ではなく情報モラルの意識を高めたい。そして、近い将来、実際に自分たちがパソコンや携帯電話などでメールを行う際、正しいモラルと技術で有効活用して欲しい。

子ども達は、1年生からパソコンの基本的操作（起動や簡単なソフト）の学習を行っており、インターネットを活用した学習は3年生から行っている。また、5年生になってからは、自己紹介ページの作成の際、イラストや文字入力を経験している。※インターネット検索の際、文字入力は3年生で経験済み。

今回、クラス29名にアンケートをとった。その結果が以下である。

- | | | | |
|---------------------|---|---------|-------------|
| Q1：家にパソコンはありますか？ | はい～20人 | いいえ～9人 | |
| Q2：インターネットはできますか？ | はい～17人 | いいえ～3人 | |
| Q3：自由にできますか？ | はい～15人 | いいえ～2人 | |
| Q4：メールを知ってますか？ | はい～28人 | いいえ～1人 | |
| Q5：やったことはありますか？ | はい～11人 | いいえ～18人 | ※家族、友達とやった。 |
| Q6：やりたいと思いますか？ | はい～7人 | いいえ～11人 | |
| Q7：自分用の携帯電話が欲しいですか？ | はい～25人 | いいえ～4人 | |
| Q8：どうして欲しいですか？ | ※メールをやりたい ※便利だから ※カメラを使いたい
※インターネットをしたい
●必要ないから ●無くても困らない ●公衆電話を使えばいい | | |
| Q9：自分の携帯を持っていますか？ | はい～3人 | いいえ～25人 | |

※自由には使っておらず、家族との通話場面でのみ使用。

このように、現段階では、携帯電話やメールについては、日常的に使用していないが、「携帯電話が欲しい」「メールがしたい」という意識は非常に高い。

3. 教育環境・使用機器・ソフトなど

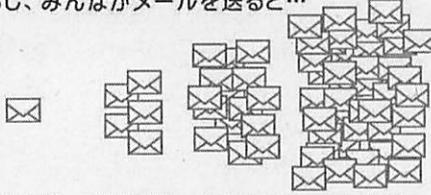
- ジャストスマイル3@フレンド
- プロジェクタ

4. 本時について

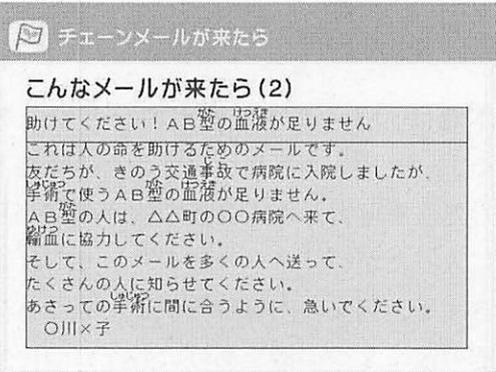
(1) 本時のねらい

- ・チェーンメールについて知り、正しい対処法を身につける。

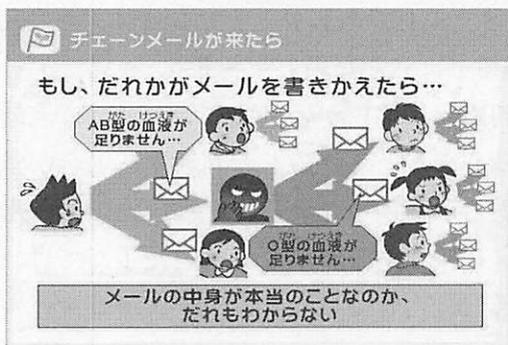
(2) 本時の展開

学習過程	主な学習活動・内容	教師のはたらきかけ
<p>導入</p> <p>課題把握</p> <p>解決活動</p>	<p>①メールチェックをして、各自対応する。</p> <div data-bbox="232 488 810 629" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>お得な情報！ 明日 10 時にジャスコに行くと、おやつがもらえます。とりあえず 5 人の友達にメールで教えてあげてね。</p> </div> <p>②本時の学習課題を知る。</p> <div data-bbox="232 770 629 842" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>こんなメール来たたら、どうする？</p> </div> <p>③提示されたメール（例 1）（例 2）を読んで、自分ならどうするかを、ワークシートに記入する。</p> <p>（例 1） ～スライド 6 B - 1～</p> <div data-bbox="237 1081 733 1451" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>チェーンメールが来たたら</p> <p>こんなメールが来たたら (1)</p> <p>あなたがあぶないよ！！ おねがひだからさいごまで読んで！ でないと、あなたになにかよくないことが起こっちゃうよ。 このメールにはフシギナチカラがこめられていて、読んだ人にヨクナイコトが起こるようになってるの。その人が一番イヤなことが起こるようになっていうノロイがかけられてるんだって。 でも、助かる方法が一つだけあるから、教えてあげる。このメールをそのまま 5 人の人に送るの。もし送らないと・・・あなたには・・・</p> </div> <p>・例文を読んで、ワークシートに記入する。 ・自分の考えを發表する。</p> <p>・スライド 6 B - 3 を見て、図の意味を考える。</p> <div data-bbox="237 1648 733 2011" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>チェーンメールが来たたら</p> <p>もし、みんながメールを送ると...</p>  <p>1通 - 5通 - 25通 - 125通 →625通→3125通→15625通→78125通→390625通→...</p> </div>	<p>○教師側から、各パソコンへメールを送っておく。</p> <p>○机間巡視を行い、児童の対応を概ね把握する。</p> <p>○本時の学習課題を提示する。</p> <p>○自分の考えの理由も記入させる。</p> <div data-bbox="770 1144 1398 1323" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>いたずら・不幸の手紙型の内容なので、チェーンメールの特徴からではなく、内容的に「送らない」と判断する児童が多いと思われる。</p> </div> <p>※情報モラルではなく、道徳的判断をすると予想される。</p> <p>○「送る」「送らない」に分け、理由についても、概要でまとめる。</p> <p>○スライド 6 B - 3 を提示し、図の意味を考えさせる。不十分な場合は、説明する。</p> <div data-bbox="879 1693 1449 2011" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>1 通のメールを 5 通ずつ転送していくと、1 2 回転送された時点で 2 億 4 千万通あまりになり、日本の人口を超えてしまいます。みんながメールを送っていくと、メールを止められなくなってしまいます。</p> <p>また、メールサーバーというメールの中継地点にあるコンピュータが麻痺してしまい、インターネット全体が遅くなったり、重要なメールが届かなくなってしまうことも考えられます。</p> </div>

(例2) ～スライド6B-2～



- ・例文を読んで、ワークシートに記入する。
- ・自分の考えを発表する。
- ・スライド6B-4を見て、図の意味を考える。



- ◎ (例1、例2) のようなメールを「チェーンメール」ということを知る。

チェーンメールの定義
「多くの人に送る」ようにさせるメール

- 課題解決
- ④ (例1) と (例2) について、対処法について考える。
 - ・どうするのがいいのかを考え、その理由も発表する。

- ⑤ 最初に送信されたメールに対して、どうしたらいいか再考する。

- 整理
- ⑥ チェーンメールの対処法について、まとめる。
 - ・どんな内容であれ、転送しないことを理解する。
 - ・チェーンメールの対処法について、どうすればいいのかをワークシートに記入する。

人助け型の内容なので、チェーンメールの特徴からではなく、内容的に「送る」と判断する児童が多いと思われる。

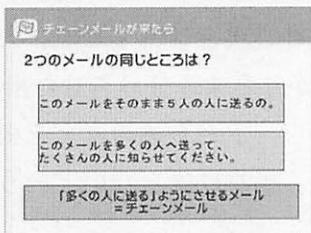
※ここでは、内容から道徳的な判断をした児童の考えを尊重し、チェーンメールの定義を学習した際、内容ではなく、「チェーンメールだから、送らない」へ導く。

- 「送る」「送らない」に分け、理由についても、概要でまとめる。

- スライド6B-4を提示し、図の意味を考えさせる。不十分な場合は、説明する。

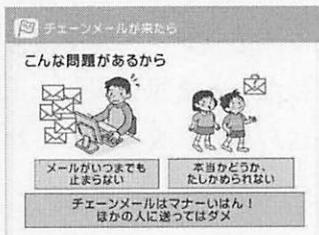
もし、途中で悪い人がメールの文章を書き換えたら、どうなるでしょう。
メールに書かれている内容が正しいかどうか、確かめられずにどんどん広まってしまう。

- スライド6B-5を提示する。
- 問題点を明確にさせる。



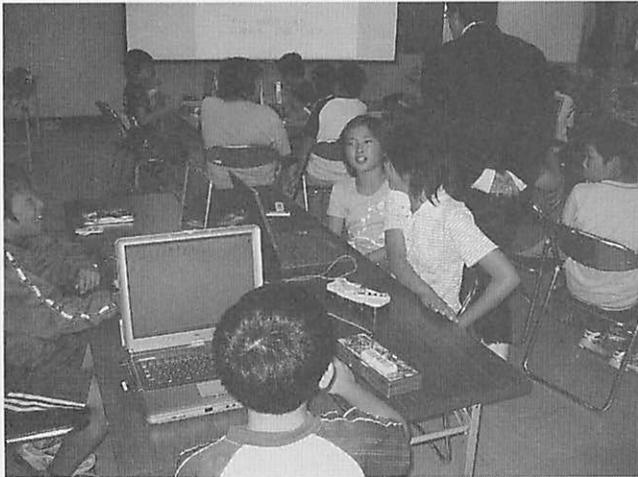
- 導入時を振り返らせ、対応の変化を確認する。

- スライド6B-6を提示する。



- 【評価】
- ◆ 例1、例2について、それぞれの問題点を確認し、統一した対処法としての「送らない」を理解できたか。(ワークシート)

5. 授業を終えて



本時は、メールの問題点のひとつである、「チェーンメール」について、その特性と正しい対処法を学習した。身近な内容の文から、授業に入ったが、「メールのやりとり」に意識が向きすぎ、例文の内容吟味が不十分であった。

その後、2つの例をあげ、各々について考えさせた。

例1については不幸の手紙型、例2については人助け型の内容である。どちらも、「チェーンメール」であるが、子ども達は、その定義を

学習していないので、文の内容を考え、道徳的に、「送る」「送らない」を判断していた。

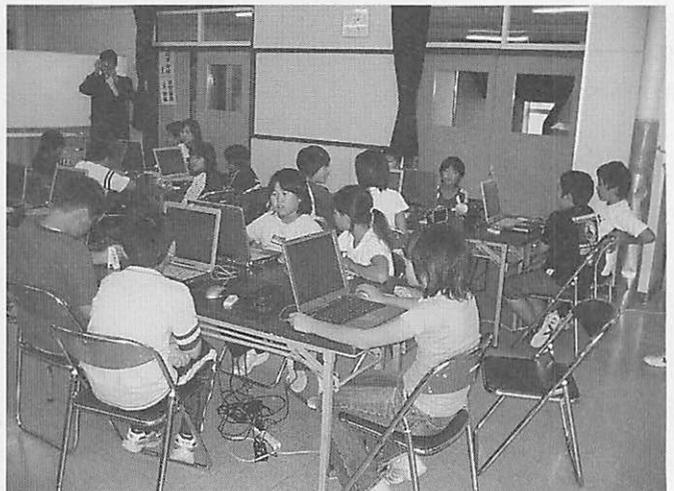
例1については、内容から判断して「送らない」と判断しやすいが、例2については、人助け型の内容なので、「困っている人を助けない」という道徳心のもと「送る」と判断するケースが多い。ここで、問題になるのが、情報モラルと道徳的判断である。「困っている人を助けない」という心は素晴らしく、尊重したい。しかし、これはチェーンメールである。そこで講じた手だては、その考えを認め賞賛した上で、チェーンメールの定義を指導し、内容ではなく、「チェーンメールだから送ってはいけない」ということを理解させた。

つまり、「困っている人を助けない」という気持ちは正しいが、それを「メールの指示通り送る」という行動はいけない」ということである。

チェーンメールの対処法を学習する際、大切なことは、道徳心を尊重しつつ、チェーンメールの特性及び定義をしっかりとすみ分けさせた指導である。

本時は、例文を示し、子ども達の考えを引き出しながら進めたが、最終的には、「チェーンメールの正しい対処法は、絶対に送らないということ」をしっかりと理解させることができたものと考えられる。

現状では、児童が日常的に携帯電話やパソコンでメールをしている実態はほとんどない。しかしながら、近い将来、ほとんどの子が携帯電話を使用してメールをすると予想される。その時、実際にチェーンメールを受信した時、本時で学習したことを思い出し、正しい対処法（絶対に送らない）をとってくれることを期待している。



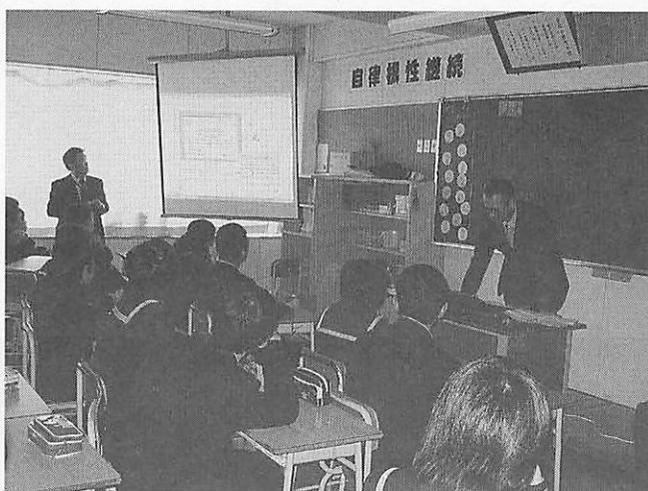
情報モラルについての授業（中1・学活）

1. 題材名“なりすまし”（他人の名前での書き込み）について

2. 授業にあたって

多くの情報とそれを扱う情報機器が身近にあふれる現在、それらに対応できる主体的な資質や能力を身に付けることはこれからの社会の中で活躍していく生徒にとって必要不可欠なことである。このような情報化に対応した資質・能力を身に付けさせるために、平成14年度から実施された中学校学習指導要領では、技術・家庭科の「情報とコンピュータ」を基礎的な知識や技能の学習の場と位置付け、教科指導においても、「指導計画の作成などに当たって配慮すべき事項」として、積極的にコンピュータや情報通信ネットワークを活用していくことを示している。

その一方で、情報機器の形態の多様化と利便性がここ数年で急速に高まったことにより、子どもでも簡単に操作をすることが可能になっている。そして、社会あるいは私たち大人の間で、これらの機器の使用についてのモラルが形成される前に、子ども達の間で急速に普及が進んでしまったという現状がある。そして、近年、「情報モラル」についての指導の必要が急速に高まってきているといえる。そのような中で、例えば、独立行政法人教員研修センターでは、“情報モラル研修教材2005”というサイト集をHP上に公開し、誰にでも「情報モラル」についての指導が簡単にできるよう、いろいろな教材を用意している。



こういったモラルに関する指導は、本来的には学校の役割ではないという意見があるかもしれないが、緊急の課題であることは間違いない。今回の授業を受ける生徒全員が、携帯電話やパソコンを所有しているわけではないが、今後こういった情報機器に触れる場面が必ずあるはずである。機器の形態が変化しても、基本的なモラルは同じであると考え、応用範囲の広い内容を目指したい。

また、今回の授業では、「なりすまし」について、いくつかの事例を紹介する。この場合の「なりすまし」とは、「他人のユーザIDやパスワードを盗み、その人になりすましてネットワーク上で行動すること」や、「その人が保管する情報や、その人しか見られない機密情報を盗用し、悪事を働きその人のせいにすること」を指す。便利な情報機器も、使い方ひとつで大変なことになってしまうことを伝えたいと考えている。実感がわきにくい場合には、他人の名前で手紙を書くことや、いたずら電話など、身近にありがちなことを例として進め、最終的には、一人ひとりが自分自身の問題として考えられるようにしたい。

3. 生徒の実態

携帯電話やパソコンを使用してメールのやりとりやWebの閲覧をしている生徒は26名と、全体の約7割にのぼる。このうちの1名は、携帯電話とパソコンの両方を日常的に利用しているとのことである。

この26名に「他人のメールアドレスをどのくらい知っているか」という質問をしてみたところ、アドレスの数は10前後という回答がもっとも多かった(12名)。次いで5前後(8名)、20前後(4名)となる。30以上という生徒は2名だけであった。

さらにこの26名に、掲示板の利用やチャット、インターネットショッピングなどの利用経験について聞いてみたところ、掲示板とチャットの利用経験がある生徒が10名ずつであった。その他、ゲームやインターネットショッピングの利用経験があるものが数名ずつ。なお、掲示板の利用やチャット、インターネットショッピングなどすべてについて経験があるという生徒も2名いた。

「携帯のメールなどで嫌な思いをしたことがありますか」という問いには、ほとんどの生徒(24名)が「ない」と回答しているが、2名の生徒が「ある」と回答している。

以上のように、約7割の生徒が携帯電話やパソコンを日常的に使用している。おそらく今後、ほとんどすべての生徒が、何らかの形でメールのやりとりやWebの閲覧などをする場面が出てくると思われる。現在の段階では「携帯のメールなどで嫌な思いをしたことがありますか」という問いに、ほとんどの生徒が「ない」と回答しているが、情報機器の発達や、利用形態の多様化などにより、さまざまな角度から「情報モラル」の教育が必要になってくると思われる。

4. 教育環境・使用機器・ソフト

機器 無線LANが利用できるノートパソコン
デジタルプロジェクタ

資料 独立行政法人教員研修センター(テッド) 情報モラル研修教材 2005
http://sweb.nctd.go.jp/kyouzai_new/kenshu/index02.htm



情報モラル研修教材 2005

研修のすすめ方 - 中学校の先生 -

研修のすすめ方・中学校の先生

この研修のすすめ方(研修のすすめ方)は、情報モラル・セキュリティなどについて個人でもわかりやすく学べるように工夫されていると同時に、グループでの研修に際しても講師が問題事例などを選択して効果的な展開をしやすいように構成されています。

「情報モラル研修教材 2005」の中学校向け題材一覧

◎は優先度の高いもの、○は優先度の低いものです

体験から学ぶ	◎ 地域別掲示板
体験から学ぶ	○ ウェブログを作ってみよう
事例から学ぶ	○ 情報公開は慎重に
事例から学ぶ	○ 誤解を招いた個人情報
授業資料	○ Webページで発信する情報
授業資料	○ Webページ・掲示板での個人情報の扱い
体験から学ぶ	◎ 検索サイト
事例から学ぶ	◎ 偶然出会うという有害サイト
事例から学ぶ	○ 無料ダウンロードの危険

5. 本時について

(1) 本時のねらい

- ①インターネットでは、簡単に他人に“なりすまし”ができることを知る。
- ②他人の名前を使ったり、身分を偽ったりすることにより、どんなことが起きるか理解する。

(2) 本時の展開

指導過程	主な学習活動・内容	教師のはたらきかけ
導入	① “なりすまし” の事例を知ることができる。	○ “なりすまし” の事例を紹介する。 ★情報モラル研修教材 2005 『友達さがしチャット』のページ 「こういった例を何とというか知っていますか」 ※導入として軽く扱う程度にする。
課題の把握	②本時の学習内容を知ることができる。	○学習内容を知らせる。
	インターネット上での、“なりすまし”について考えよう。	
解決のための活動	③インターネット上での“なりすまし”の例を知ることができる。	○インターネット上での“なりすまし”について事例をさらに紹介する。 ★情報モラル研修教材 2005 『男好きだね、君は』のページ
	④教材に出てきた人の行動は、どんなところがいけなかったのか、また、なぜそれは良くないことなのか、考えることができる。	○ “なりすまし” について考えさせる。 ・意見交換をもとに、どんな問題があるか、考えさせる。 * 法律上の問題 * 心情的な問題 など
	⑤このような“なりすまし”の被害にあわないようにするためにはどうしたらよいのか、考えることができる。	○ “なりすまし” を防ぐ手だてを考えさせる。また、“なりすまし” に使われる個人情報に注目させる。 * 氏名、メールアドレス、電話番号など ※ここで、『友達さがしチャット』の例では、何がまずかったのか考えさせたい。
	⑥このような被害にあったときは、どうしたらよいか考えることができる。	○ “なりすまし” をされたときの対応を考えさせる。 * 管理者に連絡する * 大人に相談する など
整理	⑦学習内容を振り返り、感想をまとめることができる。	○ “なりすまし” の問題点と対処方法について、学習したことをまとめさせる。

(3) 本時の評価

- ①インターネットでは、簡単に他人に“なりすまし”ができることが理解できたか。
- ②他人の名前を使ったり、身分を偽ったりすることは、問題であることが理解でき、今後の生活に生かそうとしていたか。

6. 授業を終えて

各学校でも、教室内でインターネットに接続できる環境が整いつつあるので、今回のようなサイトの教材を使用する授業は、プロジェクタとスクリーンがあればすぐに実践できる内容である。

今回の授業については、「情報モラル研修教材 2005」の画面が非常にわかりやすくできていたので、生徒はスムーズに内容を把握することができたようである。そのため、前段から明るく活発な雰囲気の中で授業を進行することができた。

ただし、今回の授業では、携帯電話やパソコンのメールにかかわる危険性など、情報機器の「良くない面」ばかりを強調しすぎたために、生徒からの意見は活発ではあったものの、その内容にはあまり多様性が見られなかった。生徒自身が「考える」ことが本時の課題であったので、この「考える」という点では、深まりが少ない授業になってしまった。

問題発生の原因はあくまでも「使い方」であって、「情報機器そのもの」ではないことを授業者側でおさえ、生徒に誤解を与えないようにしなければならない。

「情報モラル」についての指導事項は多種多様である。こういった情報機器でのトラブルに巻き込まれた場面の指導において生徒に気づかせたい基本事項は、『自分ひとりで解決しようと思わない』で『保護者や教師などの身近な大人に相談する』ということである。今回の授業でも、後半の整理の段階ではこのことを意識した。個々の事例によって、細かい部分での対応はもちろん変わってくるが、『保護者や教師などの身近な大人に相談する』という基本が生徒に浸透していれば、情報機器に関する問題の多くは、ごく初期の段階で解決できると思われる。そういった「問題解決の基本」を意識して実践を積み重ねていきたい。



情報モラルについての授業（中1・学活）

1. 題材名「電子メールによるトラブル」

2. 授業にあたって

近年のコンピュータや携帯電話の機能強化、普及により、小中学生においてもそれらを使用する割合が増えてきている。

特に、電子メールに関しては、その簡便さなどを理由として爆発的に普及し利用されている。それに伴い、電子メールの特性（文字情報なので意味が正確に伝わりづらい、手軽に転送することができるなど）によるトラブルが増え、小中学生でも実際に起こっているのが現状である。

電子メールによるトラブルは、学校外でのことが多く表面化しづらい。また、広範囲に広がりやすいので事態を收拾しづらい。

したがって、対症療法ではなくて日ごろからの働きかけによるトラブルの予防をしていかなければならない。今回の授業はこのような働きかけの一環として行うものである。

3. 生徒の実態

本授業をおこなう学級は、比較的トラブルや問題行動が少ない。ただし、携帯電話を含む電子メールの普及率は50%を超え、一部ですでに電子メールによってトラブルになりかけたこともあった。生徒の特徴として、頭では分かっているものの実際の行動の中では、間違った方向のことをしてしまうということがある。これは、電子メールというまだその形態に慣れていないものにおいては、より一層懸念される。

一般的なインターネットの掲示板上でのマナーや注意事項に関しては、既に学習しているため、今回の授業ではより身近な問題としてとらえられるような工夫をしていく。

以下は事前調査アンケートの結果である。（有効回答数32名） ※太字は特に人数が多い項目

- | | |
|---|-------------|
| 1. コンピュータを持っていますか。 | 24人 (75%) |
| 2. コンピュータを家で使っていますか。 | 15人 (47%) |
| 3. コンピュータを主にどのように使っていますか。 → メール | 7人 (22%) |
| 4. コンピュータを使用していて不愉快な思いをしたことがありますか。 | 3人 (9%) |
| 5. 携帯電話を持っていますか。 | 17人 (53%) |
| 6. 携帯電話を欲しいですか。 | 11人 (34%) |
| { 携帯電話を持っている+欲しい | 28人 (88%) } |
| 7. 携帯電話を主にどのように使っていますか、または、使いたいですか。 → メール | 28人 (88%) |
| 8. 携帯電話を使用していて不愉快な思いをしたことがありますか。 | 3人 (9%) |

4. 本時について

(1) 本時のねらい

- ①文字情報しか持たない電子メールでは間違っただけの意味を相手に伝えてしまったりすることや、手軽さから安易に他人からきた電子メールを転送することでトラブルに発展するケースがあることを知る。
- ②電子メールでは特に自己責任において慎重に情報発信しなければいけないことを理解し、送信前に読み返すなどの態度を自ら考えることができる。

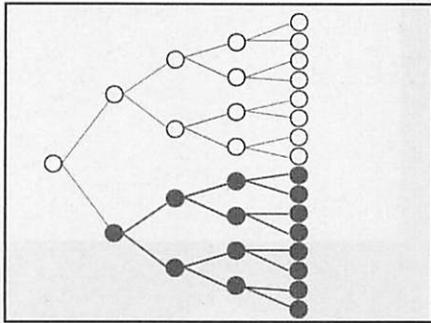
(2) 本時の展開

指導過程	主な学習活動・内容	教師のはたらきかけ
<p data-bbox="178 723 267 757">導入</p> <p data-bbox="178 1167 267 1261">解決のための活動</p> <p data-bbox="178 1771 267 1805">整理</p>	<p data-bbox="540 680 1133 725" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電子メールを送るときの心構えを考えよう</p> <p data-bbox="309 759 828 857">「ばかじゃない」というフレーズからどのような意味が考えられるかを考えワークシートに記入。</p> <p data-bbox="309 1200 828 1296">「ばかではない」「ばかだ」の二通りの意味を込め、実際に「ばかじゃない」というフレーズを声に出して言う。</p> <p data-bbox="309 1335 828 1431">文字情報だけ（例えば電子メール）では、感情や意味まで正確に伝えることが難しいことを知る。(ねらい①)</p> <p data-bbox="309 1469 828 1534">「〇〇と△△、2人できてたんだって」を問題として伝言ゲームをする。</p> <p data-bbox="309 1572 828 1668">※この時、意図的に意味を変えて伝言する生徒や、伝言の内容を面白がって他に伝える生徒がいると考えられる。</p> <p data-bbox="309 1841 828 1937">一番最後の生徒はどのような伝言を受けたか発表し、各列でどのように伝わったかを把握する。(ねらい①)</p>	<p data-bbox="856 759 1433 824">スクリーンに「ばかじゃない」を投影し、その意味を考えさせる。</p> <div data-bbox="940 857 1353 1155" style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p data-bbox="971 893 1295 913">送信者: △△△△△@〇〇〇〇〇〇.ne.jp</p> <p data-bbox="971 929 1207 958">件名: ばかじゃない</p> <p data-bbox="971 976 1253 1005">×××はばかじゃない。</p> <p data-bbox="971 1023 1295 1052">だってこの前なんて、……</p> </div> <p data-bbox="856 1200 1433 1296">肯定と否定の二つの意味に取れることを確認し、それぞれの意味を持たせた声で表現させる。</p> <p data-bbox="856 1335 1433 1431">電子メールとは文字によるコミュニケーション手段であることを確認した上で、電子メールのリスクについての視点を持たせる。</p> <p data-bbox="856 1469 1433 1534">「〇〇と△△、2人できてたんだって」を問題として、伝言ゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="890 1541 1422 1632">・ 8列中、4列の先頭に問題を見せ最後尾まで行ったら残りの4列に後ろから伝言させる。(伝言の人数を増やすため) <li data-bbox="890 1639 1422 1731">・ 一番最後の生徒は、伝言されたものを意味が分かるように紙に記入し、順に発表させる。 <div data-bbox="991 1765 1321 2000" style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p data-bbox="1013 1796 1222 1816">送信者: 釧路 花子</p> <p data-bbox="1013 1821 1259 1845">件名: きいてきて!</p> <p data-bbox="1013 1856 1136 1881">〇〇と△△、</p> <p data-bbox="1013 1895 1253 1919">ふたりできてたんだって!</p> </div>

1 → 2 → 4 → 8 …から、1 + 2 + 4 + 8 …
といくと、合計人数はどのように増加して
いくかを実際に数える。(ねらい①)

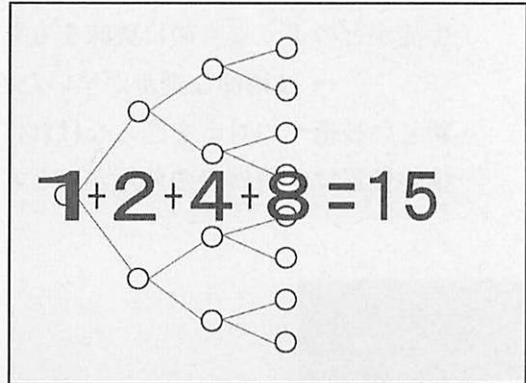
伝言ゲームでの「違った意味で伝わる
事」鼠算での「複数への送信による数の増
え方」をふまえたうえで、電子メールを使
うときに気をつけなければいけないこと、
トラブルを起こさないために行うことを
ワークシートへ記入する。

(ねらい②)



列ごとに、どのように伝言されていったかを
確認する。あわせて1. 意図的に内容を変えた
生徒、2. 内容を面白がって他に伝えた生徒が
どのくらいいるかを把握する。

例えば、これが実際の電子メールだとして2
人に送信した場合、どのように人数が増えて
いくか図で描き数える。

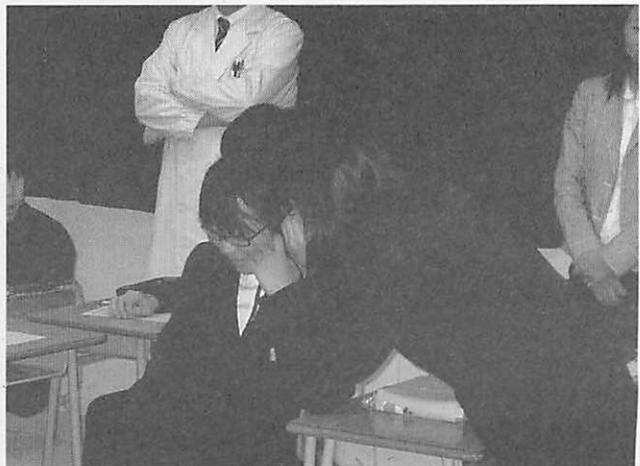
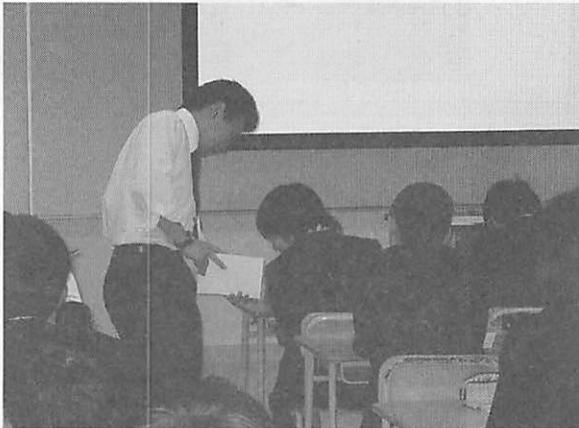


ワークシートへ記入させ、主だった意見を発
表させ、全体で確認する。

ねらい②電子メール使用時における
心構えを考えたことができたか
(ワークシート)

(3) 本時の評価

- ①文字情報だけだと意味が正確に伝わらないことを理解したか。
- ②安易に電子メールを転送することでトラブルにつながることを理解したか。
- ③電子メールを使う上で気をつけなければいけないこと（例えば、送信前に読み返す、はっきりと相手に伝わる言葉使いをする、など）を考えたことができたか。



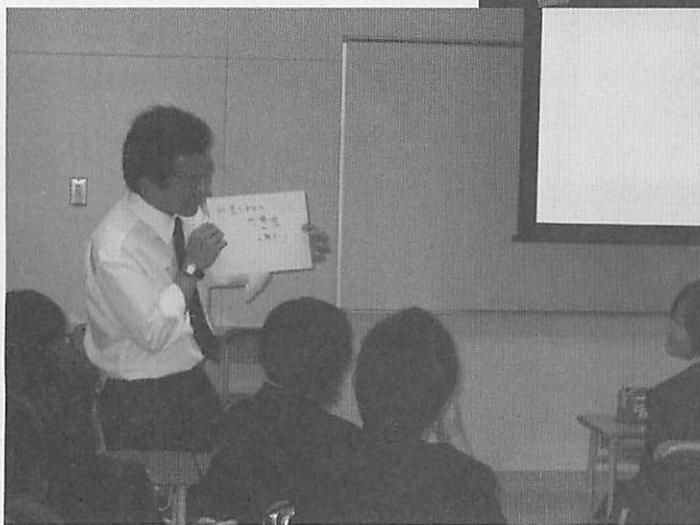
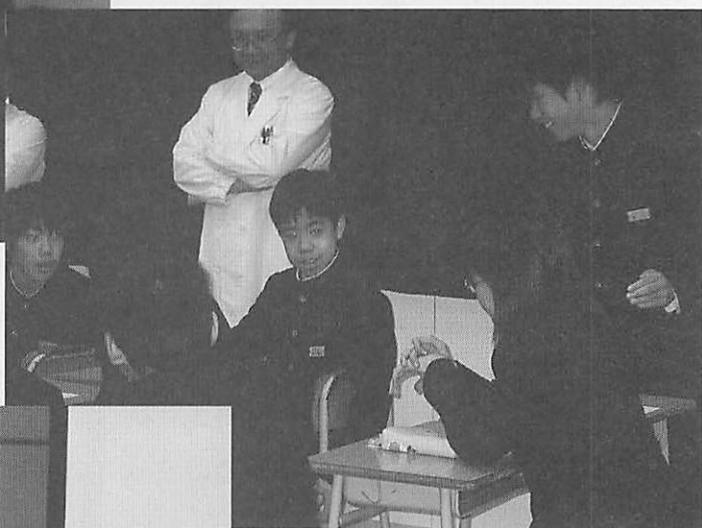
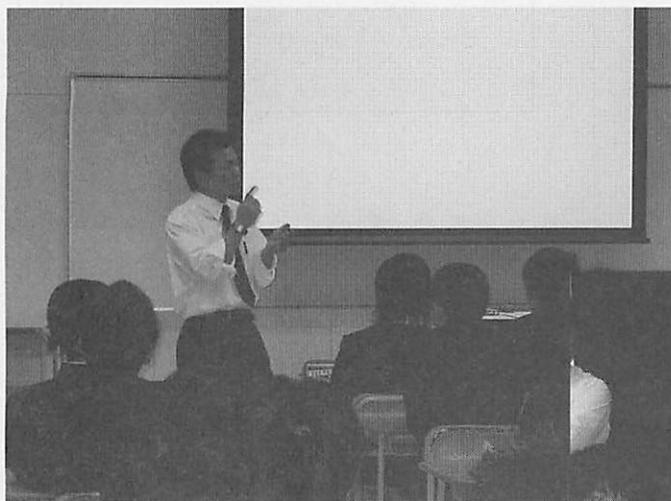
5. 授業を終えて

(1) 授業の様子

- ・電子メールは生徒にとってとても身近なものとなっており、授業内容が学級の実態とよくあっていて集中して授業に参加できていた。
- ・内容的に理解しやすく、ワークシートではこちらが意図する意見をあげていた。
- ・コンピュータを効果的に使う一方で、本授業はコンピュータを使用しなくても展開できるため、特別な知識が無くても授業をおこなうことができるものである。

(2) 今後の課題

- ・生徒がどのようなものにも興味をもち、実際に使っているかを定期的に把握しなければならない。
→ 技術的な進歩が早いため使用するスタイルがめまぐるしく変化していく。
- ・新しい技術への対応を図らなければならない。
- ・情報機器は学校外での使用がほとんどで、目の前で問題を把握、対処することができない。



おわりに

子ども達への携帯電話やパソコンによる通信の普及率は、ここ数年で急速に増えたものと思われます。それにともない、情報機器を使用する際のモラルの不足や欠如による事件・事故なども、全国的に報告されるようになってきています。

一昨年まで、教育工学研究専門委員会では、パソコンの利用形態やコンテンツについての情報交流など、「授業での活用方法」を中心に研究や授業実践を進めてきました。しかしながら、昨今の子ども達を取り巻く環境を考慮し、昨年「情報モラル」という、いわば「子ども達への啓発」を主眼においた内容で活動を進めています。

こういった情報機器にかかわるモラルは、本来、家庭が担うものではありませんが、学校現場も傍観しているわけにはいかない状況になっていることは、おそらく現場で教育活動にあたっている先生方も日々強く感じていることと思います。

私たち自身、今回の2年間にわたる活動の中で、試行錯誤しながらいくつかの指導案を作成し、授業実践を行いました。作成にあたって念頭においたことは、「児童・生徒への学習効果が高いこと」と「準備が大きな負担にならないこと」のふたつでした。

情報機器に係わる環境が、予想以上のスピードで変化している現在、この紀要で取り上げた内容がすべてというわけにはいかないと思いますが、明日にでもすぐ実践できる授業例を紹介しています。ぜひ目を通していただき、日常の指導に活用していただければ幸いです。

本紀要の制作にあたり、授業実践の場を提供していただいた市内各小中学校をはじめ、諸先生方に、感謝とともに厚くお礼を申し上げます。

副委員長 森 健一郎

教育工学研究専門委員会スタッフ

研究専門委員長	樋口 智一	(釧路市立朝陽小学校教諭)
研究専門副委員長	森 健一郎	(釧路市立幣舞中学校教諭)
研究専門委員	中島 健朗	(釧路市立鳥取小学校教諭)
	伊香 秀見	(釧路市立昭和小学校教諭)
	秋里 泰紀	(釧路市立景雲中学校教諭)
	岩堀 泰明	(釧路市立大楽毛中学校教諭)
前研究専門委員	篠崎 めぐみ	(深川市立一已中学校教諭)
担当研究所員	測本 浩之	(釧路市立美原中学校教諭)
	石塚 純三	(釧路市立美原小学校教諭)
前担当研究所員	秦 直人	(釧路市立駒場小学校教諭)

『ジャストスマイル3@フレンド』は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、『ジャストスマイル3@フレンド』にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

『ジャストスマイル3@フレンド』は株式会社ジャストシステム登録商標(商標)です。

第170号研究紀要

モラルにクリック！

～手軽に始められる情報モラルガイドブック～

平成19年 3月31日発行

編集・発行

釧路教育研究センター
〒085-0825 釧路市千歳町3番16号
電話 (0154)42-3311 番

印刷所

有限会社 三和堂印刷所
〒085-0814 釧路市緑ヶ岡2丁目12番20号
電話 (0154)41-6261 番